

有 東 遺 跡

第14次調査報告書

1997

静岡市教育委員会

序 文

南に駿河湾を望む静岡市は、古くから温暖な気候や変化に富んだ地理など自然条件に恵まれ、特別史跡登呂遺跡をはじめとして多数の遺跡が存在しています。特に平野部には、稲作農耕文化がこの地に根付いた弥生時代から古墳時代の遺跡が集中しています。

今回、遊技場建設に伴って発掘調査が実施された有東遺跡も、そうした時代の集落遺跡の一つであり、登呂遺跡の本ムラではないかといわれるなど、弥生時代の静岡平野の中において抜きん出た規模と内容を兼ね備えた遺跡です。有東遺跡の発掘調査は昭和22年の第1次調査に始まり今回で14度を数えます。第14次調査においては、集落の生活の一端を示す遺構・遺物が発見されました。

静岡市内には、他にも史跡賤機山古墳など、遠い祖先の残したかけがえのない文化遺産である埋蔵文化財が多数存在しておりますが、開発行為の件数が急増し、その対応策として記録保存のための発掘調査の件数も増加の一途をたどっております。こうした中で今回の発掘調査は、株式会社マルハンコーポレーションの委託を受けて、静岡市教育委員会が実施し、ここにその調査結果を静岡市埋蔵文化財調査報告43『有東遺跡―第14次調査報告書―』として刊行する運びとなりました。本書が、教育・文化・学術研究等に広く活用されることを願います。

最後に、文化財保護に深い御理解を賜りました株式会社マルハンコーポレーション、並びに関係各位に深く感謝申し上げます。

平成9年8月

静岡市教育長 織 田 元 泰

例 言

- 1 本書は、遊技場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査として、平成7年4月20日～6月26日に実施した静岡市豊田三丁目に所在する有東遺跡の第14次発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査は、株式会社マルハンコーポレーションから委託を受けた静岡市教育委員会が主体者となり、社会教育課 菊田宗、天石夏実、石川昌之を発掘担当者として実施した。
- 3 本書の執筆・編集は、菊田及び天石が分担して行ない、執筆分担は本文目次に明記し、文責を明らかにした。
- 4 出土遺物の実測、遺物・遺構トレース、版組等資料整理については、菊田・天石の他、図化作業員 石上元子・久保田明美・萩原礼子・望月貴之・尾崎りつ子・永島静乃・増田智子・山田由美子が行なった。遺物の写真撮影は、八木広尚・織田恵（社会教育課）・天石が行なった。
- 5 出土した石製品の石材鑑定については、伊藤通玄静岡大学名誉教授に鑑定を依頼し、ご教示いただいた。また、SD-02出土の植物遺体の分析については、佐藤洋一郎静岡大学農学部助教授に依頼し、その結果を付載した。さらに、火山灰及びプラント・オパール分析については、櫛古環境研究所に委託した。分析結果については、紙幅の関係上、概要を天石がまとめ、抄録として付載した。
- 6 調査資料は、全て静岡市教育委員会社会教育課が保管している。
(連絡先 〒420 静岡市追手町5番1号 TEL 054-254-2111)
- 7 発掘調査及び報告書の作成・執筆にあたっては、次の方々から御教示・御助言・御協力をいただいた。記して感謝申し上げる。

安藤広道・橋本裕行・伊藤淳史他弥生土器を語る会の諸氏、佐藤由紀夫、鈴木敏則、保坂和博、佐野五十三、渡辺康裕

凡 例

- 1 本文及び実測図に記した高度は、海拔高度をもって示した。
- 2 挿図中の方位は全て真北を示す。
- 3 実測図の縮尺については、遺構平面図・断面図等については1/50、1/100、1/200とし、遺物実測図については、土器・石器は1/3、木製品は1/6とし、各図に縮尺を示した。木製品実測図中、網かけ部分は炭化を示す。
- 4 各遺構の標記は本文・実測図において下記のとおりである。
SD…溝状遺構、SK…土坑、SX…性格不明遺構、SP…柱穴・小穴、SB…建物跡
なお、現地調査においては、各検出遺構に遺構略号・番号（例えばSD-001）をつけて遺物の取り上げ等を行なったが、資料整理の段階で一部変更した（例えば、SR-001をSD-09に変更等）。変更前・後の照合は、本文中の遺構一覧表に明記した。
- 5 遺物観察表中、復元法量は< >で、残存法量は（ ）で示した。

本文目次

序	文	
例	言	
凡	例	
目	次	
第1章	調査に至る経緯	(菊田) 1
第2章	調査の経過	(菊田) 2
第3章	立地と環境	(菊田) 4
第4章	調査の成果	(天石) 8
1.	基本土層	8
2.	検出した遺構	11
(1)	第1検出面	11
	水田遺構	
(2)	第2検出面	12
	溝状遺構・性格不明遺構、土坑、建物跡・柱穴 (第2検出面遺構一覧表)	
3.	出土した遺物	27
	土器、石器、木製品 (出土遺物観察表)	
第5章	まとめにかえて	(天石) 74
1.	検出遺構について	74
2.	出土遺物について	74
3.	第14次調査地点の遺跡内での位置付け	75
引用・参考文献		76
付載1	静岡市・有東遺跡出土の稲藁様遺体の生物学的分析	(佐藤洋一郎) 78
付載2	静岡市・有東遺跡第14次調査の自然科学分析(抄録)	(古環境研究所) 80

挿 図 目 次

第1図	調査区設定図	2
第2図	周辺の遺跡分布図	5
第3図	有東遺跡・有東縄子遺跡調査地点位置図	7
第4図	基本土層模式図	8
第5図	調査区東西南北トレンチ土層断面図	9・10
第6図	第1検出面遺構配置図	11
第7図	SD-01土層断面図	12
第8図	SD-09土層断面図	12
第9図	水田遺構畦畔1および畦畔2実測図	13・14
第10図	SD-04土層断面図	15
第11図	SD-02、03土層断面図	15
第12図	SX-01・02平面図及び土層断面図	16
第13図	SK-02、04平面図及び土層断面図	17
第14図	建物跡・柱穴群平面図及びエレベーション図(1)	19・20
第15図	建物跡・柱穴群平面図及びエレベーション図(2)	21・22
第16図	出土遺物実測図 土器(1)	29
第17図	出土遺物実測図 土器(2)	30
第18図	出土遺物実測図 土器(3)	31
第19図	出土遺物実測図 土器(4)	32
第20図	出土遺物実測図 土器(5)	33
第21図	出土遺物実測図 土器(6)	34
第22図	出土遺物実測図 土器(7)	35
第23図	出土遺物実測図 土器(8)	36
第24図	出土遺物実測図 土器(9)	37
第25図	出土遺物実測図 土器(10)	38
第26図	出土遺物実測図 土器(11)	39
第27図	出土遺物実測図 土器(12)	40
第28図	出土遺物実測図 土器(13)	41
第29図	出土遺物実測図 土器(14)	42
第30図	出土遺物実測図 土器(15)	43
第31図	出土遺物実測図 土器(16)	44
第32図	出土遺物実測図 土器(17)	45
第33図	出土遺物実測図 土器(18)	46
第34図	出土遺物実測図 石器(1)	47
第35図	出土遺物実測図 石器(2)	48
第36図	出土遺物実測図 石器(3)	49
第37図	出土遺物実測図 石器(4)	50

第38図	出土遺物実測図	石器(5)		51
第39図	出土遺物実測図	石器(6)		52
第40図	出土遺物実測図	石器(7)		53
第41図	出土遺物実測図	石器(8)		54
第42図	出土遺物実測図	石器(9)		55
第43図	出土遺物実測図	石器(10)		56
第44図	出土遺物実測図	石器(11)、木製品(1)		57
第45図	出土遺物実測図	木製品(2)		58
第46図	出土遺物実測図	木製品(3)		59
第47図	出土遺物実測図	木製品(4)		60
第48図	出土遺物実測図	木製品(5)		61
付図 1	第 2 検出面遺構配置図及び S D-02・03 縦断エレベーション図			袋入

図版目次

図版 1	航空写真		遺跡周辺航空写真
図版 2	土層断面		調査区北側トレンチ土層断面(西から)、調査区北側トレンチ土層断面(東から) 調査区東側トレンチ土層断面(A-3区)、調査区東側トレンチ土層断面(南から) 調査区南側トレンチ土層断面(C-1・C-2区)、調査区南側トレンチ土層断面(C-2区)
図版 3	遺構(1)		第 1 検出面全景(北東から)、第 1 検出面全景(北から) 畦畔 1 杭列・芯材配置状況(東端)
図版 4	遺構(2)		第 2 検出面全景(空中写真)、第 2 検出面全景(北東から)
図版 5	遺構(3)		S D-01土層断面(a-a'ライン)、S D-01遺物出土状態 S D-04完掘状況(北から)、S D-04土層断面(e-e'ライン) S D-04上層遺物出土状態(A-2・B-2区)、S D-09完掘状況(西から) S D-09土層断面(b-b'ライン)、S D-09鋤柄出土状態
図版 6	遺構(4)		S D-02・03屈曲箇所(南西から)、S D-02土層断面(2ライン;矢印植物遺体) S D-03土層断面(c-c'ライン)、S D-03土層断面(d-d'ライン) S D-02遺物出土状態(B-3d区)、S D-02遺物出土状態(B-3a区) S D-03遺物出土状態(B-2区)、S D-03上層?鳥形土器出土状態(B-2a区)

- 図版 7 遺構(5) …… S D-06完掘状況、S D-06近景(西から)
S X-01・02検出状況(南から)、S X-01・02完掘状況(南から)
S K-02焼土検出状況(南西から)、S K-03焼土検出状況(北西から)
S K-04焼土検出状況(南から)、S K-04遺物出土状態及び土層断面(東から)
- 図版 8 遺構(6) …… 柱穴配置状況(北半;北東から)、柱穴配置状況(南半;北から)
S P103半截状況(南西から)、S P163・164完掘状況(南から)
S P139・140他完掘状況(南西から)、S P9・10他完掘状況(北から)
S P197・199他完掘状況(南から)、S P82完掘状況(北西から)
- 図版 9 遺構(7) …… IV層除去状況(北西から)、IV層下部有孔膠製石鏃出土状態(北東から)
S D-02掘下げ作業
- 図版10 遺物(1) 土器
- 図版11 遺物(2) 土器
- 図版12 遺物(3) 土器
- 図版13 遺物(4) 土器
- 図版14 遺物(5) 土器
- 図版15 遺物(6) 土器
- 図版16 遺物(7) 土器
- 図版17 遺物(8) 土器
- 図版18 遺物(9) 土器、石器
- 図版19 遺物(10) 石器
- 図版20 遺物(11) 石器、木製品
- 図版21 遺物(12) 木製品
- 図版22 遺物(13) 木製品

第1章 調査に至る経緯

有東遺跡は、旧大谷村杉原字馬捨場で、の組合式木棺を主体部とする古墳の記述（文献1）や採集資料についての論文（文献2）等により『杉原古墳』・『馬捨場遺跡』として紹介され、古くから注目されていた遺跡であった。

この地区に、新たな画期が訪れたのが昭和22～23年に登呂遺跡発掘調査に併せて実施された、登呂遺跡の周辺遺跡調査である。この調査は、当時『登呂文化』と呼ばれていた当地域の弥生文化の究明に幅と深みを加えたいという目的から、地域的には登呂遺跡周辺、年代的には登呂遺跡の時代とその前後とされており、この条件に該当する馬捨場遺跡においては、2ヶ所で調査が行われた。この調査の中で、馬捨場遺跡とされている広大な範囲内において、北側は登呂遺跡と同時期、中央部は登呂遺跡に先行する時期、南側は登呂遺跡より新しい時期という時期差を指摘し、調査地点を『有東第一遺跡』『有東第二遺跡』として報告されている（文献3・4）。文献3においては、当遺跡の評価として「登呂遺跡の分村にたいしての本村」となる可能性が述べられており、また有東第一遺跡出土の土器を弥生時代の原添式土器と登呂式土器の間にあたるものとして『有東式土器』の設定もされている。

以後この地域の遺跡の把握は、文献1の古墳（杉原古墳）と文献2・3の遺跡（有東第一遺跡・有東第二遺跡）という捉え方の中で市街地化が進み、後述する発掘調査が周辺で行われ、それらの成果から1985年に現在の『有東遺跡』としての範囲が示された（第2図参照、文献5）。

今回の調査は、平成6年12月に株式会社マルハンコーポレーションより室内遊技場の建設計画に伴い埋蔵文化財の所在確認があり、計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地である有東遺跡の範囲内であったため協議を重ね、平成7年4月に調査対象区の東及び西隅に一辺1～2mの試掘坑を設定し遺構の埋蔵状況を確認した。

2箇所の試掘坑からは、溝状遺構と思われる遺構が土層断面で確認され、多数の弥生土器の破片が出土した。また、西側の試掘坑上層部から須恵器の破片が出土したため、これまであまり確認されていない古墳時代の遺構の検出も期待された。

調査体制

発掘調査実施機関	静岡市教育委員会
	教育長 石田徳行
	社会教育部長 谷川良巳
	部参事兼 藤田宗彦
	社会教育課長
	課長補佐 村田信一
	文化財保護係
	係長 溝間征夫
	副主幹 杉山彰福
	以下12名

事務処理は調査担当者及び望月健・岩田智穂（社会教育課）が実施した。

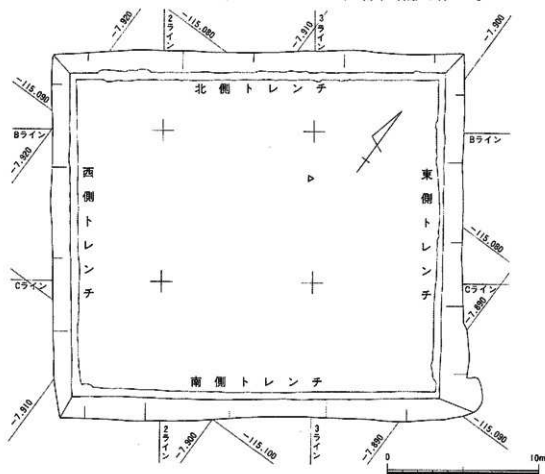
第2章 調査の経過

調査は、平成7年4月20日より6月26日まで、約675㎡を対象として実施した。ただし、調査対象外土層（表土＝造成土）の厚さとなる地表下約60cmまでの壁法面の確保と、湧水・雨水を排除する排水兼土層断面観察用の溝（トレンチ）を設置したため、実質的な調査面積は約480㎡である。

調査区について（第1図） 今回の調査では、調査区に平行・直行する10m方眼のグリッドを任意で設定し、航空写真測量の実施に併せて国家座標を設置した。調査において設定したグリッドの名称は、南北方向のものを西から東へ1・2・3…と算用数字を付し、東西方向のものは北から南へA・B・C…と大文字のアルファベットを付した。グリッドの名称はその北・西を画するグリッドラインの名称を用い、A-1区・B-2区などと呼称し、さらに各グリッド内を5m方眼に四分割し、北西・北東・南西・南東の順にa・b・c・dと小文字のアルファベットを付し、B-2a・B-2b…などとした。

調査の方法 調査は、重機により表土（Ia層）を除去し灰色粘土層（Ib層）を露呈させた後、人力により掘り下げ、遺構を抽出した。

記録は、写真撮影と実測図作成によった。写真撮影は主に6×7判の中型カメラ（白黒）及び35mmの小型カメラ（白黒・カラー）を使用し、一部4×5判の大型カメラ（白黒）を使用した。これに加え、航空写真測量に併せて実施した写真撮影では、6×7判の中型カメラ（カラー）を使用して上空から斜め写真の撮影を行い、大型カメラ（白黒）を使用して上空から垂直写真の撮影を行った。



第1図 調査区設定図（S＝ $\frac{1}{250}$ ）※△は稲葉様遺体出土地点

実測作業は、調査担当者を中心とした現地においての実測作業と中日本航空株式会社に委託（上記の航空写真撮影も同様）して実施した航空写真測量を併用し現地における調査期間の短縮を図った。

今回の調査においても火山灰同定、プラント・オパール分析、植物遺存体DNA分析などの自然科学等の成果・手段を用いて、総合科学的な調査を目指した。火山灰同定は、調査対象となる土層中より火山灰を抽出し、その起源を調べ、その降下年代を調査結果に対比することを目的とした。プラント・オパール（植物珪酸体）分析は、調査中に水田耕作が行われていた可能性が高い土層が確認されたため、その土層を分析し水田耕作の有無及び収穫量の推定を目的としている。この2つの分析は、株式会社古環境研究所に委託した。また、SD-02下層より出土した甕形土器底部内面に密着した形で集積していた植物遺存体について、静岡大学農学部助教授佐藤洋一郎氏に同定を依頼し、分析を実施して頂いた。

調査の工程 試掘調査実施後の本調査は、前述のとおり重機による表土除去作業を含めて4月20日から6月26日までの期間を要した。試掘調査では予想できなかった杭列を伴う畦畔部を含む水田遺構の調査に多くの時間を要したものの、ほぼ予定期間どおり現地調査を終了することができた。

以下に、現地調査における各工程を表にして示した。

調査工程表

月 日	4月	5月	6月
作業内容	11~20	21~30	1~10
試掘調査	-11		
重機表土（I a層）掘削	20	22	
調査器材搬入		21	
排水溝兼トレンチ掘り下げ		24~26	
＊ 内蔵水平面実測		26~27	
＊ 土層断面観察		28	
＊ 土層断面実測		9	
調査区グリッド設定	25~26		
レベル移動・ベンチマーク設置		26	
調査区設定図作成	26~28		
I b層掘り下げ・遺構検出	26	12	
II層掘り下げ・遺構検出		17~18	
III層水田写真撮影・平面実測		18	22
III層水田畦畔写真撮影・解体			23
＊ 杭列実測			26
III層掘り下げ・遺構検出			23~25
IV層水田？検出状況平面実測			26
IV層上面遺構検出（伊・磯田）		17	
SD-01掘り下げ		18	7
SD-02掘り下げ			26
SD-03掘り下げ			30
SD-04掘り下げ			1
SD-05掘り下げ			26~30
SD-06掘り下げ			2
SD-07掘り下げ			8~9
SD-08掘り下げ			
SD-09掘り下げ			
SX-01・02掘り下げ			6
SK-01掘り下げ			7
SK-02掘り下げ			
SK-03掘り下げ			
SK-04掘り下げ			8
ビット掘り下げ			
最終全体写真・航空写真測量			
自然科学分析サンプリング			
調査器材搬出			

第3章 立地と環境

遺跡の立地 静岡平野の南部に位置する「有東遺跡」は、JR静岡駅の東南東約2kmにあり、東に有度丘陵、西に安倍川、北西から北にかけては平野内に独立して存在する有東山・八幡山・谷津山、南に駿河湾を望み、標高約10m程の所に立地している。

現在の静岡平野は、その西側を分断するように安倍川が南下しており、有東遺跡は安倍川の左岸となる平野部南半のほぼ中央部にある。西に安倍川が形成した扇状地、東に有度丘陵西麓の谷部から排出された礫が形成した小扇状地群があり、南側となる駿河湾沿いには砂州・砂丘が一列存在し、三者に挟まれるような形で後背湿地となっている部分である¹⁾。

有東遺跡及び周辺遺跡の地形（微地形）については、文献24で加藤芳朗氏が述べられている。

この論文では、現在の微地形について、静岡平野内の土層堆積中に見ることができる伊豆天城火山の側火山カワゴ平の噴出物（約2900年前（縄文後～晩期移行期頃））の確認状況から、現地表面で見ることができる微高地、低地の配置の要は縄文後～晩期移行期以前に出来上がっており、その後堆積は、微高地と低地の高低差を縮めるように働いたと解釈されている。

この縄文時代後期～晩期移行期以前に出来上がった地形の高低差が少なくなった原因として、現在静岡市の西側を流れる安倍川・粟科川がもたらした多くの自然堆積物や、昭和28年に施行された市町村合併促進法によって当地においても多くの農村が合併し、農村的土地利用から都市的土地利用状況へと変化し、大規模な区画整理事業や市街地化の急速な広がりによって、人為的にもたらされた造成土によるものなどが考えられる²⁾。この農村的土地利用から都市的土地利用状況への変化は、昭和40年代以前まで平野南部に広がっていた田園風景に変化を与えるものとなり、地形・標高の変化だけでなく、景観の変化も著しいものがあったことと思われる。

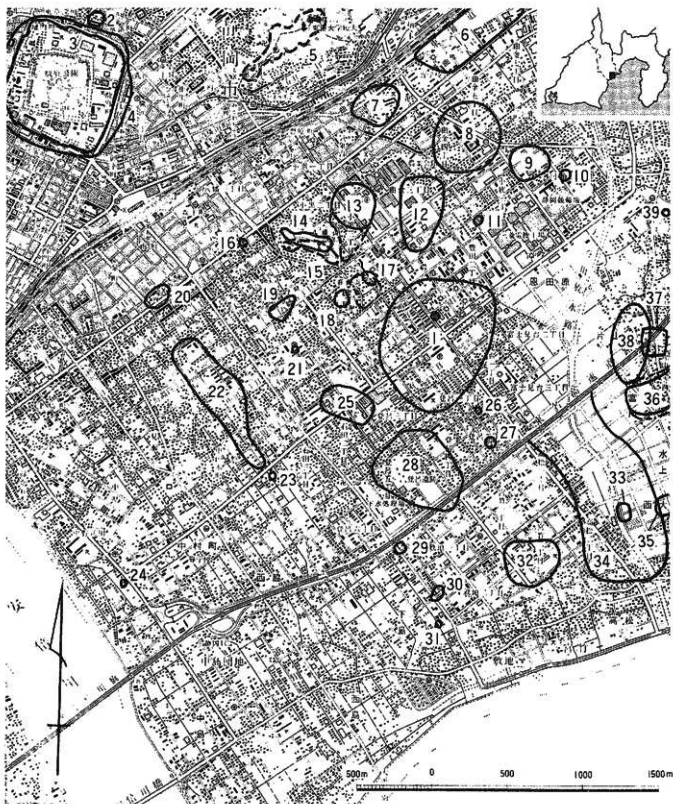
歴史的環境 弥生時代から古墳時代に生活の痕跡が認められる「有東遺跡」は、今回の調査を含め過去16回の調査が実施され、有東掘子遺跡の3回の調査を合わせると19回の調査が行われてきている。1991年までの結果（第12次調査まで）をふまえて、有東遺跡の集落の検討が文献25によって行われている。

この論文の中では、弥生時代中期と後期の集落構成形態の変化が推定され、その集落構成の変化に内在于する有東遺跡を構成する集団の質的变化や遺跡を取り巻く社会的変化などが検討されている³⁾。

有東遺跡で弥生時代後期に見られる土地利用の変化（中期段階で基域や居住域となっていた部分を、後期に水田として利用する状況）は、有東遺跡の南西約300mにある鷹ノ道遺跡でも確認されており、弥生時代中期に基域として利用されていた部分の多くが、後期には水田として利用されている⁴⁾。また豊田遺跡においても基域一水田域という変化の可能性が指摘されている（文献27）。

その他、登呂遺跡・汐入遺跡・小黒遺跡・有明遺跡・（有東掘子遺跡）なども、有東遺跡の周辺で弥生時代後期に遺跡の初現が認められている遺跡である。登呂遺跡や有東掘子遺跡は、有東遺跡との関係や集落の構造を考えるとときに重要となるものであろう⁵⁾、古墳時代前期の小黒遺跡のあり方も、当地域の拠点的な集落となる要素を多く含んだ遺跡であらう⁶⁾。

また、弥生時代の周辺遺跡の標高と現地表からの深さの差の多様性も文献23で述べたことがあるが、最近の調査（曲山北遺跡・八幡五丁目遺跡など）においても、地表下3mを越える深さで水田遺構の確認がされている。このような遺跡が立地する標高格差が、どのように立地条件（当時の周辺地形）や地盤構造などと関係しているのか興味深いものであり、遺跡の展開を考えるときに必要となってくるものであろう。



第2図 周辺の遺跡分布図 (S=1/5,000)

- | | | | | |
|-----------------------|--------------------------|---------------------|-------------------|----------------------|
| 1 有馬遺跡[弥生(中-後)、古墳、中世] | 10 小堀山古墳群[弥生(中世)] | 19 八幡堂丁遺跡[弥生-近世] | 28 遺物採集地点[古墳] | 34 元宮河神明所遺跡[縄文-中世] |
| 2 京 京澤遺跡[弥生-近世] | 11 草薙工場の遺跡[古墳、古代(奈良-平安)] | 20 福川遺跡[古代(平安)] | 29 氷室遺跡[古墳(前)] | 35 龍田遺跡[縄文、古墳] |
| 3 鞍倉城跡[中世-近世] | 12 聖白遺跡[弥生-古墳] | 21 安土商榷遺跡[弥生(後)] | 30 下馬遺跡[弥生-古墳] | 36 笠川遺跡[山石器-古代、近世] |
| 4 鞍倉城跡[弥生(中)-近世] | 13 小堀遺跡[弥生(後)-古墳(前)] | 22 ケイセイ遺跡[古墳、古代、中世] | 31 遺物採集地点[弥生] | 37 片山岡寺跡[古代(奈良-平安)] |
| 5 岩倉山古墳群[古墳(前-後)] | 14 八幡山城跡[中世(前段)] | 23 唐土寺跡[弥生、古墳] | 32 沙入遺跡[弥生、古墳、中世] | 38 龍田遺跡[弥生(後)、古墳、近世] |
| 6 前金北遺跡[弥生、古代-中世] | 15 八幡山古墳群[弥生(後)] | 24 中野橋了遺跡[弥生(後)] | 33 大宮橋の坪部能勢跡[中世] | |
| 7 唐土寺跡[古墳、古代(奈良-平安)] | 16 八幡堂丁遺跡[古墳] | 25 福ノ遺跡[弥生-古代] | | |
| 8 唐土寺跡[弥生-古墳] | 17 岩田遺跡[弥生(後)] | | | |
| 9 小堀山古墳群[弥生(中-後)] | | | | |

のように、有東遺跡を取り巻く当地域における社会構造の推定は、弥生時代中期～古墳時代前期の周辺遺跡の集落構成が予想できる状況になるまで資料の蓄積が待ちどしいところである。

弥生時代以外の周辺遺跡としては、旧石器時代～近世に渡る多くの遺跡が存在している（文献5）。全てについて述べることは出来ないため代表的なものを簡単に紹介すると、旧石器時代・縄文時代としては、宮川遺跡（旧石器及び縄文時代早期の土器片や石器類が出土）・蛭田遺跡（縄文時代後期後葉～末葉の屋外炉や水晒し場を検出（文献30））・元宮川神明原遺跡（縄文時代後期～晩期にかけての土器・石器・木製品が出土（文献31））。古墳時代は、前述した小黒遺跡（古墳時代前期の棟持柱を伴う掘立柱建物や板塀など検出（文献8・28・29））・谷津山古墳群（古墳時代前期全長110mの前方後円墳を含む古墳群（文献32他））。古代、片山鹿寺跡（8世紀後半の建立、10世紀前半の終息が考えられる寺院（文献33・34他））・ケイセイ遺跡（黒書土器などが出土する官衙の様相の強い遺跡（文献35））・元宮川神明原遺跡（古墳時代から平安時代に至る祭祀遺跡（文献31））。中世～近世、駿府城内遺跡・八幡山城跡・有東砦跡・駿府城跡など多種多様な遺跡が存在し、静岡市内の歴史の痕跡が多く刻み込まれている。

注

1) 文献24

2) 文献36

3) 弥生時代中期段階の集落は、微高地上に広く占地し、その集落内は自然水路である川によって隔されており、巨視的には一つの居住域によって構成されているが、集落＝居住域の内部は川や人工の溝による区画によって複数の小単位に分割されていたらしい。基域は、集落に隣接するが、集落とは川及び低地により隔されている隣接地に位置し、2箇所を確認されている。〔この2箇所内、遺跡の北東側にある基域（論文中でいう基域2）の範囲は、第15次調査によりその範囲の広がり予想される。〕水田は、不明な点が多いが、位置的には集落に隣接する低地部分に広がりが確認されている。

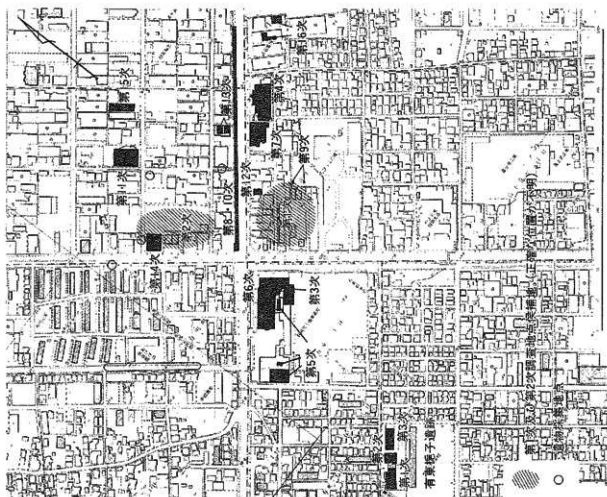
弥生時代後期になると、居住域は、分散・分立化が進み、逆に水田が広範囲に広がって中期段階に居住域あるいは、基域であった区域にも広くまとまった水田が開かれている。

このような大規模集約的な集落形態（中期）と、小規模分立的な集落群・拡大する水田域（後期）の集落構成を比較すると、後期段階は、複数の小集団による水田の経営を中心とする協業体制に規制された状況が推定され、広範囲に集約的な内容をもつあるいはその可能性を内在させているものと考えられている。

4) 平野晋郎氏は、鷹ノ道遺跡における弥生中期と後期に変化する土地利用状況を、有東遺跡（第4次調査）・長崎遺跡・瀬名遺跡の調査結果から、弥生時代後期に始まる小海進の影響として理解されている。（文献26）

5) 文献3・文献22・文献25

6) 文献8・文献28・文献29



第3図 有東橋子道調査地点位置図

(文獻25 第2図各調査地点位置図をもとに追加を行った。)

有東橋子道調査一覧表

点	主調査地	調査年	調査者	文献
1	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1947	佐藤正・佐藤正	3
2	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1947	佐藤正・佐藤正	4
3	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1980	佐藤正・佐藤正	6・7・8
4	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1981	佐藤正・佐藤正	7・8・9
5	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1981	佐藤正・佐藤正	6・7・8
6	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1989	佐藤正・佐藤正	10
7	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1989	佐藤正・佐藤正	11
8	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1990	佐藤正・佐藤正	12
9	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1990	佐藤正・佐藤正	13
10	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1991	佐藤正・佐藤正	14
11	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1991	佐藤正・佐藤正	15
12	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1993	佐藤正・佐藤正	16
13	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1995	佐藤正・佐藤正	17
14	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1995	佐藤正・佐藤正	18・19
15	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1995	佐藤正・佐藤正	20・21
16	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1995	佐藤正・佐藤正	22
17	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1995	佐藤正・佐藤正	23

有東橋子道調査一覧表

点	主調査地	調査年	調査者	文献
1	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1981	佐藤正・佐藤正	22
2	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1982	佐藤正・佐藤正	22
3	有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道・有東橋子道	1987	佐藤正・佐藤正	23

第4章 調査の成果

1. 基本土層 (第4、5図)

今回の調査では、現地表下約1.3mまでの土層を確認している。うちⅠ層除去面(弥生時代後期後半～古墳時代前期)およびⅦ層上面(弥生時代中期後半～後期前半)の2面で遺構を検出した。以下に基本土層の模式図を示し各土層について簡単に説明を加えることとする。

Ⅰa層 黄褐色礫混じり土。盛土である。

Ⅰb層 灰色粘土。砂および小礫を含んでおり、所々にビニール等が混じる。近代以降の水田耕作土と考えられる。

Ⅱa層 黒色粘土層。腐植物を含む。調査区北隅のみに存在する。Ⅱb層とともにⅡc・d層等との先後関係は明らかでない。

Ⅱb層 暗灰色粘土層。腐植物を含む。調査区北隅のみに存在する。

Ⅱc層 暗灰色粘土層。白色粘土ブロックを含む。おおよそ下層のSD-02の上位の窪みに存在し、Ⅱd層へ漸移的に変化する。

Ⅱd層 暗灰色粘土層。調査区北隅以外に存在し、弥生時代中期の遺構を被覆している。

Ⅲ層 暗灰褐色粘土・砂互層。弥生時代後期後半～古墳時代前期の水田を構成する土層と考えられる。調査区北隅のみに存在する。

Ⅳ層 暗灰褐色粘土層。Ⅶ層と考えられる灰白色粘土ブロックを含む。調査区北隅のみに存在するが、Ⅴ層との先後関係は調査区内では明確でない。

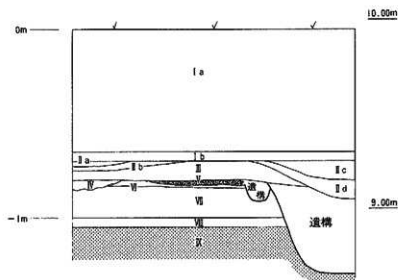
Ⅴ層 黒褐色粘土層。主にⅠ層による攪乱を受けて部分的に存在する。弥生時代中～後期の包含層を構成する。

Ⅵ層 灰褐色粘土層。Ⅴ～Ⅶ層の漸移層。

Ⅶ層 灰白色粘土層。

Ⅷ層 暗灰色シルト層。

Ⅸ層 砂層。



第4図 基本土層模式図

2. 検出した遺構

(1) 第1検出面

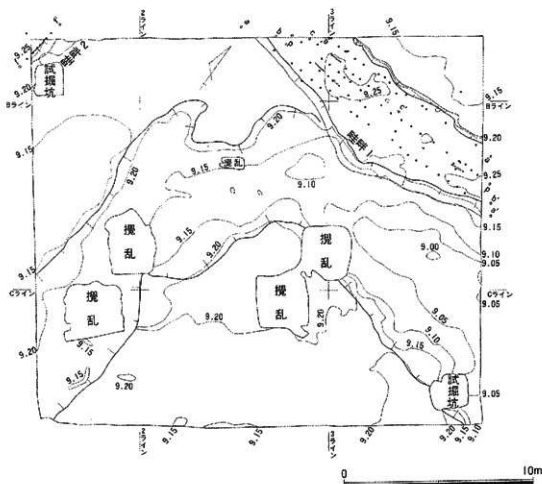
第1検出面は、Ⅱ層を除去した面である。水田遺構（畦畔と考えられるⅢ層の高まりと杭列）を検出した。時期は弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。

なお、Ⅱ層については、プラント・オパール分析では比較的高い値を示しており稲作が行なわれた可能性が高いが、畦畔等考古学的に水田の存在を裏付けるような遺構を検出することはできなかった。

水田遺構（第6、9図） 杭列と芯材と考えられる横木を伴った高まり（畦畔1）と杭列の一部のみ（畦畔2）の2方向の畦畔状の遺構を検出した。

水田を構成する土層はⅢ層である。Ⅲ層は、おおよそ畦畔1の南側下端線の3m付近から南側には存在しない。Ⅲ層を覆うⅡc・Ⅱd層に削平されて残存していないとしても、全く残存していないとは考えられず、もともと存在しないものと考えられる。したがって、水田は畦畔1以北へ広がっていると考えられる。

畦畔1はⅢ層の高まりと、それに伴う杭列および芯材として埋められた横木とで構成される。東-西の方向性を示し、調査区外へと延びてゆく。幅は下端で約4m、最大で5.5mを測り、周囲との比高差は10~15cm程である。畦畔の重複（拡張あるいは造り替え等）が考えられるが土層断面の観察からは確認できなかった。杭列は5列（a~e列）と考えられる。杭の打込み方向および横木の検出状況から考え



第6図 第1検出面遺構配置図 (S=1/200)

ると、a、b、c列とd、e列の2組に分別される。杭は最長で約70cmを測り、南方へ傾いている列、つまりd列、e列の杭が総じて長い。c列は、畦畔の途中で終わっている。

一方、畦畔2は調査区西隅で検出された南北方向の畦である。I b層による削平により杭列のみが残存したものと思われる。調査区内では2列（うち1列は1本しか検出していないため推定）の杭列を検出した。杭のトップレベルは畦畔1の杭列とほぼ同じ標高値を示している。III層を伴っていないが、杭のレベル、畦畔1にほぼ直交する方向性を示すことなどから、杭列1と同時期の畦畔の残欠と考えられる。

畦畔1、畦畔2ともに大区画水田の大畦と推定される。I b層による削平を受けているため、小区画の畦畔は確認できなかった。

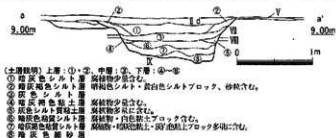
(2) 第2検出面 (付図)

第2検出面では、弥生時代中期後葉～後期前半の遺構を検出した。これらの遺構は本来V層上面ないしはV層中に掘り込み面があるものと思われる。しかし、IおよびII層による削平を受けてV層は部分的に残存するのみであり、削平は一部VII層にまで及んでいた。そのため、VII層上面で遺構検出を行なった。

溝状遺構・性格不明遺構

SD-01 (第7図) 調査区西隅で検出した溝状遺構である。検出した長さは7mと短い、直線的にはほぼ南北方向に延びていると思われる。

横断面は逆台形を呈し、検出面からの深さは約0.5mを測る。遺構底部はIX層中まで達している。覆土は、いずれも灰色ないし灰褐色を呈し、上位ではシルト、下位では粘質シルトで、最下部では微砂の堆積がみられた。区画溝といった性格が考えられる。

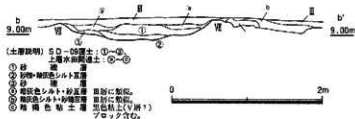


第7図 SD-01土層断面図 (S=1/60)

出土土器からは、弥生時代後期前半の中での遺構の機能～埋没の過程が考えられる。VII層上面で検出した遺構の中では最も新しい遺構と考えられる。

SD-09 (第8図) 調査区北隅で検出した。直線的に東西方向に延びているが、西方でやや北へ曲

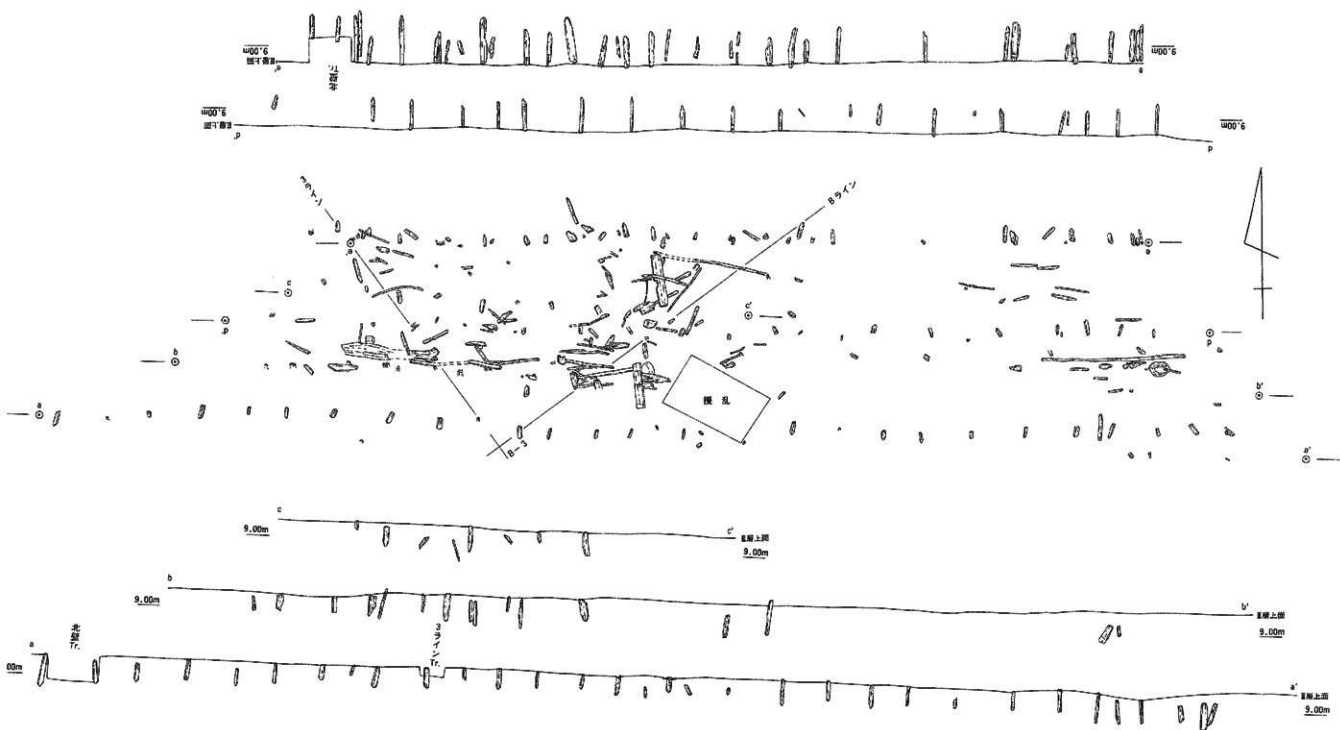
がっていく様子が窺える。SD-02を切っている。検出面からの深さは0.15mを測る。覆土は砂礫層を主体とする。機能している最中に洪水で埋没したものと考えられる。この砂礫は、上層の水田耕作土 (III層) の供給源になっていると思われる。洪水に伴う自然流路とも考えられるが、方向性などを考えると人為的な溝とみたほうがよさそう。



第8図 SD-09土層断面図 (S=1/60)

出土土器から埋没時期は後期初頭と考えられる。

SD-04 (第10図) 調査区西方で検出した。直線的に北北東-南南西の方向性を示す。北側で収束



畦畔1 杭列・横木平面図および杭列立面図

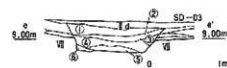
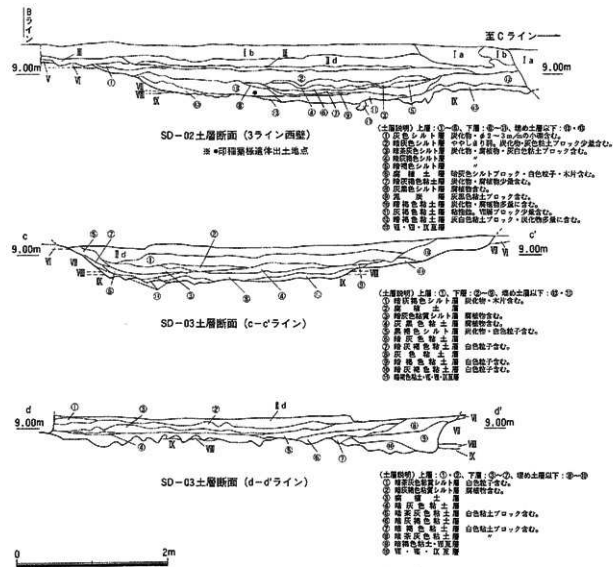


第9図 水田遺構畦畔1および畦畔2実測図 (S=1/50)

する。横断面は逆台形を呈し、検出面からの深さは0.4~0.5mを測る。覆土は腐植物を多く含む黒色系の粘土層以下とそれより上位とに大きく分かれる。区画的な意味合いを持った溝であろう。遺構の時期は、出土土器から、弥生時代中期後葉~後期初頭と考えられる。

SD-02・03 (第11図、付図) 調査区のほぼ中央を横断する形で検出した。SD-02・03は調査区中央でほぼ90°屈曲して連続する遺構であるが、別遺構である可能性も考えられたため、屈曲部に境に別の遺構名を付けた。

幅は3.6~8.2mと場所によって様々である。また遺構底部の形態も不整形で深い部分と浅い部分が連続する。縦断エレベーション図(付図)に示したとおり、調査区東壁際~3ライン付近~c-c'ライン付近~d-d'ライン付近~f-f'ライン付近に深い部分が存在し、かなり凹凸が激しい。屈曲部分が最も浅く検出面からは深さ約0.2mである。平面・断面形からは、蛇行する自然流路と考えるのが妥当であろう。しかし、遺構内には全く砂礫の堆積が認められない。また3ライン付近~c-c'ライン付近は



- (土層説明) 上層: ①~④、下層: ⑤~⑧、埋め土層以下: ⑨~⑪
- ① 暗灰色粘土層 炭化物・木片含む。
 - ② 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ③ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ④ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ⑤ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ⑥ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ⑦ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ⑧ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ⑨ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ⑩ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ⑪ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。

- (土層説明) 上層: ①~④、下層: ⑤~⑧、埋め土層以下: ⑨~⑪
- ① 暗灰色粘土層 炭化物・木片含む。
 - ② 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ③ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ④ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ⑤ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ⑥ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ⑦ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ⑧ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ⑨ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ⑩ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。
 - ⑪ 暗灰色シルト層 炭化物・木片含む。

起伏が特に著しく、河の激流によるものとは考えにくく、人為的な掘削によるものと考えられる。したがって、もともと比較的小さい自然流路に手を加えて溝として機能させていたものと思われる。具体的には区画溝、用水路などの機能が考えられ、埋没してゆく過程で廃棄坑となっていたと思われる。

覆土は、上層、下層、埋め土層とに大別される。上層は灰色または灰褐色系の粘土層、下層は黒色腐植土層以下である。このうち、下層の黒色腐植土層は遺構の深い部分に存在する。埋め土層は、遺構南および東肩部に沿って調査区内で切れ目なく確認された。自然流路を加工する際に、溝の南東側を整形する目的で溝の縁辺を埋めたものと考えられる。

遺構の時期は、出土土器から、弥生時代中期後葉と考えられる。

SD-06 (第14図) 調査区西隅で検出した。SD-01に切られる。周溝状に円弧を描く。幅0.6~0.9m、深さ約0.1mを測る。遺構北西端と南西部では、それぞれ長軸45cm、同35cmの上面が比較的小平な石がほぼ底面で検出された。調査区外へ続くため全貌は明らかでないが、仮に周溝状の遺構だと仮定して、直径を復元すると外周で約20mになる。住居跡の壁周溝と考えた場合、これに対応する柱穴があるはずであるが、調査区内では確認されなかった。そもそも住居跡としては規模が大きすぎる。排水溝あるいはなんらかの建物を周囲と区画するための溝であろうか。

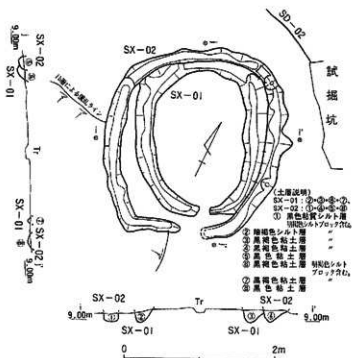
遺構の時期は、出土土器から、弥生時代中期後葉~後期初頭と考えられる。

SX-01・02 (第12図) 調査区東隅で検出した周溝状の遺構で、SX-01が古くSX-02が新しい。

SX-01は、楕円形にめぐり、南隅が15cm程度開いた平面形をしている。西部はやや角張る。内周で、長軸径約1.8m、短軸径約1.2mを測る。一方SX-02は、隅丸方形で、SX-01と同位置が約25cm程度開いた平面プランをもつ。南部分は丸みをおびずに折れる。長軸径約2.1m、短軸径約1.9mを測る。両者とも同様の平面プランを示すことから同様の性格を持った遺構であり、切り合い関係からSX-01を拡張してSX-02が造られたものと理解される。

具体的な性格については不明である。住居跡の壁周溝とするには内側の面積があまりに狭い、住居跡などより小規模で簡易な建物と考えたとしても、溝の内側、中、周囲からは柱穴状の遺構は検出されていない。

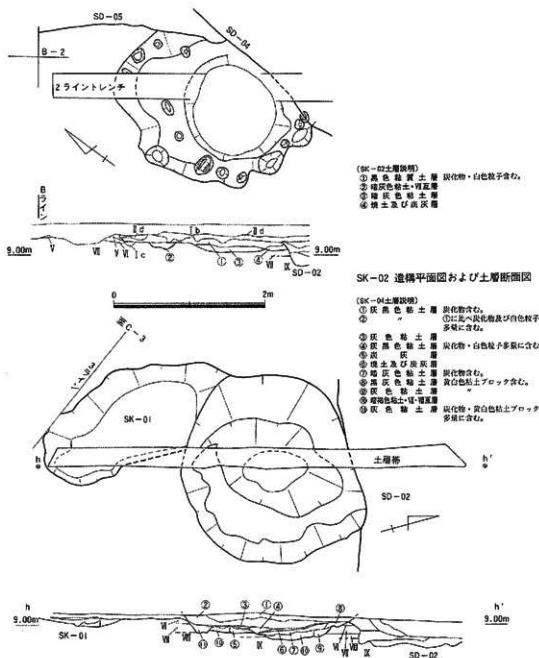
また、時期については、時期決定の材料になるような遺物は出土していないが、両者とも、覆土はV層と類似するような黒色 第12図 SX-01・02平面図及び土層断面図 (S=1/50) の粘土またはシルトであることから、弥生時代中期後葉の遺構であり、第2検出面の遺構の中では最も古い段階のものと考えられる。



土坑

SK-02 (第13図) 調査区西側で検出した。SD-04、SD-05に切られる。平面プランは不整円形で、中段にテラスをもち、中央南寄りが窪む。窪み部分には焼土および炭灰の堆積が確認された。また遺構上端〜テラスの法面には柱穴状のピットが存在する。本遺構に伴うものかそうでないものかが混在していると考えられるが峻別できなかった。しかしながらピットの中には内側に向かってわずかではあるが斜向しているものがあり、遺構の性格を考える上でのヒントとなるかもしれない。

遺構の時期は、弥生時代中期後葉と考えられる。



第13図 SK-02、04平面図及び土層断面図 (S=1/50)

SK-04 (第13図) 調査区南東部で検出した。SD-02とわずかに切り合い関係が認められ、SD-02より新しいことが確認された。不整円形の平面プランを示し、長径2.6m、短径2.2mを測る。断面は、中段にテラスないしは緩斜部をもち中央部が窪む形態をとる。覆土中位では焼土および炭灰を検出し、下部では比較的まとまって土器が出土している。

遺構の時期は、弥生時代中期後葉と考えられる。

建物跡(柱穴・小穴) (第14、15図) VII層上面において検出した柱穴および柱穴と考えられる小穴は193基を数える。柱穴は、掘り方中段にテラスをもち、底部に細長い礎板を据える形態のもの(形態A)とそれ以外のもの(形態B)とに大きく分類できる。形態Aの柱穴については、柱根が残存するものはなかったが、土層断面をみると(第15図、SP103土層断面図)、少なくとも柱の基盤は細長く、5cm程度の厚さの材であった可能性が高い。

また建物の平面プランについては、6棟分しか復元できなかったが、そのほとんどが1間×1間の平面プランをもつ可能性が高い。以下、平面プランが復元できたもの、あるいは柱穴どうしの対応が考えられるものについて説明する。

SB-01 SP10は2枚の板材を並べて礎板としており、SP82は直径20cm程の柱根が残存していた。SP83が他の2穴と比べて浅い点で、3穴が対応するかどうか疑問が残る。

SB-02 D-D'ライン上にSP88・89・91・93がほぼ2m間隔で並ぶことは確実であるが、建物か竪列かはわからない。

SB-03 いずれも形態Aの柱穴で構成され、1間(幅3.7m)×1間(幅3.4m)の建物と考えられる。復元できた建物跡の中では最も規模が大きい。

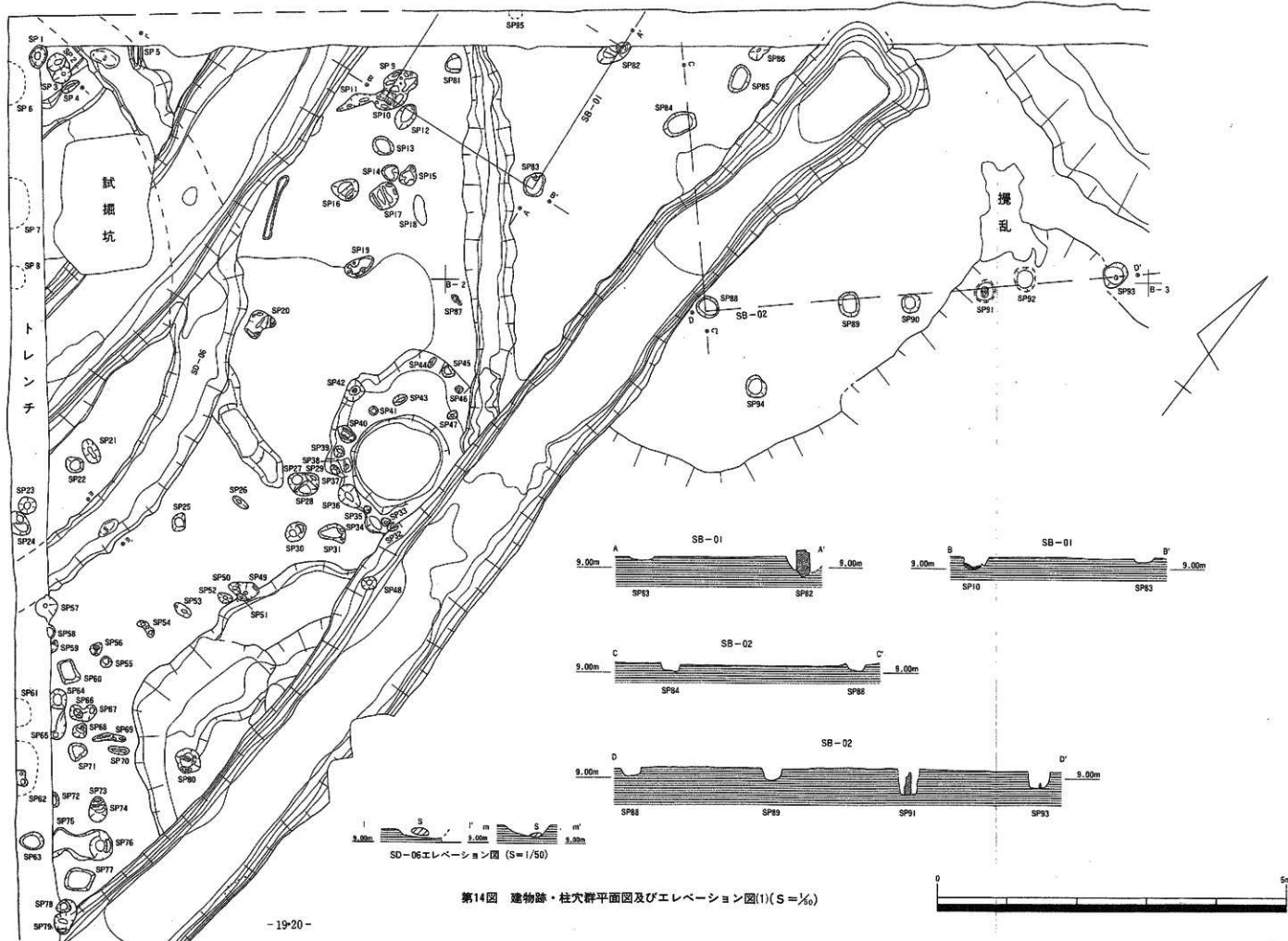
SB-04 いずれも形態Aの柱穴で構成されるが、北西のSP174のみが底部の方向が他と違うためやや疑問が残る。1間(幅3.0m)×1間(幅3.0m)の正方形の平面プランをもつ建物と考えられる。

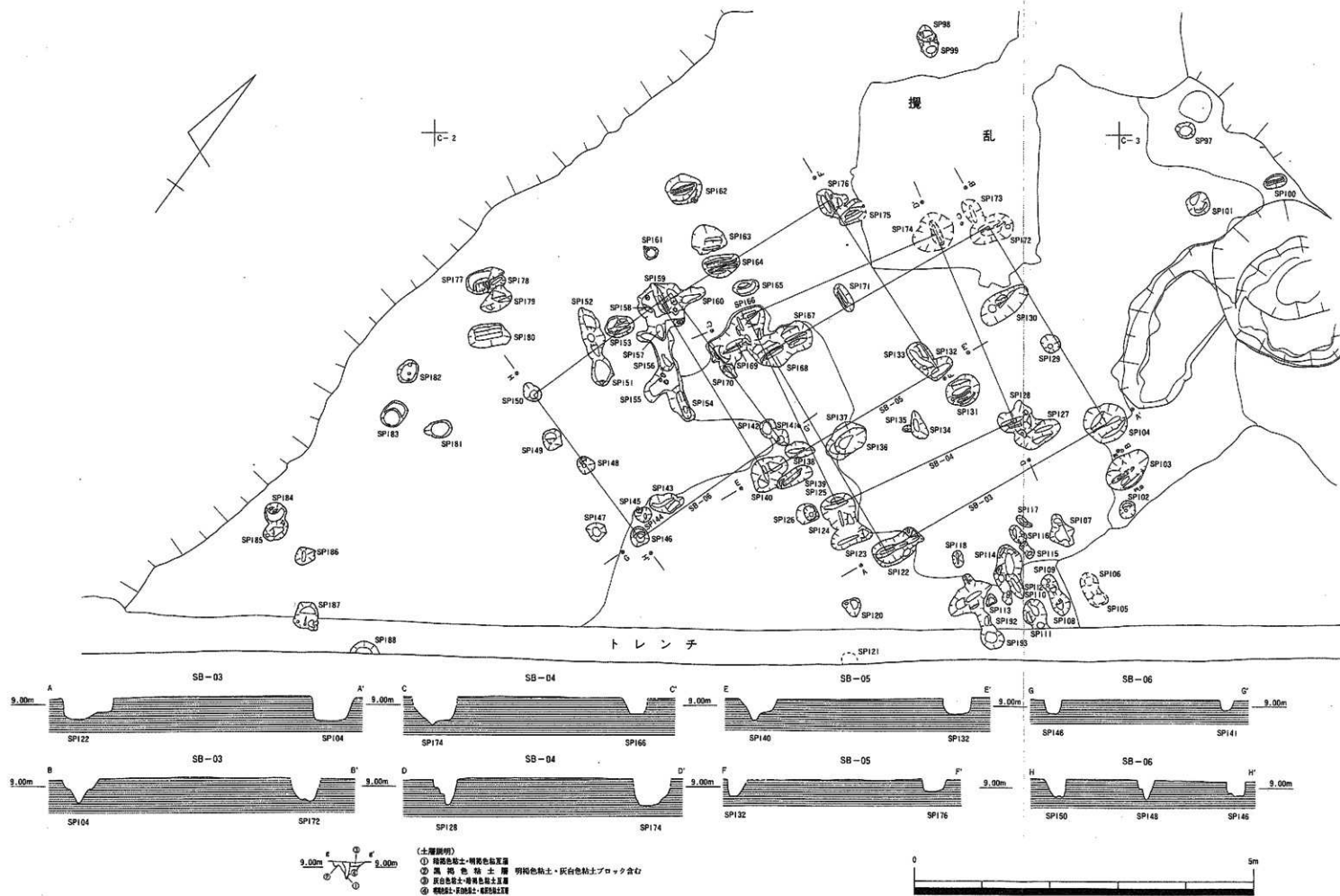
SB-05 北東のSP132のみが形態Aの柱穴でない点に疑問が残る。1間(幅3.0m)×1間(幅2.95m)のほぼ正方形の平面プランをもつ建物と考えられる。

SB-06 平面は円形または不整円形、断面は逆台形のプランをもつ柱穴で構成される。建物は1間(幅2.55m)×1間(幅2.6m)のほぼ正方形のプランをもつ。

さて、これらの柱穴群あるいは建物跡の時期であるが、柱穴内からはいずれも土器の細片しか出土しておらず、遺物から時期を決定するのは困難である。そこで他遺構との切り合いや遺構内覆土等から時期を推測すると次のようになる。

形態Aの柱穴については、時期の決定材料として、覆土がいずれもSD-02・03の南および東側に沿って存在する埋め土に類似した土層であることが挙げられる。仮にSD-02・03の南東側縁辺を整形する際に一緒に埋められているとすれば、遺構の構築時期はそれ以前であり、VII層上面で検出した遺構の中では最も古い段階の遺構ということになる。





形態Bの柱穴については、形態A以外のものという分類であり、また覆土についても様々であるためすべてを一括りに考えることはできない。しかしその中でSP78・79については、SD-04を切って構築されていることが確認されており、SD-04が埋没した後に構築されていることになる。つまり、形態Bの柱穴には弥生時代後期前半以降のものが含まれていることになる。

第2 検出面遺構一覧表

(1)溝状遺構(SD)

SD 番号	幅 (m)	深さ (m)	底部標高 (m)	断面形状	走行形態・方向	出土遺物	他遺構との切り合い関係等	旧遺構名
01	1.6~1.8	0.5	8.6	逆台形	直線・北北東・南南西	弥生土器・石器・木製品	SD-06を切る	SD-001
02	5.1~8.2	0.3~0.4	8.5~9.0	梯形・皿形	・北・南 弥生前期で緩曲	■	SD-09を切る	SD-002
03	3.6~6.4	0.2~0.6	8.6~9.0	梯形・皿形	・北北東・南南西	■		SD-003
04	1.2~1.6	0.4~0.5	8.6~9.0	逆台形	直線(北側で収束)・西・東	■	SD-03・05・SK-02・03を切る	SD-004
05	0.4~0.7	0.1	9.05	皿形	直線・北・南	弥生土器		SD-005
06	0.6~0.9	0.1	9.05~9.1	皿形	円弧・北西・南東・南西	弥生土器・石器	SD-07・08を切る	SB-001
07	0.5	0.05~0.1	9.1~9.2	皿形	直線・西北西・東南東	弥生土器		SD-007
08	0.5	0.05	9.15	皿形	直線?・北北東・南南西	■		SD-008
09	1.9~3.0	0.15	8.85~8.9	皿形	直線・東・西	弥生土器・石器・木製品		SR-001

(2)性格不明遺構(SX)

SX 番号	幅 (m)	深さ (m)	底部標高 (m)	断面形状	走行形態・方向	出土遺物	他遺構との切り合い関係等	旧遺構名
01	0.3	0.1~0.2	8.95~9.15	梯形	横門(南側開ける)・一	弥生土器		SX-001
02	0.3	0.05~0.15	8.95~9.1	梯形	横丸形(南側開ける)・一	■	SX-01を切る	SX-002

(3)土坑(SK)

SK 番号	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	底部標高 (m)	平面形状	断面形状	検出地区	出土遺物	他遺構との切り合い関係等	旧遺構名
01	2.7	(1.3)	0.15	8.95	長楕円形	皿形	C-3	弥生土器		SK-001
02	2.7	(1.9)	0.2	9.05	不整形	梯形	B-1・B-2	弥生土器・石器	中央凹みに焼土・炭灰	SB-002
03	5.2	(3.3)	0.25	9.0	不整形	皿形	B-1	■	2ヶ所に焼土・遺構底履か	SB-003
04	2.6	2.2	0.3	8.8	不整形	梯形	C-3	■	中央凹みに焼土・炭灰・SD-02を切る	SB-004

(4)柱穴・小穴 (SP)

SP 番号	長 (cm)	短 (cm)	深 (cm)	底面深高 (m)	形質	検出地区	備 考
1	42	30	27	9.00	B	A-1	
2	29	24	20	9.06	B	A-1	
3	28	20	15	9.11	B	A-1	
4	30	11	15・ $\frac{1}{2}$	9.05	A?	A-1	
5	—	(20)	19	9.96	A	A-1	
6	[60]	—	22	9.05	—	A-1	
7	[74]	—	16	9.06	—	A-1	
8	[30]	—	17	9.09	—	A-1・B-1	
9	51	35	22	9.97	B	A-1	
10	54	31	18	9.99	B	A-1	SB-01・破損
11	(60)	19	9	9.05	B	A-1	
12	41	26	19	9.98	B	A-1	
13	34	27	10	9.08	B	A-1	
14	26	24	3	9.12	B	A-1	
15	32	24	5	9.10	B	A-1	
16	37	34	23	9.95	A	A-1	
17	40	37	16	9.00	A	A-1	
18	—	—	1	9.18	A?	A-1	
19	46	24	8	9.11	B	A-1	
20	40	26	7	9.16	A	B-1	
21	37	21	8	9.14	A?	B-1	
22	30	25	16	9.16	B	B-1	
23	27	23	13	9.09	B	B-1	
24	—	—	25	9.00	B	B-1	
25	28	20	11	9.15	B	B-1	
26	27	10	10	9.16	B	B-1	
27	—	—	21	9.03	B	B-1	
28	33	20	13	9.11	B	B-1	
29	27	13	6	9.19	B	B-1	
30	32	27	21	9.04	B	B-1	
31	38	25	13	9.11	B	B-1	
32	(16)	12	8・ $\frac{1}{2}$	9.12	B	B-1	
33	13	12	10・ $\frac{1}{2}$	9.10	B	B-1	
34	—	—	9・ $\frac{1}{2}$	9.12	B	B-1	
35	12	10	11・ $\frac{1}{2}$	9.13	B	B-1	
36	37	28	12・ $\frac{1}{2}$	9.12	B	B-1	
37	16	10	11・ $\frac{1}{2}$	9.14	B	B-1	
38	—	—	12・ $\frac{1}{2}$	9.12	B	B-1	破損
39	13	16	15・ $\frac{1}{2}$	9.10	B	B-1	
40	30	20	23・ $\frac{1}{2}$	9.01	A	B-1	
41	13	13	14・ $\frac{1}{2}$	9.09	B	B-1	
42	31	26	25・ $\frac{1}{2}$	9.00	B	B-1	破損
43	22	14	17・ $\frac{1}{2}$	9.07	A?	B-1	
44	—	—	—	(9.01)	—	B-1	
45	20	16	4・ $\frac{1}{2}$	9.14	B	B-1・B-2	
46	12	12	8・ $\frac{1}{2}$	9.09	B	B-2	
47	16	12	8・ $\frac{1}{2}$	9.09	B	B-2	
48	23	18	34・ $\frac{1}{2}$	9.88	B	B-1	
49	[30]	—	8	9.17	B	B-1	
50	20	13	4	9.21	B	B-1	

SP 番号	長 (cm)	短 (cm)	深 (cm)	底面深高 (m)	形質	検出地区	備 考
51	16	10	5	9.20	B	B-1	
52	22	15	5	9.19	B	B-1	
53	30	16	11	9.12	B	B-1	
54	30	10	10	9.13	B	B-1	
55	18	18	6	9.16	B	B-1	
56	20	18	7	9.18	B	B-1	
57	(41)	(30)	27	9.99	B	B-1	
58	[20]	—	11	9.14	B	B-1	
59	—	—	9	9.16	B	B-1	
60	33	24	4	9.21	B	B-1	
61	—	—	9	9.20	B	B-1	
62	80	—	24	9.04	B	B-1	
63	35	29	21	9.03	B	B-1	
64	35	(27)	4	9.20	B	B-1	
65	45	17	6	9.19	B	B-1	
66	(28)	20	10	9.16	B	B-1	
67	26	18	2	9.23	B	B-1	
68	24	22	7	9.18	A?	B-1	
69	48	10	4	9.20	A?	B-1	
70	31	12	2	9.21	A?	B-1	
71	28	27	5	9.21	B	B-1	
72	[23]	—	13	9.12	B	B-1	
73	19	12	6	9.17	B	B-1	
74	27	24	7	9.15	B	B-1	
75	—	30	2	9.21	B	B-1	
76	—	44	29	9.91	B	B-1	
77	40	32	6	9.14	B	B-1	
78	21	19	35	9.85	B	B-1	
79	(50)	26	32	9.89	B	B-1	
80	40	37	38・ $\frac{1}{2}$	9.84	B	B-1	破損
81	—	(28)	11	9.06	B	A-2	
82	—	31	23	9.88	B	A-2	SB-01・破損
83	38	30	13	9.03	B	A-2	SB-01
84	49	31	11	9.01	B	A-2	SB-02
85	45	29	9	9.03	B	A-2	
86	—	20	10	9.03	B	A-2	
87	—	—	—	9.05	B?	B-2	破損
88	33	33	10	9.02	B	B-2	SB-02
89	37	30	13	9.97	B	B-2	SB-02
90	28	28	9	9.05	B	B-2	
91	—	—	36・ $\frac{1}{2}$	9.77	B	A-2・B-2	SB-02・破損
92	—	—	22・ $\frac{1}{2}$	9.91	B	A-2・B-2	
93	39	32	21	9.88	B	A-2・B-2	SB-02・破損
94	34	30	8	9.06	B	B-2	
95	—	—	16	9.99	—	A-2	
96	—	—	19・ $\frac{1}{2}$	9.88	B	A-3	
97	30	26	24	9.85	B	B-3・C-3	
98	27	26	18	9.93	B	B-2	
99	—	27	17	9.94	B	B-2	
100	(28)	28	14	9.90	A	C-3	

SP 番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	底面高さ (m)	形態	検出地区	備考
101	35	21	21	8.91	B	C-3	
102	28	24	22	8.86	B	C-3	
103	72	48	40	8.70	A	C-2・C-3	
104	64	60	35	8.76	A	C-2・C-3	SB-03
105	—	—	11	8.96	B	C-2	
106	—	—	19	8.89	B	C-2	
107	52	28	14	8.98	B	C-2	
108	—	28	26	8.82	B	C-2	
109	—	20	16	8.92	B	C-2	
110	—	34	14	8.95	B	C-2	
111	—	22	13	8.97	B	C-2	
112	44	18	10	8.98	A?	C-2	
113	19	12	4	9.05	B	C-2	
114	—	36	13	8.97	A?	C-2	
115	26	12	11	9.00	B	C-2	
116	30	19	13	8.99	B	C-2	
117	28	11	7	9.04	B	C-2	
118	26	15	7	9.04	A	C-2	
119	74	42	37	8.72	A	C-2	
120	29	25	25	8.79	B	C-2	
121	—	—	10	8.95	—	C-2	
122	62	(29)	31	8.79	A	C-2	SB-03
123	63	—	28	8.90	A	C-2	
124	—	38	21	8.87	A	C-2	
125	49	—	29	8.83	A	C-2	SB-04
126	32	29	33	8.74	B	C-2	
127	69	—	7	9.04	A	C-2	
128	55	—	38	8.75	A	C-2	SB-04
129	28	26	36	8.75	B	C-2	
130	82	38	46	8.68	A	C-2	
131	52	44	27	8.85	A	C-2	
132	40	24	23	8.88	A	C-2	SB-05
133	33	—	17	8.94	A	C-2	
134	44	23	4	9.06	B	C-2	
135	—	11	3	9.06	B	C-2	
136	51	30	41	8.69	B	C-2	
137	68	42	—	—	—	C-2	
138	34	24	16	8.92	A?	C-2	
139	58	23	25	8.84	A	C-2	継
140	57	47	34	8.74	A	C-2	SB-05
141	23	20	14	8.94	B	C-2	SB-06
142	28	24	20	8.90	B	C-2	
143	54	40	9	9.00	A	C-2	
144	26	23	16	8.94	B	C-2	
145	10	7	12	8.98	B	C-2	
146	28	28	21	8.89	B	C-2	SB-06
147	29	27	19	8.91	B	C-2	
148	28	23	27	8.84	B	C-2	SB-06
149	30	28	26	8.87	B	C-2	
150	32	25	28	8.87	B	C-2	SB-06

SP 番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	底面高さ (m)	形態	検出地区	備考
151	(40)	32	8	9.03	B	C-2	
152	(80)	31	14	8.97	B	C-2	
153	42	31	16	8.95	A?	C-2	
154	—	26	19	8.91	A?	C-2	
155	60	—	15	8.95	B	C-2	
156	—	24	10	9.02	B	C-2	
157	—	—	10	9.00	B	C-2	
158	—	—	14	8.98	A?	C-2	
159	—	—	14	8.98	A	C-2	SB-06
160	—	—	55	8.87	B	C-2	SB-06
161	23	20	7	9.06	B	C-2	
162	55	45	25	8.88	A	C-2	
163	51	40	31	8.81	A	C-2	
164	54	34	28	8.83	A	C-2	継
165	39	24	13	8.97	B	C-2	
166	—	—	22	8.88	A	C-2	SB-04
167	—	44	34	8.75	A	C-2	
168	—	51	35	8.74	A	C-2	SB-03
169	—	44	26	8.83	A	C-2	
170	25	17	22	8.87	B	C-2	SB-06
171	46	18	18	8.93	A	C-2	
172	—	—	35	8.77	A	C-2	SB-03
173	—	—	21	8.91	A	C-2	
174	—	—	42	8.71	A	C-2	SB-04
175	—	30	14	8.97	A	C-2	
176	42	42	16	8.96	A	C-2	SB-06
177	60	34	17	8.97	B	C-2	継
178	32	—	15	8.98	A?	C-2	
179	50	26	11	9.02	A?	C-2	
180	63	34	26	8.87	A	C-2	
181	42	26	14	9.00	B	C-1・C-2	
182	42	32	11	9.06	B	C-1	
183	37	30	12	9.04	B	C-1	
184	32	—	12	9.03	B	C-1	
185	42	29	21	8.94	B	C-1	
186	30	27	15	9.00	A?	C-1	
187	37	34	23	8.96	B	C-1	
188	[45]	—	16	9.04	B	C-1	
189	[40]	—	12	9.08	—	C-1	
190	[42]	—	30	8.92	A?	C-3	
191	30	20	29	8.78	B	A-3	
192	—	17	11	8.98	B	C-2	
193	36	30	19	8.90	B	C-2	

凡例

() : 推定値。 ——— : 計測不能。

[] : 長さ・幅・厚さが不明なものを、長さの欄に [] で記載。
深さの数値が2つあるもの：他の遺構内で検出されたもので、
前者が遺構面からの深さ、口囲みの数値がピット上端からの
深さを表す。

形態A：SP139やSP164のように細長い縁板が据えら
れていた可能性が高いもの。

形態B：形態A以外のもの。

3. 出土した遺物

(1) 土器

土器は、ほとんどが弥生時代中期後葉から後期前半の土器である。弥生土器以外の土器としては、須恵器がⅡ層以上の土層から、古式土師器がⅢ層以上の土層から少量出土しており、古墳時代前期以降も当地区が何らかの生活の場であったことを示唆している。全体的に磨滅が著しい。

弥生土器は、中期後葉段階、いわゆる有束式とされている土器群のうちの終末段階と思われる資料が圧倒的に多い。残りが後期前半段階、いわゆる登呂式段階の土器である。全体的に磨滅が著しい。

なお、底部、脚台部の破片については、調整技法等から器種が推定できるものとそうでないものがあるため、それぞれの部位ごとに一括した。

Ⅱ層出土土器（第16図、図版10、1～4） 2は高坏脚部と思われ大きく外反する。透かし穴を2箇所穿つ。

Ⅲ層出土土器（第16図、図版10、5～9） 9はS字口縁部の脚台部と考えられる。器壁は薄くハケ調整により仕上げる。

SD-01出土土器（第17図、図版10、10～39） 完形となるような個体はないが、壺は口縁部が大きく開き、口縁端部を折り返す例（10～12・21～23）が多い。39は他の部位が無いため推測の域をでないが、胴部にいくつも注口が付く特殊土器の破片と思われる。甕についても全形を復元できたものはないが、胴部が球状を呈するものが多い。

SD-04出土土器（第18図～20図、図版11、45～120） 覆土下部に断続的に存在する黒色腐植土層より上位の土層と黒色腐植土層を含めた下位の土層とに大別して取り上げを行なった。ただし黒色腐植土層が明瞭に存在しない箇所では、土層による土器の分別が必ずしもうまくいっていない。

壺は口縁端部を折返し、浮文・刻み目・刺突文等で加飾するもの（45・50～53）が多い。上層出土の49・58はSD-04出土土器群の中では最も新しい様相をもつと思われる。一方甕は、復元実測できたものでは、口径が25～27cmの大型品（64・69～71）、18cm前後の中型品（68）、14～15cmの小型品（65～67）とがある。また施文については、口縁部直下または胴部にヘラ描沈線を施す例として75・77・78・82・83がある。101は口唇部に刻み目、頸部直下にヘラ描沈線を施す。脚台については台付壺か高坏かの判断が付きにくい。107については、柱状に近いプロパーションが考えられ時期的に新しい要素を持ったものであろう。

SD-02及びSD-03出土土器（第21～31図、図版12～17、121～310） 全出土量のうち量的に最も多い。遺構の中で深い部分に存在した泥炭及び腐植土層以下とそれよりも上層、それに埋め土層に分けて取り上げを行なった。しかし、上層の土器は量的に少ないため上層と下層との型式学的な比較は難しい。ただ、量的に最も多い下層の土器群は中期末葉段階の様相をよく示す資料であると考えられる。また、下層と埋め土層については、発掘時に明確に分別しきれていない箇所があり、下層の土器群と埋め土層の土器が若干混じりあっている可能性が考えられる。

壺は、広口細頸で胴部最大径が中位または上位にくるものが多いと思われる。外面の文様帯は胴部に施される例が多く、また外面ないしは内外面に赤彩を施す例が大半を占める。胴部に線刻（鹿絵）を施すものも1点出土している（308）。甕は平底のものと台付のものがある。ただし、台付甕については口縁～胴部と脚台が接合したものはない。口径が25～30cm程度のものが多いが、40cmを越えるようなものもある（207）。口唇部は、刻み目や押捺を施すものと横位ナデのみで仕上げるものがある。212のように胴部と頸部にヘラ描沈線を施す例はあまり多くない。また口唇部の器壁が厚いもの（225～230・234・

238～240)があるが、口径を復元できた資料は一例もなかった。208は底部から口縁部に向けてほぼ直行する形状を呈する。胴部に炭化物が多量に付着し煮沸具と思われるが、通常の甕とは違った目的で使用されたものと考えられる。一方209は胎土に雲母片を多量に含み、プロポーション・調整技法・文様等から山梨県地方からの搬入土器と思われる。244～254は高坏、鉢である。252は口縁～底部まで完全に接合しないが、雲母片を含み内外面とも丁寧に磨かれた片口の鉢である。底部の磨減が著しく使用痕と思われる。256～260・270・273・276の脚台部についてはミガキ調整が施され、高坏の脚部と推定される。258は下層出土で菊川式と考えられる形態である。296は壺の胴～底部の破片で、胴部下半に龍目が残る。

309は鳥形土器と考えられ、上層またはⅡd層からの出土である。外面には赤彩が残存する。

SD-09出土土器 (第32図、図版17、311～346) 壺は口縁部が大きく開き、口縁端部を折返すもの(314～319・321・323)が多い。323は器面が火を受けて火膨れしたようになっている。甕は325・326のように頸部が屈曲するものがある。脚台部についてはいずれもハケまたはハケ後ナデ調整で腰が低いつくりである。

SK-02出土土器 (第33図、図版18、347～352) 347は片口と考えられる壺口縁部破片。348は甕と思われる、口縁部～頸部が短く器壁が厚い。

SK-04出土土器 (第33図、図版18、353～362) 353は頸部にヘラ描沈線を施す。354も頸部と思われる部位に櫛描直線文を2帯以上施す。355はハケ調整で肩部に櫛描による縦位の波状文を施す。358は壺口縁部と考えられ、口唇部に押捺を施す。器壁が厚い。359・361は底面に網代痕が残る。

(2) 石器

土器と同様、SD-02及びSD-03の資料が最も多量である。磨製石斧類では、粗割り段階の未製品から製品までのものがある。器種別で量的に最も多いのが敲石・くぼみ石の一群である。砂岩質の石材が多く用いられ、川原石を加工せずそのまま使用して、側面等に敲打痕や線条痕が認められる。

SD-01出土石器 (第34図、図版18、S-1～4) S-1は磨製石斧未製品、S-4は有溝石錘である。

SD-04出土石器 (第34・35図、図版18、S-5～18) S-5・6は磨製石斧製品、S-7・8は未製品である。S-9・10・13・15は敲石であるが、側面に線条痕が顕著である。S-17は磨石と思われる。

SD-02出土石器 (第35～38図、図版19、S-19～61) S-21は太型蛤刃石斧の未製品である。粗割りして側面を敲打して潰している。S-31は扁平な剥片の側面を研磨して刃部をつくっている。また他の側面の一部を潰している。穂摘み具か。S-33・35・36・39・44～47・50・53～56は、側面の線条痕が顕著である。S-33・35・38・40・46～49・53・54は、両面の中央部付近を敲打して凹みをつけている。S-58は細長く両端に敲打痕が顕著に残る。S-60・61は全体に研磨痕あるいは擦痕が残る。

SD-03出土石器 (第38～41図、図版19、S-62～98) S-62は太型蛤刃石斧の製品である。柄の装着痕等は確認できない。S-70は剥片の一边を両面研磨して刃部をつくっている。穂摘み具等の用途が考えられる。S-71～89は敲石またはくぼみ石である。側面に線条痕が顕著に残るもの、表裏両面中央部を凹ませるもの、細長い棒の一端に敲打痕の残るもの等がある。S-90～92・94～98は砥石と考えられる。S-93は両面とも敲打により荒れており、石皿あるいは何らかの作業用の台と思われる。

SD-09出土石器 (第41・42図、図版19、S-99～108) S-99は太型蛤刃石斧の、S-102磨片刃石斧の、それぞれ研磨直前段階の未製品である。S-105は側面の敲打・線条痕が顕著である。S-106

は珪質シルト岩製の球状の敲石の破片である。S-107は立方体の形状で研磨されたと思われる面が2面あり、光沢を持つ。

その他の遺構出土の石器(第43図、図版19、S-109~115) S-109はSD-05出土。剥片状の石材の周縁部を潰し、一辺を両面研磨して刃を付けている。S-112はSK-02出土。紡錘車と思われる。

土層一括その他の石器(第43・44図、図版19・20、S-116~137) S-121は剥片状の石材の周縁部を潰し、一辺を両面研磨して刃を付けている。Ⅲ層(水田土)出土。S-122は砂岩製で、二側面が研磨され鈍く尖る。Ⅱ層出土。S-132・133は珪質シルト岩製の球状の敲石である。S-137はⅣ層下部出土の有孔磨製石鏃である。粘板岩製で無茎でかえり部分はやや不整形である。

(3) 木製品

土器、石器同様SD-02・SD-03からの出土量が最も多い。容器類、農具から建築材まで多岐にわたる。

畦畔1(Ⅲ層)出土木製品(第44図、図版20、W-1~3) W-1は建築部材と思われる。側面に扶きを入れ、一端を尖らせる。

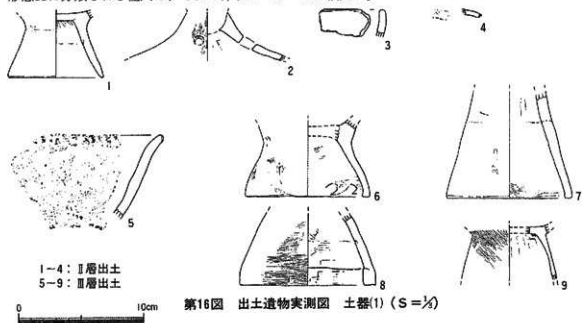
SD-01出土木製品(第45図、図版21、W-4・5) W-4は着柄式の鋤先で、四又で全長45.8cmを測る。

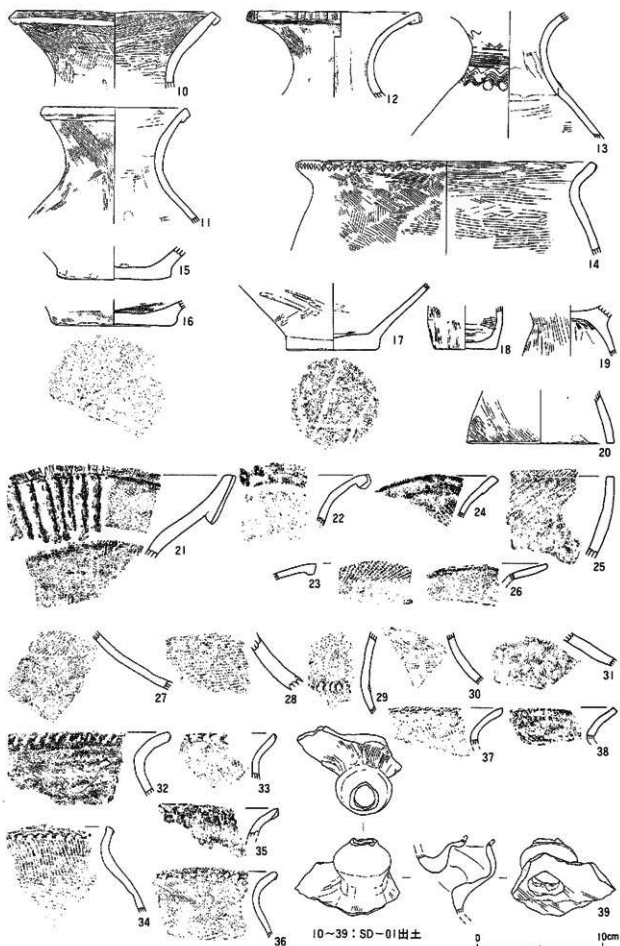
SD-04出土木製品(第45図、図版21、W-6) 建築部材か。両端を括る。

SD-02及びSD-03出土木製品(第45~47図、図版21・22、W-7~22) W-7は梯子の破片と考えられる。下端部に扶きを入れる。W-9は鋤先と思われ、斜めに穴をあける。W-10~14は槽あるいは舟形と考えられる容器類である。W-10は短側面の一辺に上端が丸く平らな把手を造り出す精巧な製品である。W-19は厚さ1.9cmを測り内側を削貫く。W-20も平面はW-19と同形態を呈するが厚さ(高さ)4.6cmを測る。

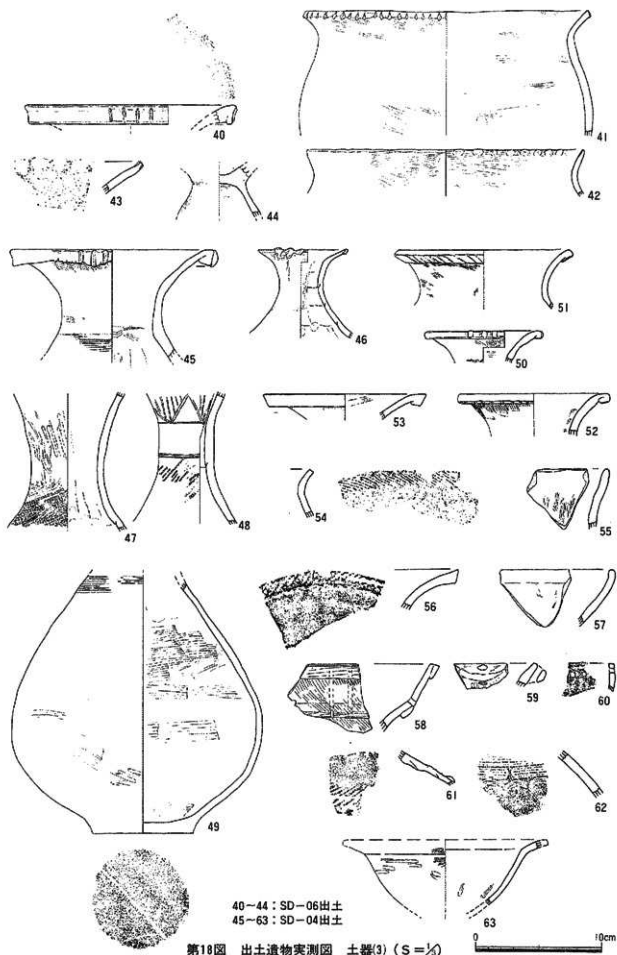
SD-09出土木製品(第48図、図版22、W-23) 鋤の柄である。握り部分は逆三角形で内側を削貫く。

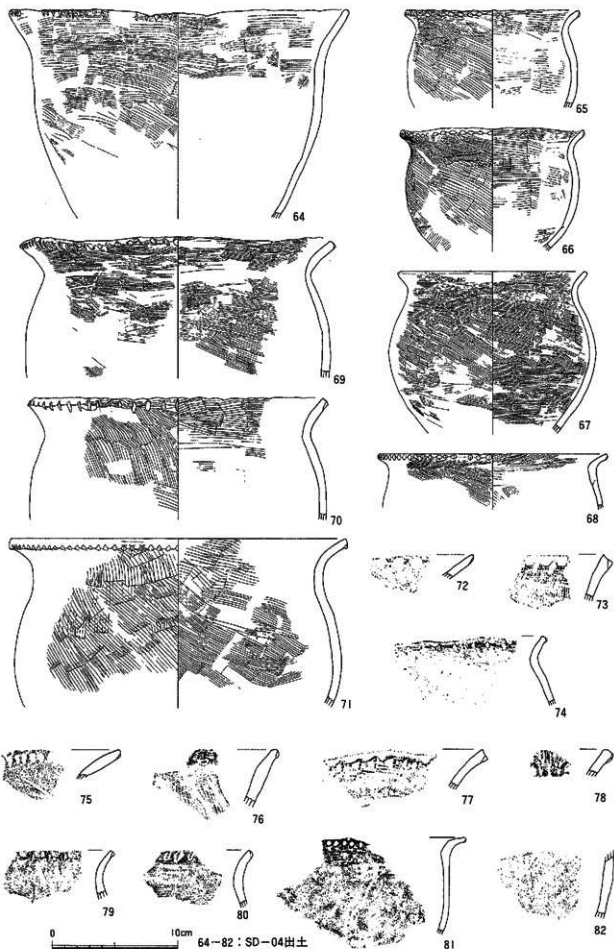
礎板(第48図、図版22、W-24~28) W-27・28はSP164に残存していた礎板である。SP164は形態Aに分類される柱穴で、それに伴うW-27・28も細長い。



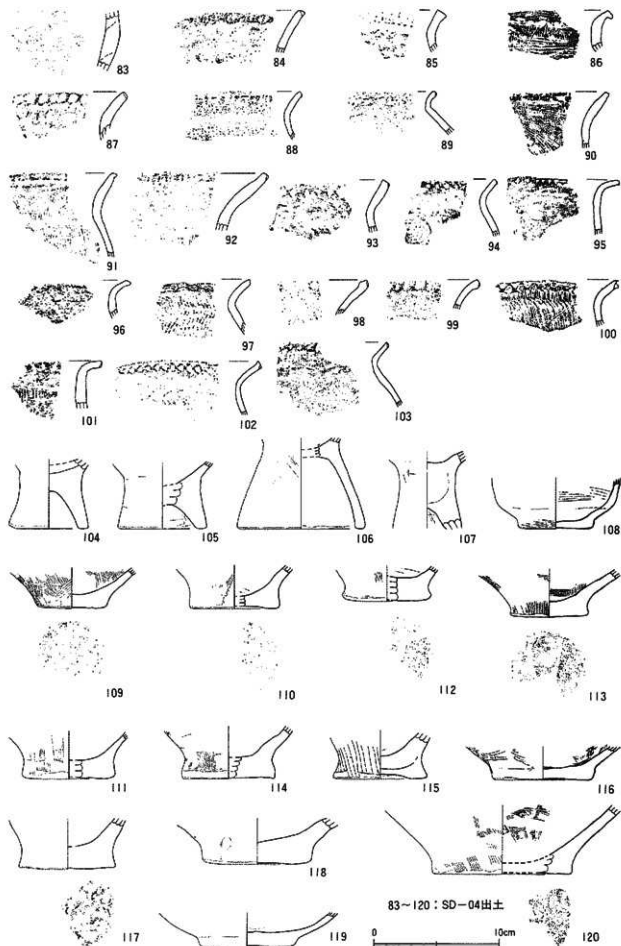


第17图 出土遺物実測図 土器(2) (S=1/2)

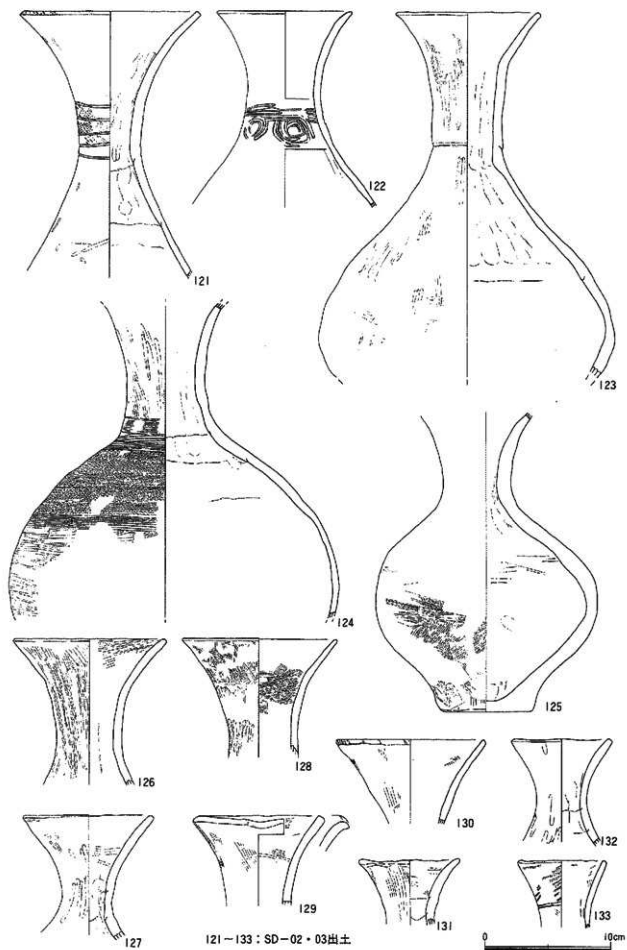




64~82: SD-04出土
第19図 出土遺物実測図 土器(4) (S=1/2)

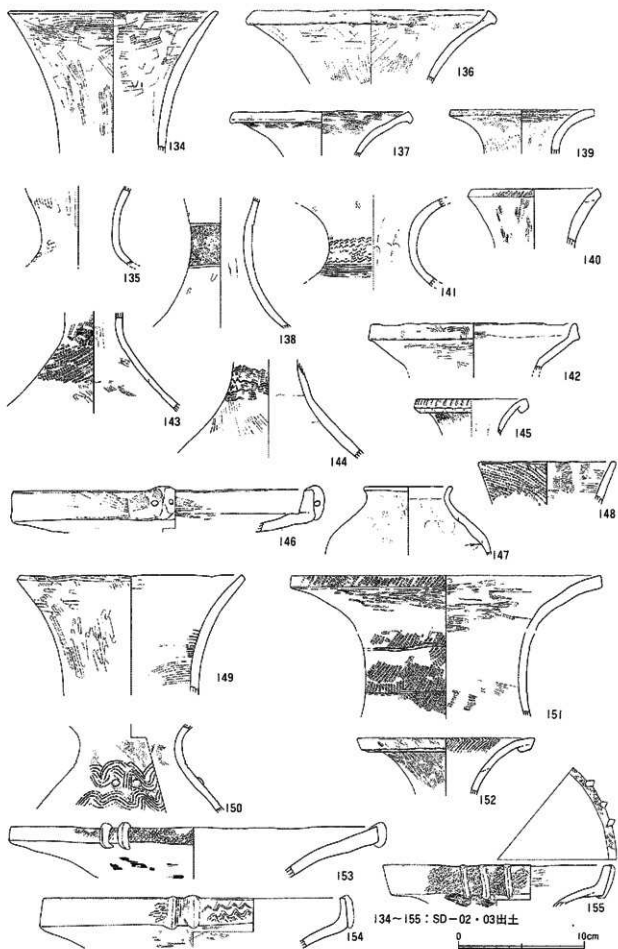


第20图 出土物実測図 土器(5) (S=1/5)

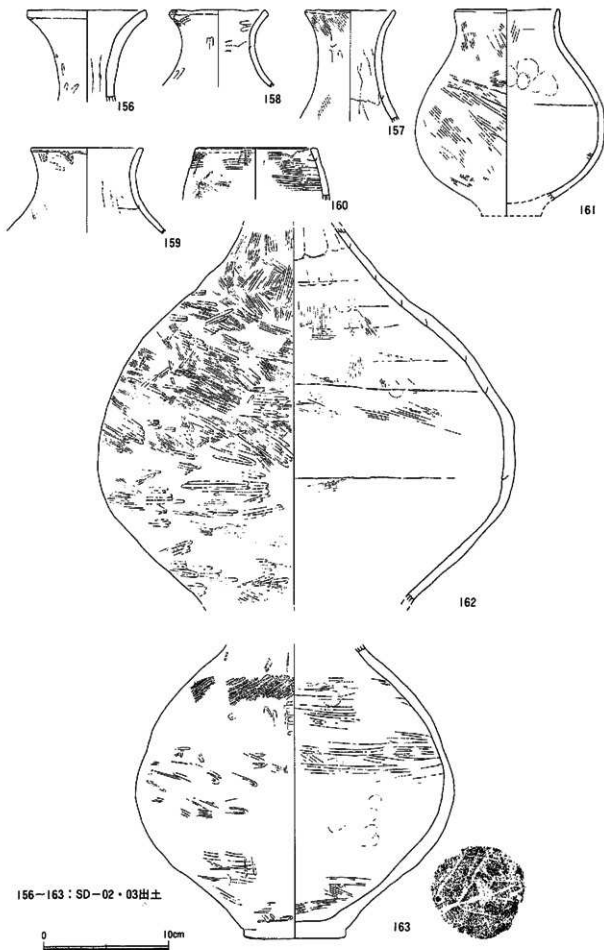


121-133: SD-02・03出土

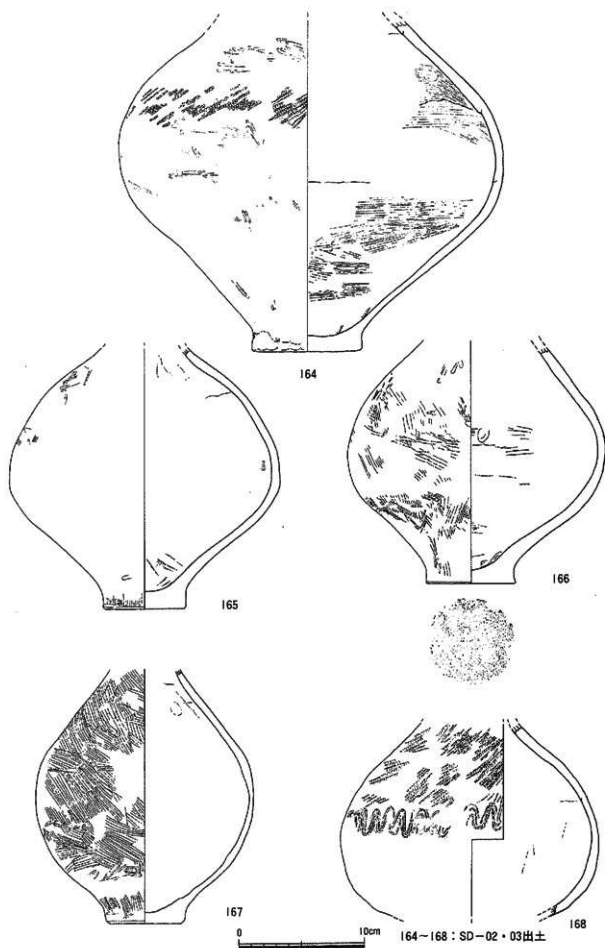
第21図 出土遺物実測図 土器(6) (S=1/4)



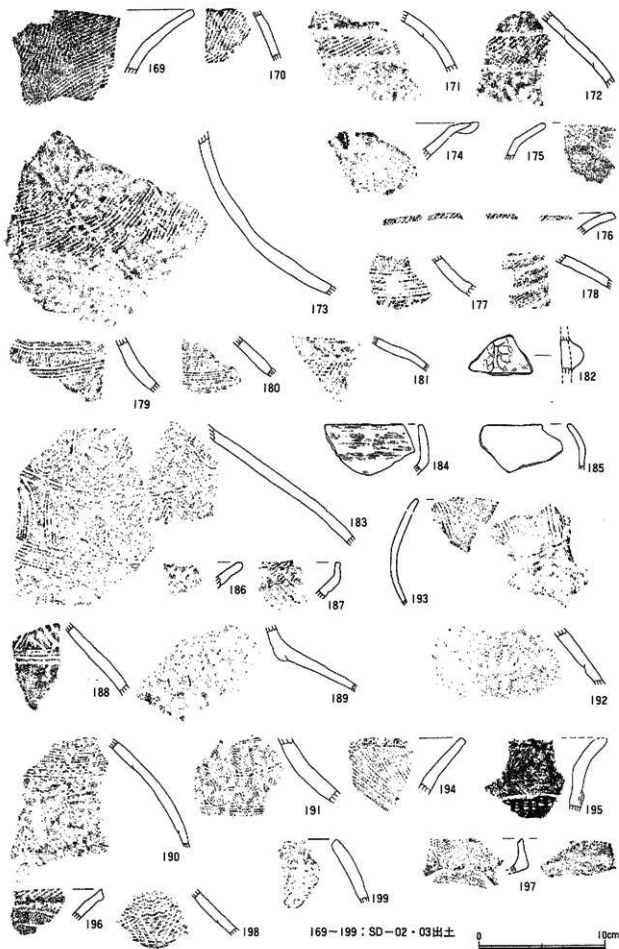
第22図 出土遺物実測図 土器(7) (S=1/5)



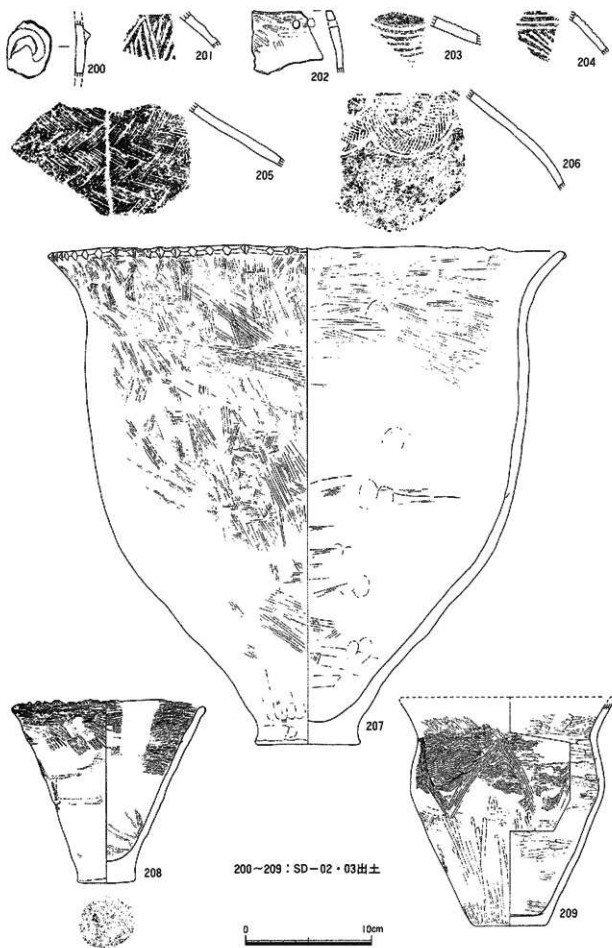
第23図 出土遺物実測図 土器(6) (S=1/2)



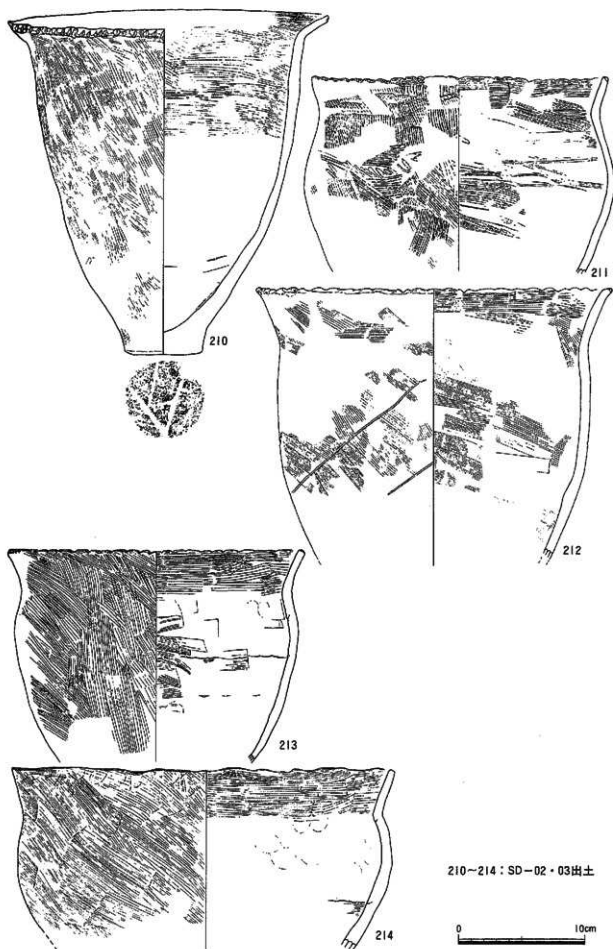
第24図 出土遺物実測図 土器(9) (S=1/2)



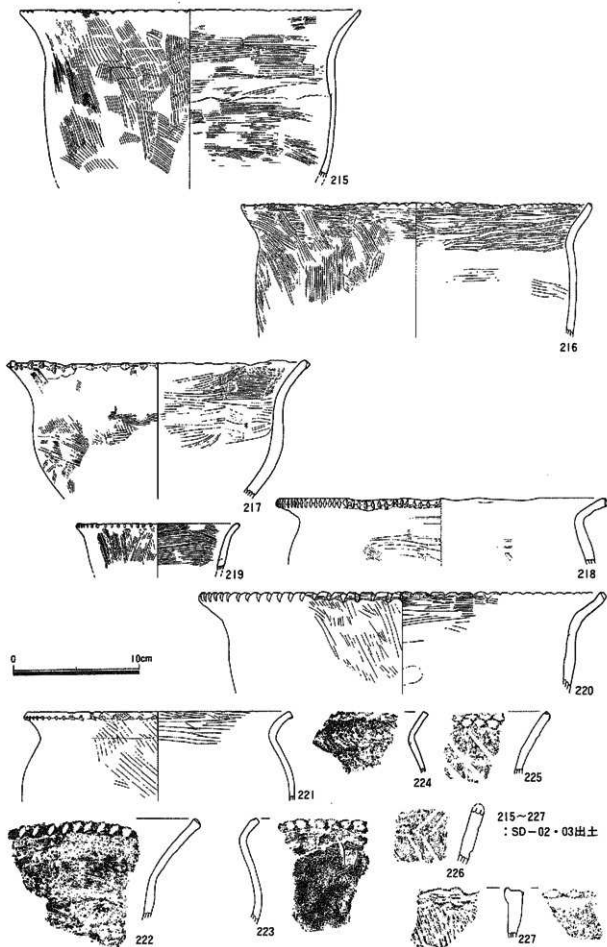
第25图 出土物実測図 土器10 (S=1/2)



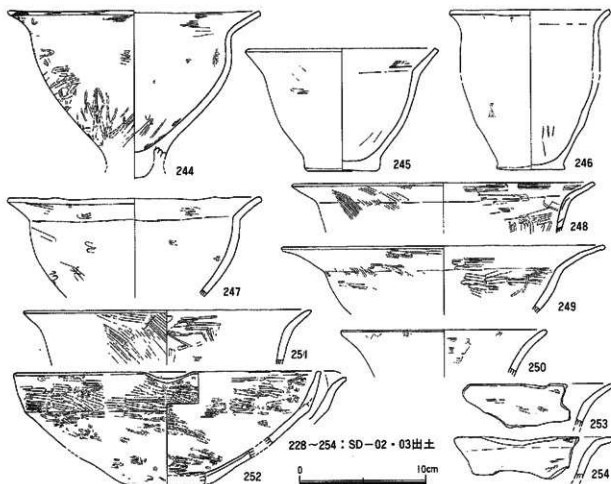
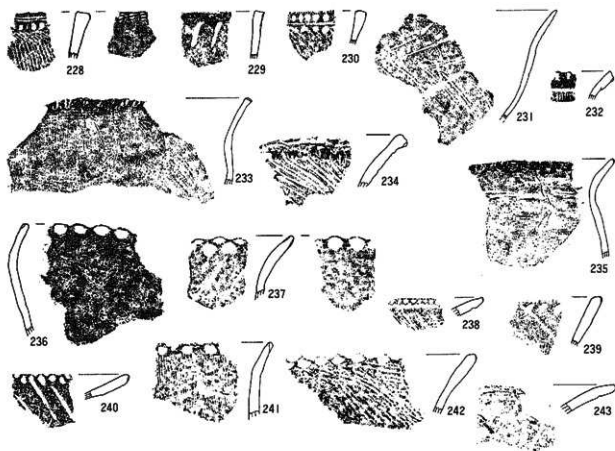
第26図 出土遺物実測図 土器(1) (S=1/2)



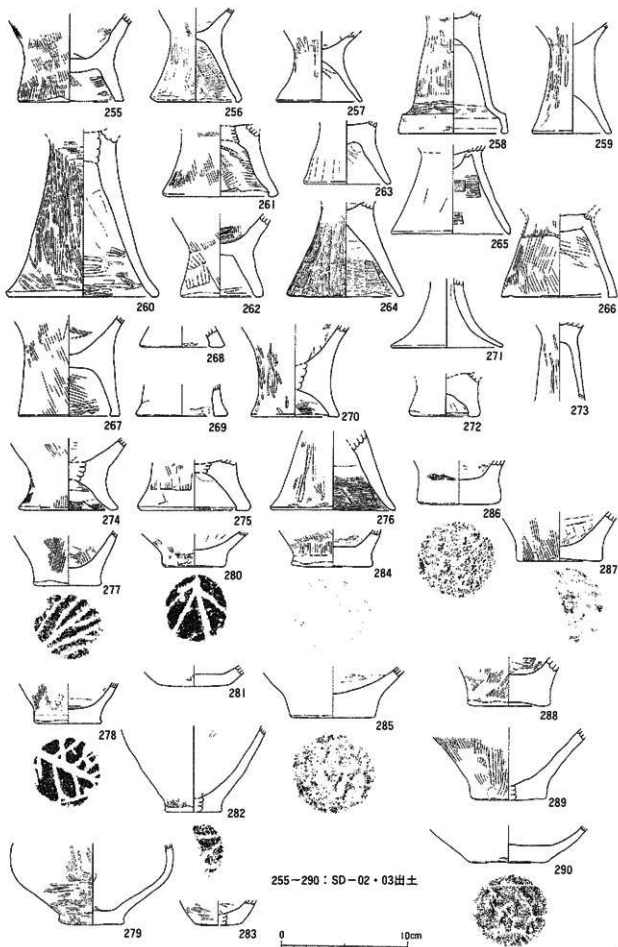
第27図 出土遺物実測図 土器02 (S=1/2)



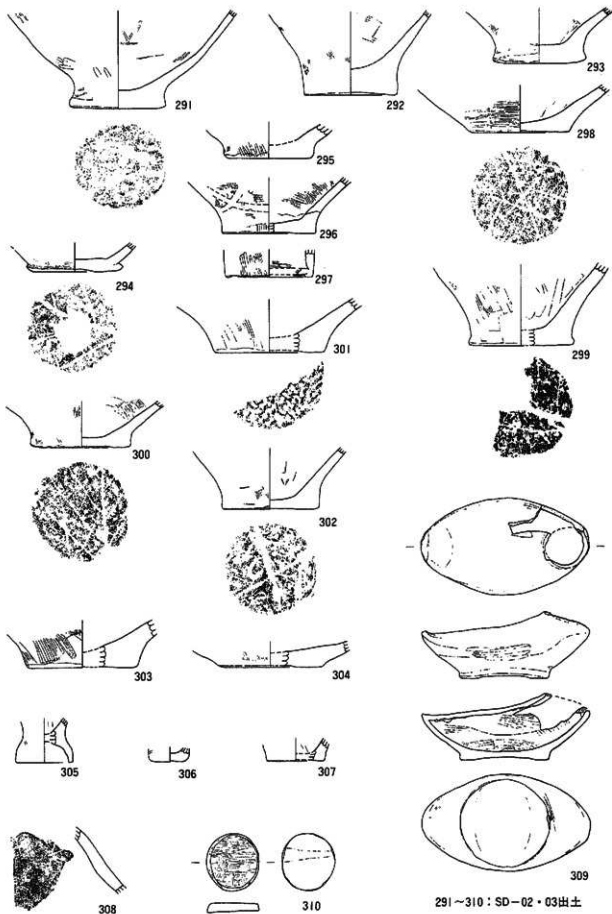
第28図 出土遺物実測図 土器(3) (S=1/2)



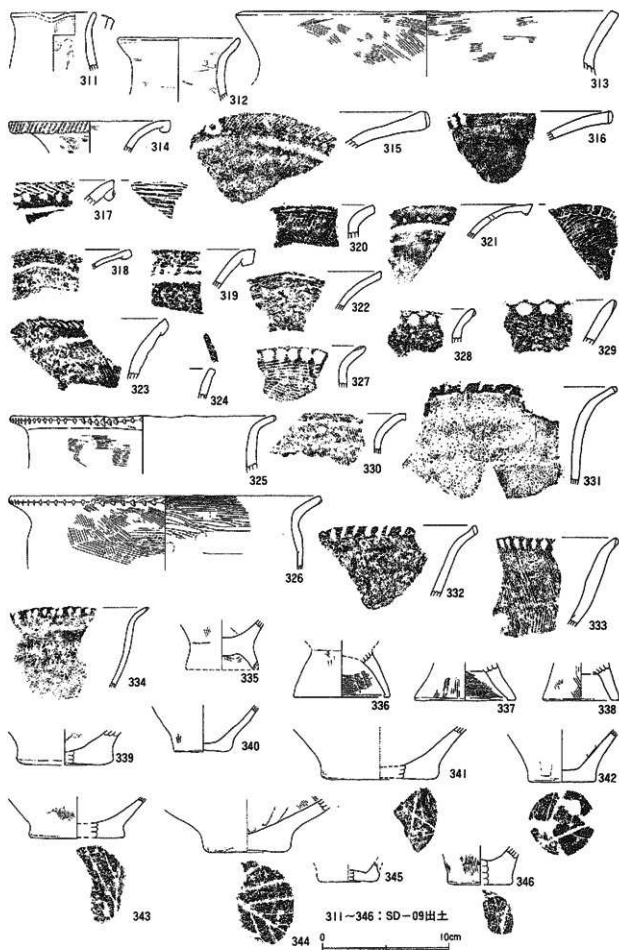
第29図 出土遺物実測図 土器(4 (S=1/2))



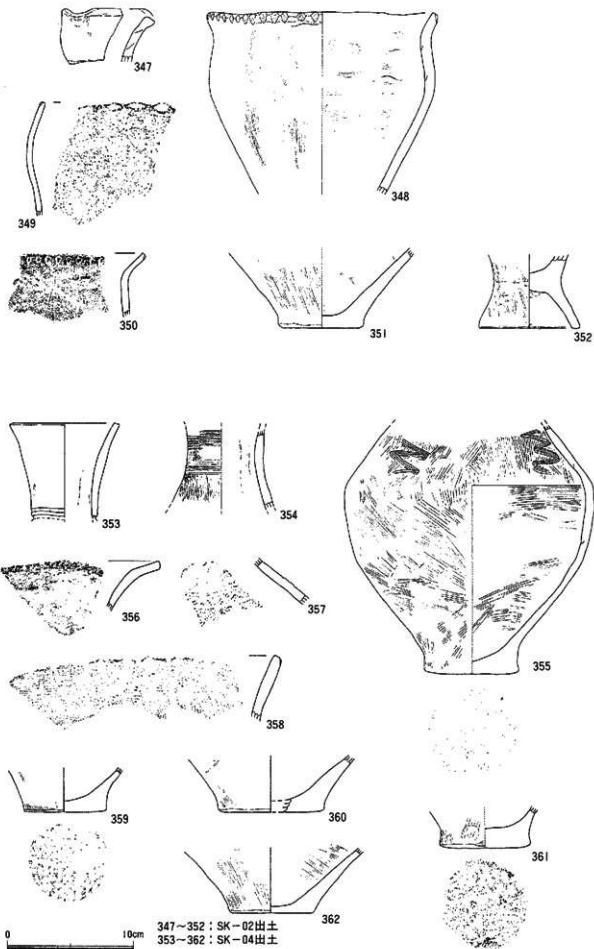
第30図 出土遺物実測図 土器(9) (S=1/4)



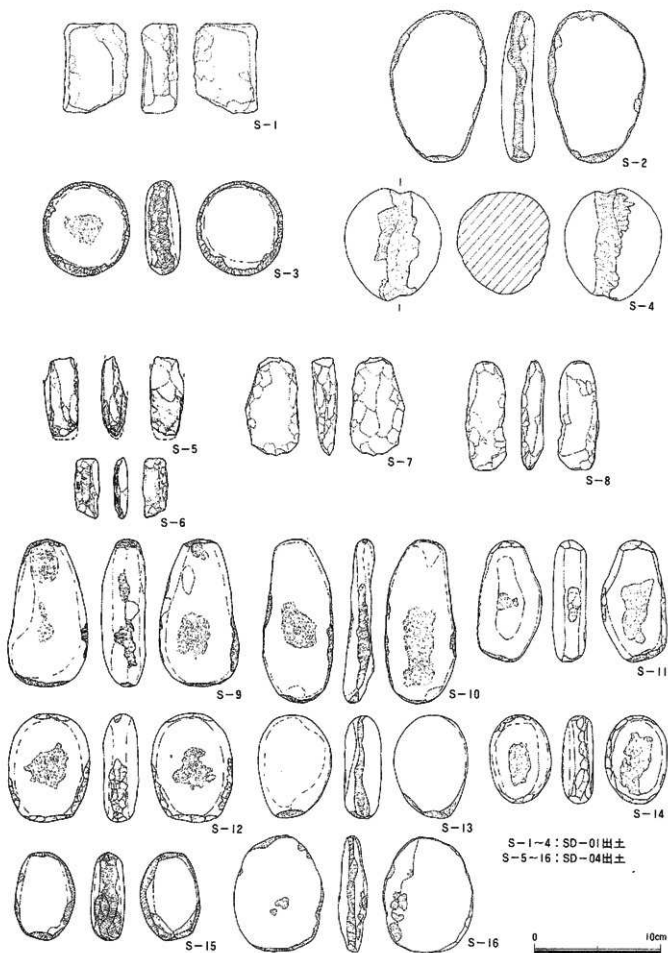
第31図 出土遺物実測図 土器⑩ (S=1/3)



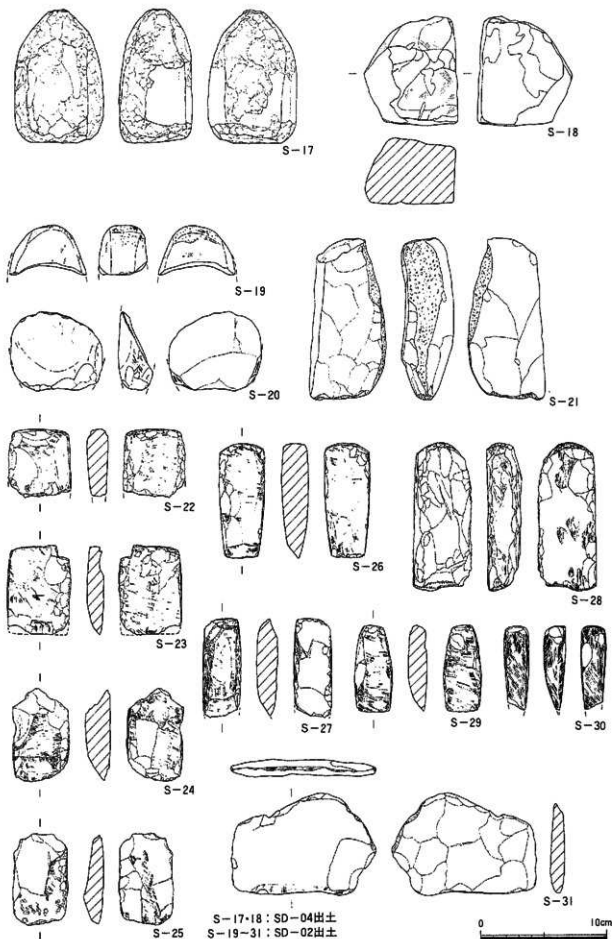
第32图 出土遺物実測図 土器(17) (S=1/2)



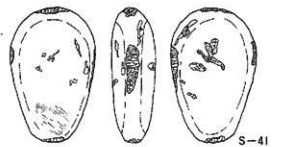
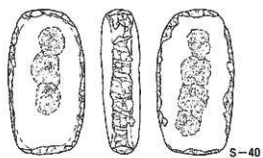
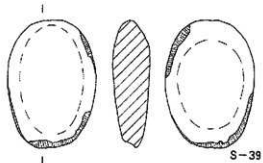
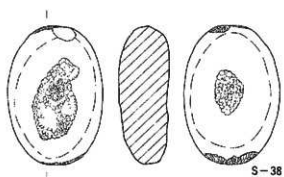
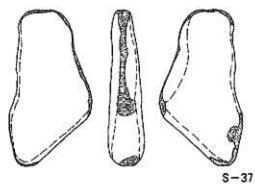
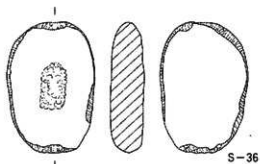
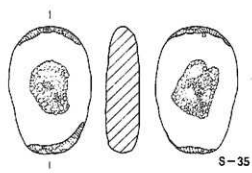
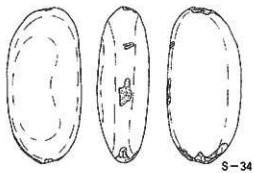
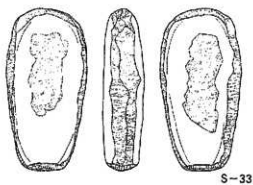
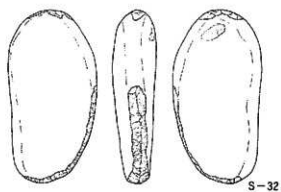
第33图 出土遺物実測図 土器Ⅱ(S=1/2)



第34図 出土遺物実測図 石器(1) (S=1/2)



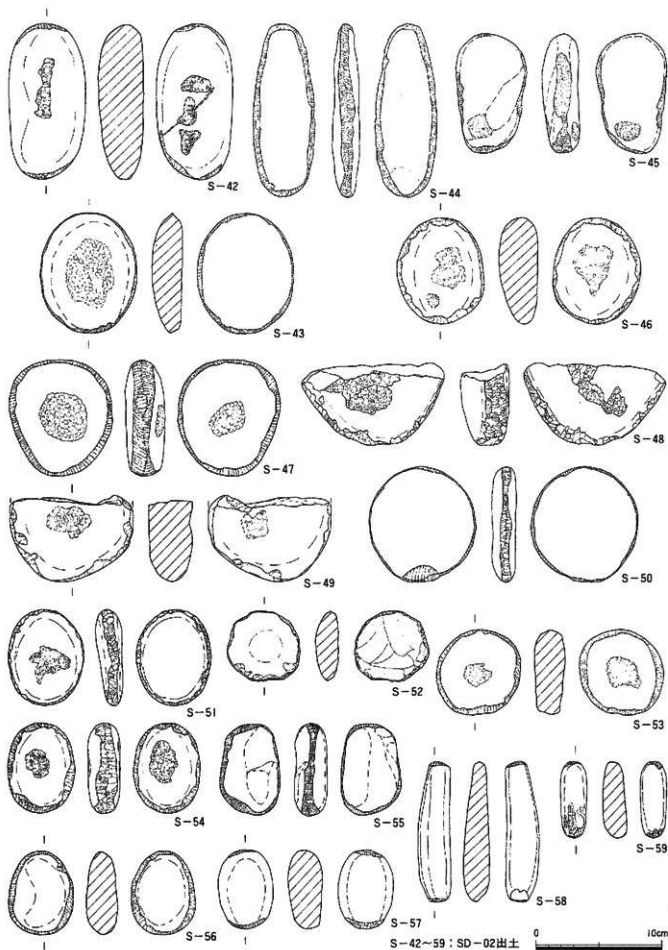
第35図 出土遺物実測図 石器(2) (S=1/4)



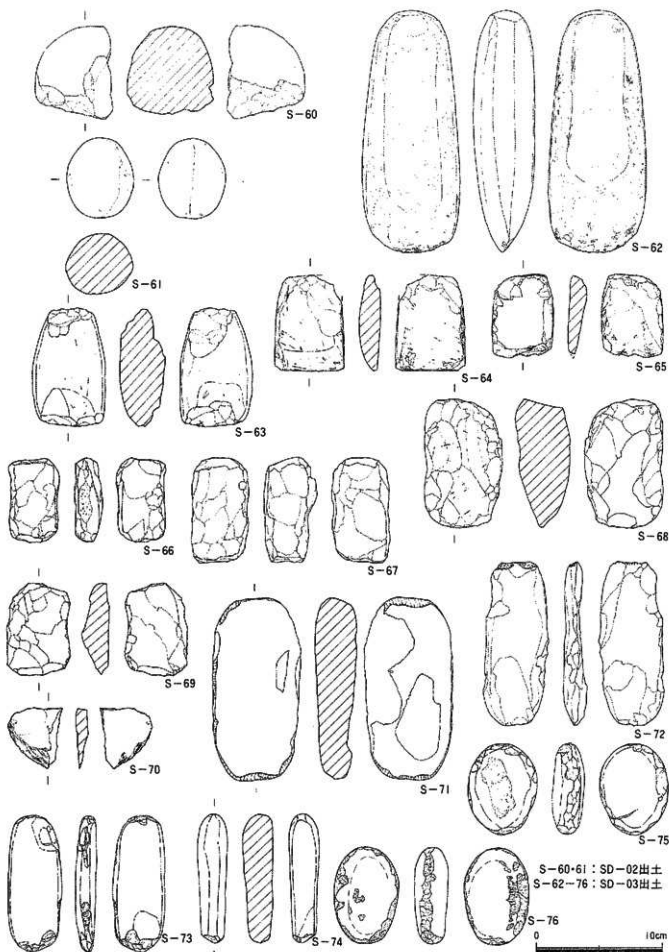
S-32~41 : SD-02出土

0 10cm

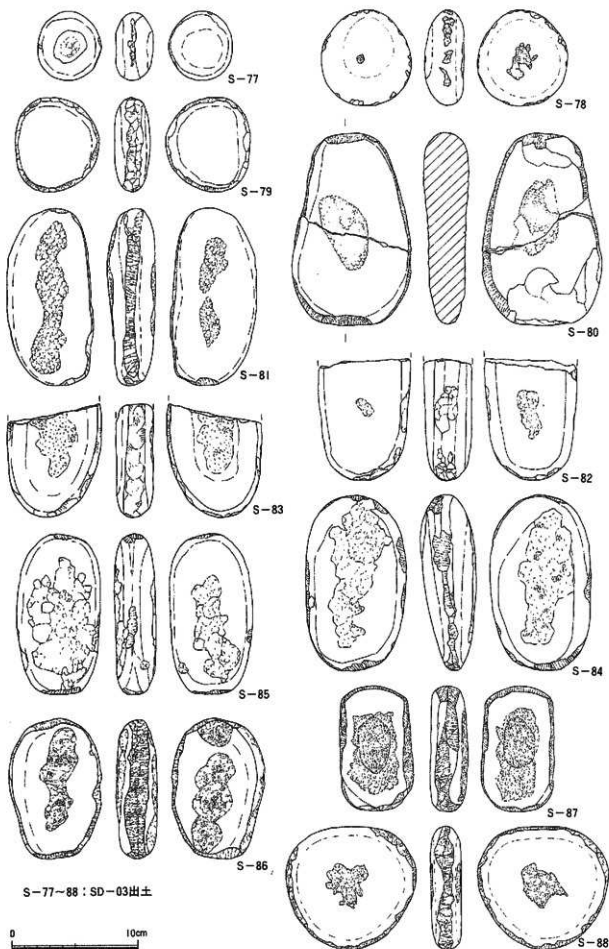
第36図 出土遺物実測図 石器(3) (S=1/2)



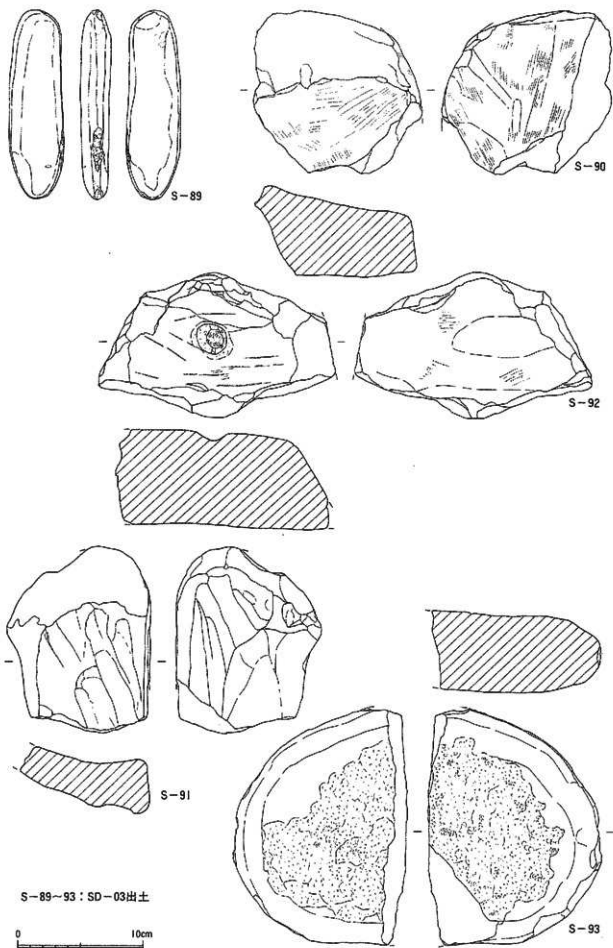
第37圖 出土遺物実測圖 石器(4) (S=1/2)



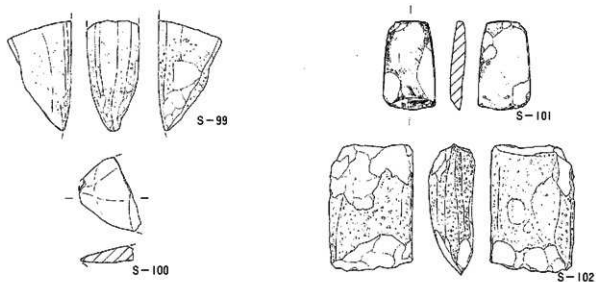
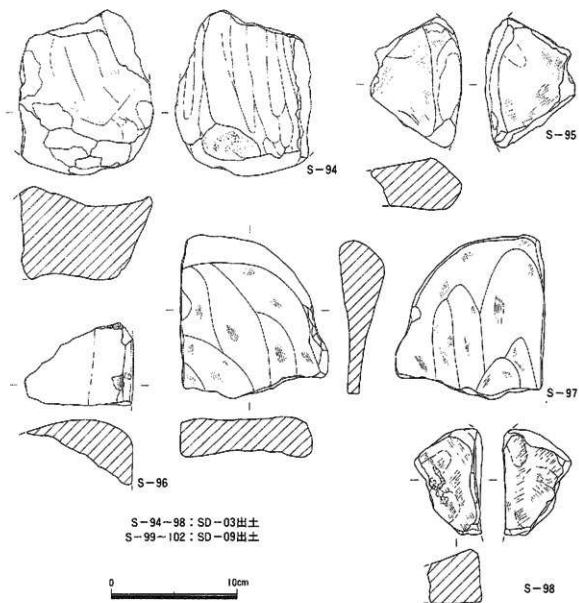
第38図 出土遺物実測図 石器(5) (S=1/2)



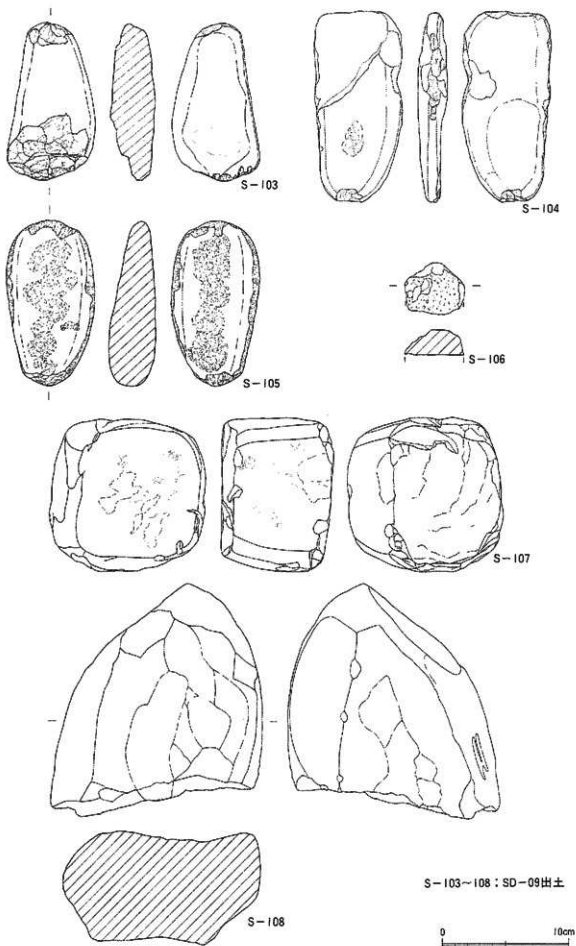
第39图 出土遺物実測図 石器(6) (S=1/4)



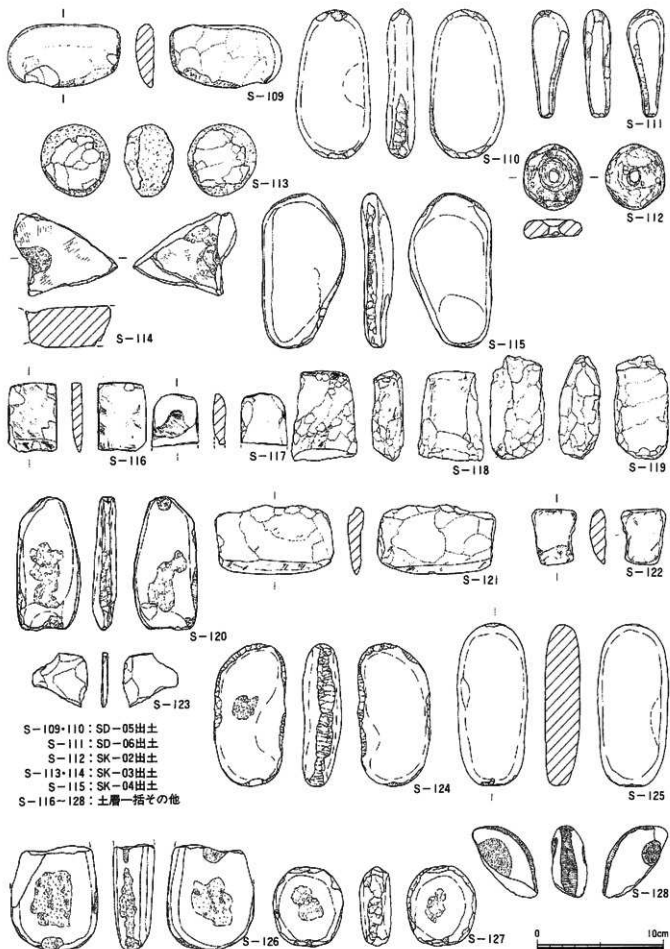
第40図 出土遺物実測図 石器(7) (S=1/5)



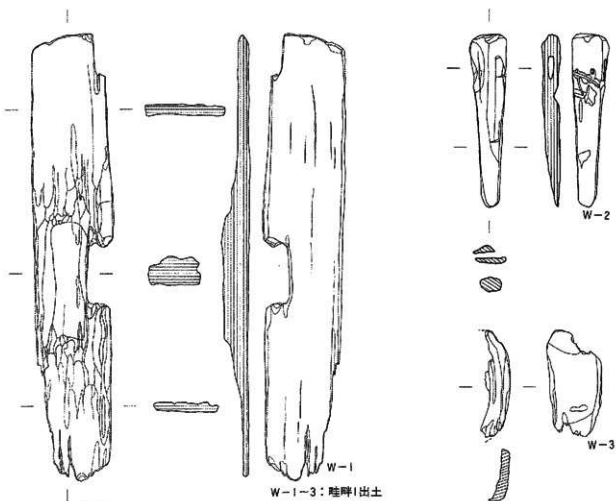
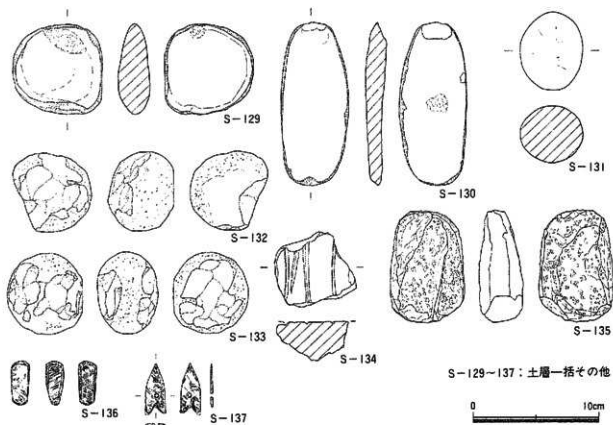
第41图 出土遺物実測図 石器(8) (S=1/4)



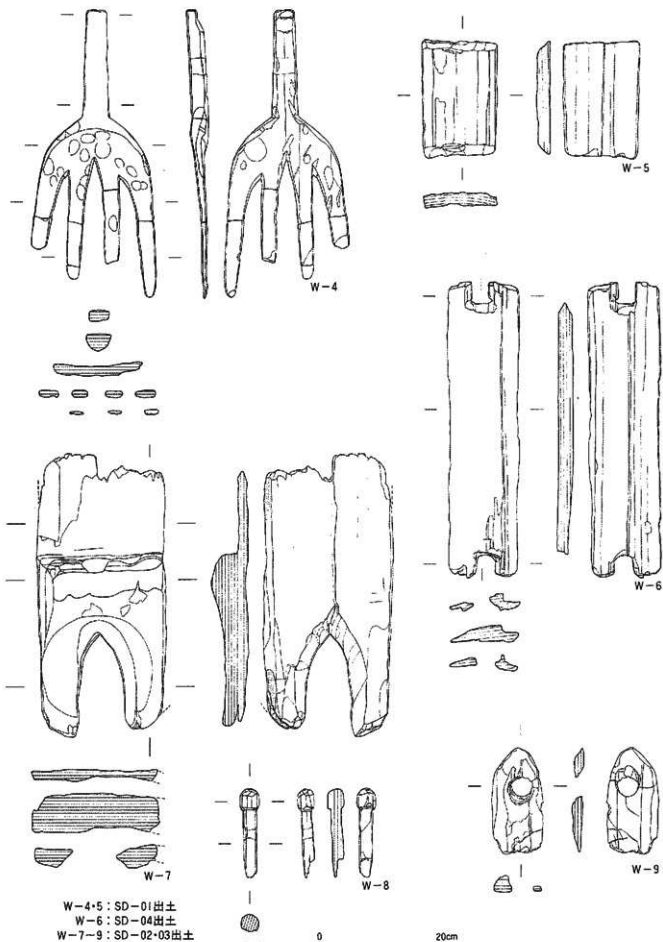
第42図 出土遺物実測図 石器(9) (S=1/4)



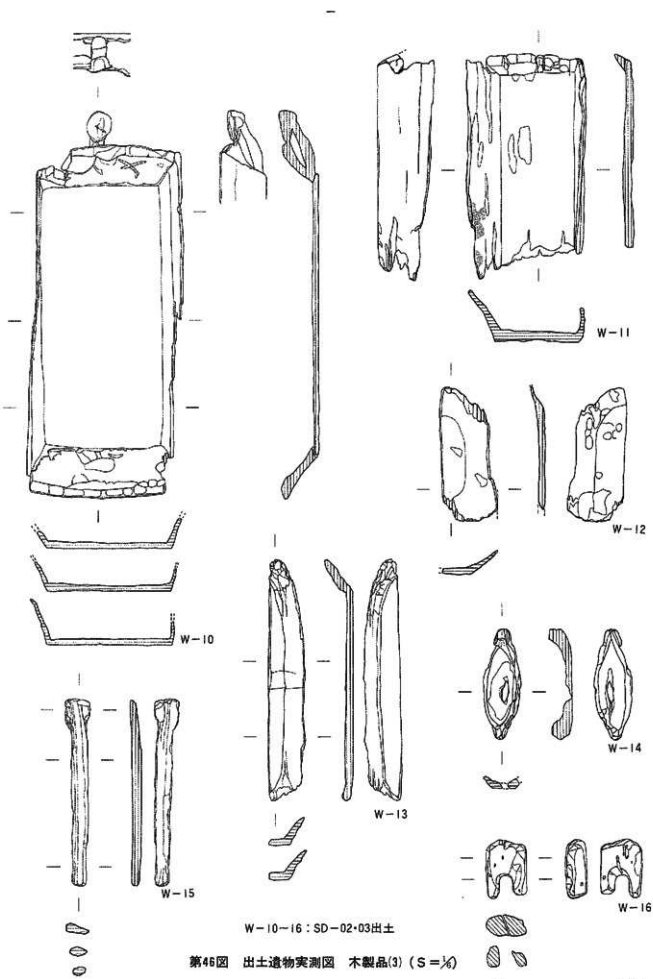
第43図 出土遺物実測図 石器(10) (S=1/4)



第44図 出土遺物実測図 石器(1) (S=1/4)、木製品(1) (S=1/4)

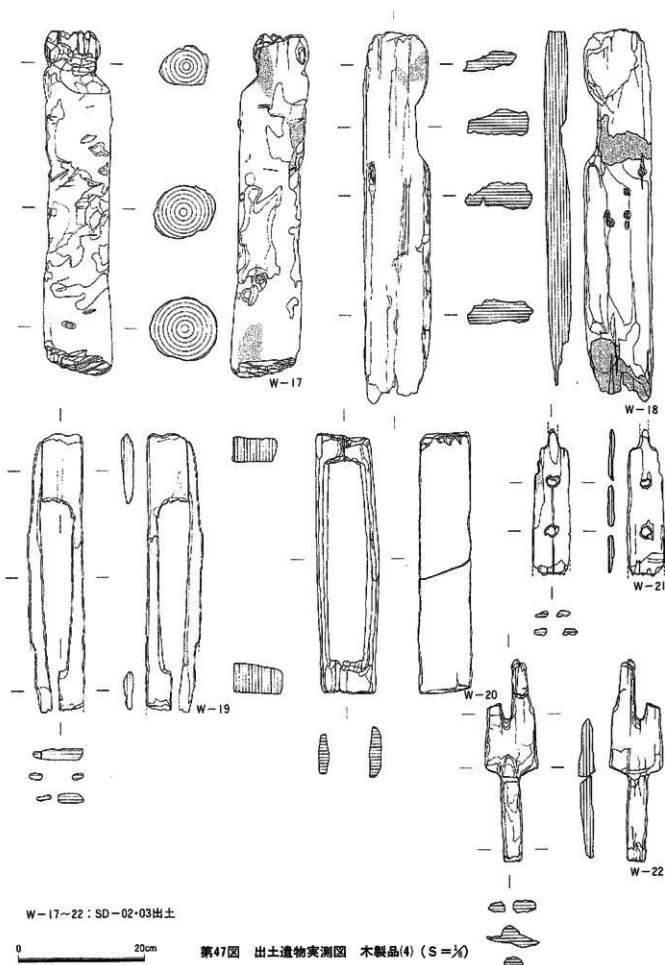


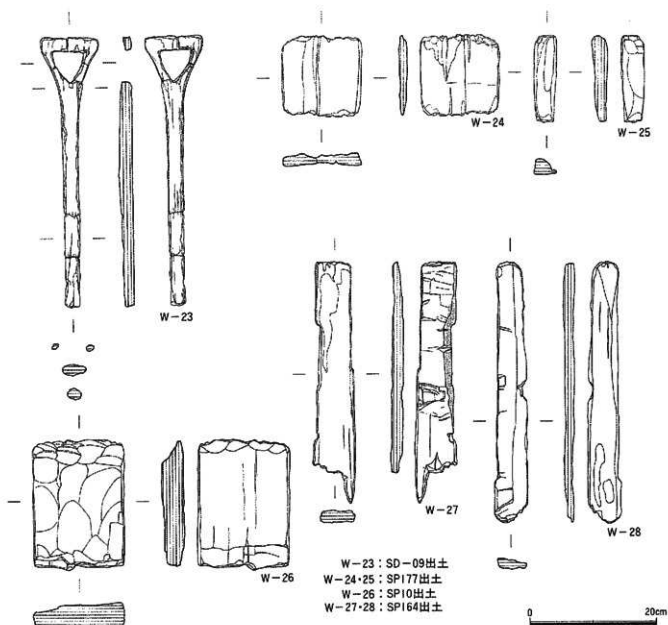
第45図 出土遺物実測図 木製品(2) (S=1/4)



W-10-16 : SD-02-03出土

第46図 出土遺物実測図 木製品(3) (S=1/6)





第48図 出土遺物実測図 木製品(5) (S=%)

土器

- 62 -

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石器

道庁No.	種 類	出 土 区 域		法 量				石 材	特徴・その他	備考	図録 No.	注記No.
		地 区	遺構/埋没位置	長さ[m]	幅[m]	厚さ[m]	重量[kg]					
S-1	扁平片石瓦葺	A-1b	SO-41・下層	9.1	5.6	2.8	139	津波被害状況あり	未製品	34-18	205	
S-2	板石	A-1b	SO-41・上層	12.9	7.7	2.1	350	奥層石		34-18	093	
S-3	板石	A-1b	SO-41・下層	7.6	5.9	2.7	216	中粒砂岩		34-18	205	
S-4	板石	A-1b	SO-41・下層	7.7	8.9	6.9	662	粗粒砂岩	刀削欠損	34-18	227	
S-5	柱状片石瓦葺	B-2a	SO-44・上層	6.3	2.6	1.9	38	赤色玄武岩	万葉のみ残存	34-18	345	
S-6	板石	B-1c・d	SO-44・上層	4.8	1.9	1.0	20	石灰質砂岩		34-18	236	
S-7	扁平片石瓦葺	B-1d	SO-44・下層	7.7	4.7	1.7	89	赤色玄武岩	未製品	34-18	341	
S-8	柱状片石瓦葺	A-2d	SO-44・下層	8.7	3.0	1.6	79	黒色中粒砂岩	未製品	34-18	1102	
S-9	板石	B-1b・B-2a	SO-44	11.7	6.4	3.6	379	粗粒砂岩		34-18	1518	
S-10	板石	A-2a	SO-44・上層	13.9	5.5	1.8	200	黒色粗粒砂岩		34-18	409	
S-11	板石	A-2c	SO-44・上層	9.6	5.1	2.6	189	中粒砂岩		34-18	1103	
S-12	板石	B-1d	SO-44・下層	8.7	6.5	2.5	228	中粒砂岩		34-18	341	
S-13	板石	B-1d	SO-44・下層	8.1	5.9	2.8	198	中粒砂岩		34-18	348	
S-14	板石	B-1d	SO-44・下層	7.0	4.9	2.5	129	中粒砂岩		34-18	348	
S-15	板石	B-1d	SO-44・下層	7.9	4.7	3.2	419	中粒砂岩		34-18	348	
S-16	礎石	B-2c・B-1d	SO-44・上層	9.4	7.1	2.5	200	玄武岩(嵐山・高野山産)		34-18	236	
S-17	礎石・板石	B-1c	SO-44・上層	10.6	7.1	5.4	648	黒色中粒砂岩		33-18	710	
S-18	礎石?	B-1b・B-2a	SO-44	8.7	7.3	5.3	472	板状砂岩(長閑川系)		33-18	1318	
S-19	大層板片石瓦葺	B-2b	SO-42・下層	3.9	6.	3.9	112	奥層石	基礎のみ残存	33-18	835	
S-20	大層板片石瓦葺	C-3a	SO-42・奥土居	6.3	7.4	2.7	124	粗粒・粗面岩	万葉の近置あり	33-18	665	
S-21	大層板片石瓦葺	B-2b	SO-42・下層	12.8	6.0	4.1	458	粗粒奥層石	未製品	33-18	835	
S-22	扁平片石瓦葺	B-3d・C-3b	SO-42・下層	5.5	3.0	1.7	79	濁沢石	基礎のみ残存	33-18	1154	
S-23	扁平片石瓦葺	C-3b	SO-42・下層	7.2	5.1	1.4	84	奥層・濁沢石		33-18	1076	
S-24	扁平片石瓦葺	B-2b	SO-42・上層	7.4	4.6	2.9	87	赤紫色奥層石		33-18	282	
S-25	扁平片石瓦葺	B-3c	SO-42・下層	7.3	4.4	1.6	68	黒色玄武岩	未製品	33-18	194	
S-26	柱状片石瓦葺	B-3c	SO-42・下層	9.1	3.7	2.1	129	炭灰石		33-18	241	
S-27	柱状片石瓦葺	B-2a	SO-42	7.9	3.1	1.6	68	板状石		33-18	173	
S-28	柱状片石瓦葺	B-3c	SO-42・下層	11.8	4.7	2.7	251	赤色玄武岩		33-18	242	
S-29	柱状片石瓦葺	B-3a	SO-42・下層	7.0	3.0	1.9	49	片貫黒炭灰岩		33-18	1111	
S-30	板石	B-3c	SO-42・下層	6.7	2.1	1.8	38	炭灰岩	刀削欠損	33-18	197	
S-31	銅片石板	B-3d	SO-42・下層	8.1	11.5	1.2	147	板状板岩	刻石の図録を併し参照する	33-18	955	
S-32	板石	B-2b	SO-42・下層	13.7	6.9	3.3	460	粗粒砂岩		36-19	299	
S-33	板石	B-3d	SO-42・下層	12.9	6.5	3.3	449	粗粒砂岩		36-19	996	
S-34	礎石	C-3b	SO-42・下層	12.5	5.9	4.1	432	粗粒砂岩		36-19	1133	
S-35	板石	B-3c	SO-42・下層	10.1	6.6	2.7	295	粗粒砂岩		36-19	1035	
S-36	板石	B-3d	SO-42・下層	10.4	7.1	2.8	337	奥層石		36-19	212	
S-37	板石	B-3a	SO-42・下層	12.4	6.4	2.7	282	粗粒砂岩		36-19	38	
S-38	板石	B-2b	SO-42・下層	11.0	7.8	4.1	508	粗粒砂岩		36-19	931	
S-39	板石	B-3d	SO-42・下層	10.1	7.1	3.6	342	砂質頁岩		36-19	199	
S-40	礎石・板石	C-3b	SO-42・下層	11.5	6.1	2.9	346	玄武岩(嵐山・高野山産)		36-19	1148	
S-41	礎石	B-3a	SO-42・下層	10.7	6.8	3.2	350	粗粒砂岩		36-19	1160	
S-42	板石	B-3c	SO-42・奥土居	12.4	6.2	3.6	449	中粒砂岩		37-19	1580	

遺物No.	種 類	出土位置		注 記		石 材	特徴・その他	図説No.	記号
		地 区	遺構・層位等	長さ(mm)	幅(mm)				
S 43	磁石	B-3c	SD-02・下層	9.5	2.8	2.5	310 緑色斑状砂岩	37	19 218
S 44	磁石	C-3b	SD-02・埋込土層	13.8	4.9	1.5	288 緑色斑状砂岩	37	19 1006
S 45	磁石	B-3d	SD-02・下層	9.5	5.6	2.8	218 緑色斑状砂岩	37	19 1180
S 46	磁石	B-3d	SD-02・下層	8.4	7.9	3.3	152 中粒砂岩	37	19 1163
S 47	磁石	B-3・C-3	SD-02・埋込土層	9.2	8.2	2.7	340 中粒砂岩	37	19 1150
S 48	磁石	B-3d	SD-02・下層	6.4	11.2	3.9	362 玄武岩(龍溪・高草山系)	37	19 677
S 49	磁石	B-3b	SD-02・下層	9.8	6.5	3.6	355 斑岩	37	19 319
S 50	磁石	B-3d	SD-02・下層	9.2	2.0	2.1	247 玄武岩(龍溪・高草山系)	37	19 951
S 51	磁石	B-3a	SD-02・下層	7.6	6.5	1.9	131 中粒砂岩	37	19 1159
S 52	磁片	B-2b	SD-02・下層	5.6	5.8	1.8	78 細粒砂岩	37	19 399
S 53	磁石	C-3b	SD-02・下層	6.8	6.7	2.5	173 中粒砂岩	37	19 1211
S 54	磁石	C-3b	SD-02・下層	7.2	5.4	2.5	143 中粒砂岩	37	19 1182
S 55	磁石	B-2b	SD-02・下層	7.3	4.9	2.5	116 中粒砂岩	37	19 1202
S 56	磁石	B-3d	SD-02・下層	6.6	5.2	2.5	118 中粒砂岩	37	19 997
S 57	磁石	B-3d	SD-02・下層	6.3	4.4	2.7	110 細粒砂岩	37	19 1168
S 58	磁石	B-3c	SD-02・下層	11.1	2.6	2.1	102 斑状砂岩	37	19 936
S 59	磁石	B-3c	SD-02・下層	6.1	2.2	1.9	30 細粒砂岩	37	19 349
S 60	磁石	B-3c	SD-02・下層	7.4	6.9	6.7	280 斑状砂岩	38	19 1240
S 61	円筒	B-3a	SD-02・下層	6.4	5.4	4.8	212 斑状砂岩	38	19 1330
S 62	太巻地石片	B-2a	SD-03・下層	19.2	7.8	4.9	1115 斑状砂岩	38	19 1607
S 63	太巻地石片	B-2c	SD-03	9.4	5.7	3.6	281 斑状砂岩	38	19 1504
S 64	扁平片石片	B-2c	SD-03・下層	7.7	5.5	1.7	126 紫色斑状砂岩	38	19 1217
S 65	扁平片石片	B-2c	SD-03・下層	6.5	4.9	1.4	64 斑状砂岩	38	19 1188
S 66	扁平片石片	C-1b	SD-03・下層	6.6	2.9	2.1	90 斑状砂岩	38	19 1322
S 67	扁平片石片	B-2b	SD-03・下層	8.3	4.5	4.2	278 赤色玄武岩	38	19 512
S 68	扁平片石片	B-2b	SD-03・下層	10.2	6.1	4.2	443 赤色玄武岩	38	19 785
S 69	扁平片石片	B-2b	SD-03	7.4	5.0	2.1	191 片岩	38	19 1349
S 70	片岩	C-1d	SD-03・上層	4.8	3.9	9.9	17 斑状砂岩	38	19 379
S 71	磁石	C-3c	SD-03・上層	12.9	5.6	2.8	339 斑状砂岩	38	19 184
S 72	磁石	B-2a	SD-03・下層	12.9	5.0	1.1	140 斑状砂岩	38	19 999
S 73	磁石	B-2c	SD-03・下層	9.8	4.2	1.5	128 斑状砂岩	38	19 440
S 74	磁石	B-2a	SD-03	8.2	2.4	2.4	105 斑状砂岩	38	19 831
S 75	磁石	C-1b	SD-03・上層	7.2	5.5	2.5	145 中粒砂岩	38	19 370
S 76	磁石	B-2d	SD-03	7.5	5.2	2.6	139 中粒砂岩	38	19 1312
S 77	磁石	B-2c	SD-03・上層	5.5	5.1	2.9	120 斑状砂岩	39	19 346
S 78	磁石	C-1a	SD-03・下層	7.6	7.1	3.1	249 玄武岩(龍溪・高草山系)	39	19 1321
S 79	磁石	C-1b	SD-03・上層	7.5	6.7	2.8	215 中粒砂岩	39	19 364
S 80	磁石	B-2c	SD-03・下層	15.4	9.5	3.6	833 玄武岩(龍溪・高草山系)	39	19 442
S 81	磁石	B-2a	SD-03・下層	14.1	6.8	3.6	588 玄武岩(龍溪・高草山系)	39	19 595
S 82	磁石	B-1d	SD-03	9.5	7.4	3.6	430 斑岩	39	19 1319
S 83	磁石	B-1d	SD-03・下層	9.0	7.6	2.9	306 斑状砂岩	39	19 1243
S 84	磁石	B-2a	SD-03・下層	15.0	8.1	4.2	729 斑岩	39	19 901
S 85	磁石	B-2a	SD-03・下層	12.8	6.6	3.3	456 玄武岩(龍溪・高草山系)	39	19 903
S 86	磁石	B-2a	SD-03・下層	11.2	7.4	3.3	311 中粒砂岩	39	19 766
S 87	磁石	B-2a	SD-03・上層	16.0	5.9	2.6	305 中粒砂岩	39	19 361
S 88	磁石	B-2c	SD-03・下層	9.8	10.4	2.4	399 中粒砂岩	40	19 1313
S 89	磁石	B-2c	SD-03・下層	15.0	1.4	2.0	225 中粒砂岩	40	19 247
S 90	磁石	B-2a	SD-03・下層	12.7	13.4	6.4	1170 斑状砂岩(斑状砂岩)	40	19 767
S 91	磁石	B-2a	SD-03・下層	14.8	11.5	4.3	925 斑状砂岩(斑状砂岩)	40	19 768
S 92	磁石	B-2a	SD-03・下層	11.7	13.8	8.2	2220 斑状砂岩(斑状砂岩)	40	19 902
S 93	磁石	B-2c	SD-03・下層	18.7	13.7	6.3	2454 斑状砂岩(斑状砂岩)	40	19 567
S 94	磁石	C-1a	SD-03・下層	12.6	10.7	7.3	1061 斑状砂岩(斑状砂岩)	41	19 1321
S 95	磁石	C-1a	SD-03・下層	19.3	7.2	4.1	350 斑状砂岩(斑状砂岩)	41	19 1321
S 96	磁石	B-2a	SD-03・下層	6.6	8.7	4.1	210 斑状砂岩(斑状砂岩)	41	19 774
S 97	磁石	B-2b	SD-03・下層	13.0	11.9	20.3	546 斑状砂岩(斑状砂岩)	41	19 800
S 98	磁石	B-2c	SD-03・下層	8.4	5.4	4.2	249 斑状砂岩(斑状砂岩)	41	19 347
S 99	太巻砂岩片	A-2d	SD-09	8.7	5.1	4.2	218 斑状砂岩	41	19 1182
S 100	片岩	B-3b	SD-09	4.2	5.3	1.0	35 片岩	41	19 597
S 101	扁平片石片	A-3d	SD-09	7.1	4.1	1.1	48 斑岩	41	19 1299
S 102	扁平片石片	A-3c	SD-09	16.0	6.5	3.5	378 斑状砂岩	41	19 1590
S 103	磁石	A-3c	SD-09	72.5	6.7	3.5	400 中粒砂岩	42	19 1390
S 104	磁石	B-3b	SD-09	16.1	7.0	2.4	369 斑状砂岩	42	19 1593

資材No.	種 類	出土地		法 量				石 材	特徴・その他	採掘地	同版No.	注記No.
		地 区	道幅単位等	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(t)					
S-105	礫石	B-3a	SD-02	13.2	7.0	0.4	467	中粒砂岩		42	19	1592
S-106	礫石	A-3c	SD-09	4.1	4.7	2.0	51	増量シルト岩	磁片	42	19	1590
S-107	礫石?	A-2d	SD-09	12.3	12.1	9.0	2090	中粒砂岩(長尾川系)	一部片断や手振れにより重さか	42	19	1582
S-108	礫石	B-3a	SD-09	16.6	16.3	8.8	3685	粗粒砂岩(長尾川系)		42	19	1464
S-109	円礫	B-2a	SD-05	5.4	9.0	1.5	90	砂岩	加藤園遺し、長尾園遺し、片重 研削により重さを行ける	43	19	368
S-110	礫石	B-2a	SD-05	11.8	5.9	2.0	229	粗粒砂岩		43	19	368
S-111	礫石?	B-1b	SD-06	8.6	3.0	1.9	79	粗粒砂岩	一部磁片、樹皮遺物	43	19	680
S-112	砂礫岩	B-1b	SK-02	5.3	4.7	1.5	43	石灰質砂岩		43	19	1405
S-113	礫石	B-1d	SK-03・上層	5.7	5.4	3.9	265	増量シルト岩		43	19	1323
S-114	礫石	B-1d	SK-03・上層	6.5	7.0	3.4	190	中粒砂岩(長尾川系)		43	19	1323
S-115	礫石	C-3	SK-04	12.2	6.6	2.1	272	粗粒砂岩		43	19	1301
S-116	扁平片状石	C-3	V層	5.5	3.9	0.8	35	塊状凝灰岩		43	20	60
S-117	扁平片状石	C-3	I層	4.1	3.8	1.0	32	赤色玄武岩	刀剣欠損	43	20	25
S-118	扁平片状石	C-3	I層	7.1	5.1	2.5	141	赤色玄武岩	尖鋭品	43	20	44
S-119	扁平片状石	B-2	I層	8.2	4.3	3.0	161	赤色玄武岩	尖鋭品	43	20	1151
S-120	礫石?	B-3d	■層	10.4	5.1	1.6	170	粗粒砂岩		43	20	106
S-121	円礫	A-3d	■層	5.3	9.2	0.7	90	粗粒砂岩	片断面遺し、研削により重さ を行ける	43	20	103
S-122		B-2	■層	4.4	3.5	1.2	28	砂岩	23号欠損? 23号研削、表面遺物	43	20	87
S-123	切片	B-2	■層	4.3	4.4	0.5	13	粗粒凝灰岩		43	20	53
S-124	礫石?	B-2b	V層	11.2	5.7	2.9	288	玄武岩(龍爪・高平山系)		43	20	170
S-125	礫石?・礫石	B-2a	セクションサンプル ト(4 SD-03?)	14.1	7.1	3.4	573	玄武岩(龍爪・高平山系)		43	20	910
S-126	門石?	B-1・B-2	層位不明	8.2	6.9	2.4	251	中粒砂岩		43	20	1602
S-127	礫石	B-1c	I〜V層	6.3	5.6	2.4	136	中粒砂岩		43	20	1517
S-128	門石・礫石?	B-1・B-2	I層	5.5	4.0	2.3	78	中粒砂岩		43	20	1207
S-129	礫石	B-1b	I層	7.2	7.1	3.1	218	中粒砂岩		44	20	1578
S-130	礫石	B-2a・B-2c	セクションサンプル ト中	13.0	5.4	1.5	198	粗粒砂岩		44	20	1579
S-131		C-1	セクションサンプル ト中	6.1	5.0	4.5	133	塊状凝灰岩		44	20	1304
S-132	礫石	B-3a・B-3c	セクションサンプル ト中	6.3	5.9	5.1	271	砂質シルト岩		40	20	1588
S-133	礫石	B-3a・B-3c	セクションサンプル ト中	6.4	6.0	4.9	250	増量シルト岩		40	20	1588
S-134	礫石	B-2b	V層	5.4	6.2	3.3	130	粗粒砂岩(長尾川系)	磨削の条線本	40	20	177
S-135	円礫?	C-2	■層	9.0	5.9	2.5	65	礫石		40	20	24
S-136		C-2	I or II層	3.5	1.5	1.4	13	礫石		44	20	
S-137	有孔磨礫石	A-3d	下部下部	4.6	1.7	0.2	2	粉板		44	20	1573

木製品

資材No.	種 類	地 区	道 幅	出土層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(mm)	木 取	特徴・その他	採掘地	同版No.	注記No.
W-1	建築部材	A-3c	国府水田畔1		(70.7)	(12.8)	(4.6)	板目	先頭部、断面欠損	44	20	1491
W-2	建築部材	A-3c	国府水田畔1		(27.4)	(5.8)	(2.9)	板目	先頭部、断面欠損	44	20	1496
W-3	構	B-3b	国府水田畔1		(16.8)	(3.9)	(1.8)	板目		44	20	1385
W-4	管状式軸先	B-1	SD-01	上層	45.8	(19.6)	2.9	板目	先頭部、断面欠損	45	21	128
W-5	加工木	A-1b	SD-01	下層	18.9	12.0	2.2	板目	断面加工	45	21	225
W-6	建築部材?	B-1b	SD-04	下層	(46.9)	(10.9)	(2.6)	板目	断面欠損	45	21	1314
W-7	構	B-3a	SD-02	下層	(44.7)	(20.3)	(5.4)	板目	下層部、上層欠損	45	21	934
W-8	構材?	B-2b	SD-02	下層	(14.1)	(3.0)	(2.7)	板目		45	22	306
W-9	構	C-3b	SD-02	下層	(16.4)	(8.1)	2.6	板目		45	22	1139
W-10	構	B-2b	SD-02	下層	61.3	(23.3)	2.9	板目	一部に断面欠損	46	21	306
W-11	構	B-2a	SD-02	下層	(33.8)	(18.9)	(1.5)	板目		46	21	778
W-12	構	B-3d	SD-02	下層	(20.4)	(8.6)	(1.3)	板目		46	22	214
W-13	構	B-2c	SD-03	下層	(38.4)	(5.9)	(2.7)	板目		46	22	592
W-14	舟形	B-3d	SD-02	下層	17.6	6.0	2.8	板目		46	22	818
W-15	建築部材?	B-3d	SD-02	下層	(29.7)	(3.8)	(1.6)	板目	断面加工	46	22	819
W-16	敷	B-3a	SD-02	下層	(9.0)	(6.5)	(3.3)	板目		46	22	249
W-17	加工木	B-3c	SD-02	下層	(54.4)	(10.7)	(9.9)	板目	先頭部、断面欠損	47	22	1016
W-18	建築部材?	C-1(長尾)	SD-03		(58.5)	(10.7)	(4.2)	板目	断面欠損、一部欠損	47	22	1304
W-19	用途不明木製品	B-2b	SD-02	下層	(43.6)	(8.75)	(1.9)	板目	通工4方角、断面欠損	47	22	273

遺物No.	種類	地区	遺構	出土層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	木取	材質・その他	測定No.	図録No.	注記No.
W-20	用途不明木製品	B-2 b	SD-02	下層	41.5	9.9	4.6	証目	加工4方向、内側面被く	47	22	272
W-21	用途不明木製品	B-2 b	SD-02	下層	(23.2)	(6.0)	(1.15)	証目	加工2方向、内側面被く	47	22	928
W-22	用途不明木製品	B-2 d	SD-03	上層	(32.1)	(8.5)	(3.8)	証目	同上と基本一致	47	22	451
W-23	鋸(刃)	B-1 b	SD-09		(43.0)	9.2	(2.2)	証目	先端欠損	48	22	650
W-24	鋸板	C-2 a	SP-177		12.7	12.7	1.9	証目	加工2方向	48	22	1651
W-25	鋸板	C-2 a	SP-177		13.8	3.6	2.4	証目	加工2方向	48	22	1651 1222
W-26	鋸板	A-1 d	SP-10		20.8	14.5	3.8	証目	両端・片側加工	48	22	1658
W-27	鋸板	C-2 a	SP-27		37.6	6.6	1.9	証目	両端加工・一部欠損	48	22	1652
W-28	鋸板	C-2 a	SP-27		41.5	5.2	1.8	証目	両端加工	48	22	1652

第5章 まとめにかえて

今回の調査の成果と今後に残された検討課題をあげてまとめにかえたい。

1. 検出遺構について

焼土・炭灰が存在する土坑について

SK-02、SK-03、SK-04にはいずれも焼土及び炭灰が遺構下部に近い部分に存在する。SK-03については遺構の形態が明確でなく重複等も考えられるが、SK-02とSK-04には焼土・炭灰の存在のほか、遺構の平面・断面形態に共通性がある。平面は不整形円形を呈し、断面は掘り方中位にテラスをもち中央部が窪む点である。一方、SK-02についてはテラス部分の最も外側に沿っていくつかピットを伴う可能性があり、SK-04にはそれが認められない点で異なる。ピットには遺構中央に向かってやや斜行するようなものも認められ、SK-02については、罎屋のような上部施設を伴う可能性も考えられる。さらに、隣接するSD-02・03との関係についてみると、SK-02はSD-04に切られておりSD-03との先後関係は不明であり、SK-04は、SD-02を切って構築されているものと判断しているが、重複する部分が小さく同時存在も否定しきれない。仮に同時存在とすると、水辺で火を焚いて何らかの作業を行なうための土坑であったとも推定できよう。

SX-01・SX-02について

調査区東隅で検出されたSX-01、SX-02は、直径が2m程度の周溝状の平面プランを持った遺構である。SX-01とSX-02とは、SX-01を拡張してSX-02が造られる関係にあると推定された。住居跡あるいは小屋のような建物の壁周溝とも考えられたが、周溝状の溝の内側でも外側でもあるいは溝内でも柱穴等は検出されなかった。遺構南側に途切れる箇所があり遺構の性格を考える上でのヒントになると思われる。

1間×1間の建物跡と細長い掘り方・礎板を持つピットについて

今回の調査では193基のピットが検出され、現地調査時及び資料整理時に建物のプランの検討・復元作業を行なっているが、復元できた建物のプランはいずれも1間幅が3～4mの1間×1間のものであった。住居跡であることも考えられたが、壁周溝となるようなものは全く検出されていない。このようなプランの建物跡は、周辺地域では川合遺跡で弥生時代後期の掘立柱建物跡が検出され、簡易な倉庫とされている(文献37)。今回の検出例とは時代的な違いがあるが、今回の検出例についても倉庫であろうと考えられる。

一方ピットの中には掘り方下部が細長く、掘り方の大きさ・形状に合わせて細長い礎板を設置するもの、またはその可能性があるもの(形態A)が130基ある。同様の形態のピットは有東遺跡の他地点の調査等でも検出例がある。建物に伴うものなのか、そうだとすればどのような上部構造が復元できるのか、あるいは建物以外の機能が考えられるのか、さらにこのような形態のピットは有東遺跡だけのものなのか検討課題としたい。

2. 出土遺物について

土器について

今回の調査では、当地域の弥生時代の土器編年の中でこれまであまり資料として蓄積されていない中期末葉と考えられる土器群が出土した。その中でもSD-02・03下層出土の土器群は、遺構の性格や発掘作業の精度上の問題で若干の混入が考えられやや一括性に欠けるものの、現状では中期末葉の様相をよく示す資料であると思われる。今後の有東遺跡や周辺遺跡の調査で今回の資料の一括性等を検証し得るような資料の出土に期待したい。

その他出土した土器のうちには特殊な性格を有する土器がいくつかみられる。

ひとつはSD-02下層出土の鹿絵線刻土器である(308;第31図、図版17)。残念ながら胴部上半の破片のみで、線刻の全容も明らかでないが、有東遺跡では第8次調査川跡4の出土例(図版17、文献12)について2例目である。

次に、SD-03上層ないしII d層出土の鳥形と考えられる異形土器がある(310;第31図、図版17)。上層とII d層のちょうど境目からの出土で、上層の遺物とすれば弥生時代中期末～後期初頭の、II d層だとすれば古墳時代前期のものとなる。同様の形態の鳥形土器としては、近年では清水市・原添1遺跡の古墳時代前期の出土例(文献38)が知られる。

さらにSD-01出土の注口様の特殊土器(39;第17図、図版10)については、清水市・長崎遺跡の弥生時代後期に属する多口壺(文献39)と同類のものと考えられる。

石器について

有東遺跡の他調査や同時期の他遺跡の発掘調査においても多量に出土する、川原石を用い敲打痕や線条痕が残る石器が今回の調査でも多量に出土した。敲打石、くぼみ石とされる一群の石器である。本報告書においては一括して扱ったが、石材の種類や形態、使用箇所・頻度等非常にバラエティに富んだ内容を持っている。資料の蓄積量も多くなった今検討が必要な石器群であろうと思われる。

3. 第14次調査地点の遺跡内での位置づけ

今回の調査では、第1検出面においては弥生時代終末～古墳時代前期の水田跡が、第2検出面においては、弥生時代中期後葉～弥生時代後期前半の居住域に伴う遺構群が検出された。第2検出面の遺構から出土した土器は、有東遺跡の中でも、比較段階の居住域であることを物語っている。中期後葉から後期前半にかけて集落の中で水田域となっていたものと考えられる。

以上今回の調査成果をもとに問題点や今後の検討課題を列挙した。調査報告段階で解決できなかった課題が山積みしてしまった。今後の新たな調査例に期待するとともに、機会を設けて残された課題について解決してゆきたい。

引用・参考文献

- 文献1 1930 静岡県『静岡県史』第1巻
- 文献2 1938 加藤明秀・芹澤長介「静岡市有東杉原馬場跡弥生式遺跡」(『考古学』第9巻9号東京考古学会)
- 文献3 1951 杉原莊介「静岡市有東第一遺跡」(『日本考古学年報1』日本考古学協会)
- 文献4 1951 後藤守一「静岡市有東第二遺跡」(『日本考古学年報1』日本考古学協会)
- 文献5 1985 静岡市教育委員会『静岡市遺跡地名表 静岡市遺跡地区』
- 文献6 1984 中野 有「登呂遺跡第6次調査と周辺遺跡」(『登呂遺跡発見40周年記念シンポジウム資料』登呂遺跡シンポジウム実行委員会)
- 文献7 1988 伊藤寿夫「有東遺跡」(『日本における稲作農耕の起源と展開—資料集—』日本考古学協会静岡大会実行委員会・静岡県考古学会)
- 文献8 1988 静岡市登呂博物館『特別展 静岡・清水の弥生時代—新出土品にみる農耕生活—』
- 文献9 1983 静岡県教育委員会『有東遺跡Ⅰ』静岡県文化財調査報告書第28集
- 文献10 1990 静岡市教育委員会「有東遺跡」(『静岡市の埋蔵文化財発掘調査の概要 平成元年度』)
- 文献11 1990 静岡市教育委員会「有東遺跡立会調査」(『静岡市の埋蔵文化財発掘調査の概要 平成元年度』)
- 文献12 1992 静岡市教育委員会「有東遺跡(第8次調査)」(『静岡市の埋蔵文化財発掘調査の概要 平成2年度』)
- 文献13 1993 静岡市教育委員会「有東遺跡(第10次調査)」(『ふちゆへるNo.1 平成3年度静岡市文化財年報』)
- 文献14 1993 静岡市教育委員会「有東遺跡(第11次調査)」(『ふちゆへるNo.1 平成3年度静岡市文化財年報』)
- 文献15 1993 静岡市教育委員会「有東遺跡(第12次調査)」(『ふちゆへるNo.1 平成3年度静岡市文化財年報』)
- 文献16 1995 静岡市教育委員会「有東遺跡(第13次調査)」(『ふちゆへるNo.3 平成5年度静岡市文化財年報』)
- 文献17 1997 静岡市教育委員会「有東遺跡(第14次調査)」(『ふちゆへるNo.5 平成7年度静岡市文化財年報』)
- 文献18 1997 静岡市教育委員会『有東遺跡 第15次調査報告書』静岡市埋蔵文化財報告40
- 文献19 1997 静岡市教育委員会「有東遺跡(第15次調査)」(『ふちゆへるNo.5 平成7年度静岡市文化財年報』)
- 文献20 1997 静岡市教育委員会「有東遺跡 第16次調査報告書」静岡市埋蔵文化財報告39
- 文献21 1997 静岡市教育委員会「有東遺跡(第16次調査)」(『ふちゆへるNo.5 平成7年度静岡市文化財年報』)
- 文献22 1987 静岡市教育委員会『有東櫓子遺跡』
- 文献23 1989 静岡市教育委員会『有東櫓子遺跡Ⅱ 第3次調査報告書』静岡市埋蔵文化財報告21
- 文献24 1983 加藤芳朗「有東遺跡をめぐる地形・地質的背景」(『有東遺跡Ⅰ』静岡県教育委員会)
- 文献25 1991 伊藤寿夫「静岡市有東遺跡における弥生時代集落の検討」(『静岡市登呂博物館報2—平成3年度—』静岡市立登呂博物館)
- 文献26 1990 平野晋郎「東海地方における水稲耕作の開始について」(『静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要Ⅲ』財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所)
- 文献27 1997 静岡市教育委員会「豊田遺跡(第6次調査)」(『ふちゆへるNo.5 平成7年度静岡市文化財年報』)
- 文献28 1996 静岡市教育委員会「小黑遺跡(第2次調査)」(『ふちゆへるNo.4 平成6年度静岡市文化財年報』)
- 文献29 1996 静岡市教育委員会「小黑遺跡出土の掘立柱建物跡」(『ふちゆへるNo.4 平成6年度静岡市文化財年報』)
- 文献30 1990 静岡市教育委員会『矩田遺跡』静岡市埋蔵文化財報告23
- 文献31 1986 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所『神明原・元宮川遺跡』
- 文献32 1989 静岡市教育委員会「谷津山1号墳」(『静岡市の埋蔵文化財発掘調査の概要 昭和62年度』)
- 文献33 1995 静岡市教育委員会「史跡片山鹿寺跡」(『ふちゆへるNo.3 平成5年度静岡市文化財年報』)
- 文献34 1997 静岡市教育委員会「史跡片山鹿寺跡」(『ふちゆへるNo.5 平成7年度静岡市文化財年報』)
- 文献35 1997 静岡市教育委員会「ケイセイ遺跡」(『ふちゆへるNo.5 平成7年度静岡市文化財年報』)
- 文献36 1996 静岡市『静岡市史・近代』
- 文献37 1990 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所『川合遺跡(遺構編)—本文編—』静岡県埋蔵文化財発掘調査報告書第25集
- 文献38 1995 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所『長崎遺跡Ⅳ(遺物・考察編)』静岡県埋蔵文化財発掘調査報告書第59集

- 文献39 1995 渡辺康弘「古墳時代前期の弧底形土器と鳥形土器の発見－郡藩「道跡」－」(『平成7年度ふるさと文化財ふれあい事業 静岡の原像をさぐる 発掘調査報告会』静岡県教育委員会・静岡県埋蔵文化財調査研究所)
- 文献40 1968 向坂嗣二・永原照「有東式土器」(『遠江考古学研究』遠江考古学研究会)
- 文献41 1982 中西道行「静岡市有東道跡出土の弥生中期の土器」(『クロッカス』第6号クロカス同人)

付載1 静岡市・有東遺跡出土の稲葉様遺体の生物学的分析

静岡大学農学部 佐藤洋一郎

はじめに

考古遺跡から出土する植物遺体はその時代の稲品種を推定するための数少ない物証であり、それをうまく分析することによって古代の環境や生産のあり方を知ることができる。従来植物遺体からは外見的な判断に基づく情報は得られてきたものの、それがもつ生物学的な情報は利用されることはなかった。しかし最近になって植物遺体からDNAを抽出する方法が確立され、得られる情報の質や量が格段に豊かになってきた。

DNAは、生物の設計図でありまた遺伝情報の担い手として機能する物質で、同じ個体の細胞がすべて同じセットをもつこと、およびDNAのさまざまな領域が種や個体に固有の構造を持つなどの性質がある。そのためDNAの構造によって種や個体の異同を調査するというような試みも最近では多く行われるようになってきた。またそれはすぐれた自己保存性と複製能力をもつため、生体のみならずミイラなど長期にわたって埋蔵された遺体中にもよく保存されている。

DNAのこうした性質を利用すれば、考古遺跡から出土した植物遺体を用い、従来にはない高精度で古代にあった種や品種を識別したり個体の異同などを推定できるものと期待される。実際、報告者らはすでに静岡県島田市・上反方遺跡の稲葉様遺体が稲の株であることの証明、中国江蘇省・草鞋山遺跡出土の炭化米(BC4000年)がジャポニカに属することの証明などを手がけ報告・公表済みである。

今回は静岡市・有東遺跡出土の葉様遺物を対象としてDNAを抽出し、それがどのような遺物の葉であるかを鑑定する作業を行った。

遺物の概要と分析の方法

調査・分析した遺物は有東遺跡第14次調査SD-02下層出土の葉状の植物遺体1体¹⁾と有東遺跡第15次調査出土の葉状の植物遺体1体²⁾の計2体である。いずれも、土器底と思われる部分に張り付いたか、または上に容器を置くなどの用途のゆえか、螺旋状に巻かれていたが、圧迫を加えられたため組織はくずれていた。

遺体はそれぞれをよくエタノールで洗浄した後DNAの抽出を行った。DNAの抽出はNakamura and Sato (1991)の方法によった。次に抽出したDNAの一部をPCR法によって増幅させた。通常少量の遺物からの増幅は1段階の増幅では成功しないことが多いので、報告者らは1度増幅したDNA断片をふたたび増幅させる2段階増幅を行っている。今回も2段階増幅を行うことで増幅を計った。

PCR法によるDNA増幅には、プライマーという増幅の開始点と終点を決める短いDNA断片が必要である。今回は、イネの場合、インディカとジャポニカを区別するDNA断片を増幅させるためのプライマーの2つを用いてDNA増幅を行った。このプライマーを用いた場合、稲ならば所定の大きさのDNAの断片が1種類だけ増幅され、寒天のゲル板上に少数の明瞭なバンドが形成される。インディカかジャポニカかはこのバンドのうちの1つの位置によって判定でき、また稲かどうかはこのバンドの有無で判定される。

なおDNA分析についての詳細、および実験条件などについては佐藤・中村(1992)、佐藤(1995)、中村(1995)などを参考にされたい。

分析結果およびその考察

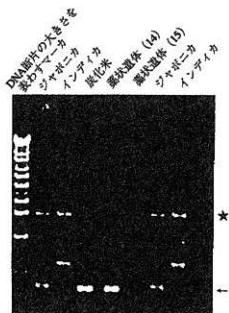
図に、稲のDNAを特異的に増幅するプライマーによって増幅されたDNA断片の電気泳動像を示す。図中、矢印の位置のバンドがジャポニカに固有のバンドであり、これがあればジャポニカであることを、なければインディカであるか、または稲以外の植物であることを示す。インディカの場合には、ゲルの上方、★印のついた位置にバンドが現われる。ここにバンドが見られない場合は稲以外の植物であることを示す。

図に示すように、他の弥生時代の遺跡において出土した炭化米のサンプルからは矢印の位置にバンドが得られ、これがジャポニカ品種の米であったことがわかる。薬状遺物2点のうち、第14次調査SD-02出土の1点（遺体X）からは矢印の位置に明瞭なバンドが得られたが、第15次調査出土のもう1点（遺体Y）からは明瞭なバンドを得ることはできなかった。よって、遺体Xはジャポニカ型稲の葉であったが、遺体Yは稲以外の植物のものであったと判断される。ただしその種の鑑定にはさらに詳細な分析を必要とする。

参考文献

- 中村一郎 1994 植物遺伝学実験法（谷坂隆俊編），朝倉書店，東京。
 佐藤洋一郎 1994 a 古代における稲品種の復元，日本文化財科学会1994年年会。
 佐藤洋一郎 1994 b 植物遺伝学実験法（谷坂隆俊編），朝倉書店，東京。
 佐藤洋一郎・中村一郎 1995 作物の起源を探る，「新しい研究法は考古学に何をもたらしたか」，クバプロ，205-212。

- 編者著注 1) 第14次調査で、B-2 b区、SD-02層土下層より出土した中期後半の埴形土器の底部片内面から検出された。蓋裏は渦状に巻かれ、土器に貼りつく様に出土した。
 2) 第15次調査で、第5号方形周溝墓の西側周溝内から出土した土器の内部から検出された。土器は、弥生時代中期後半の埴形土器の胴部1/3程度の破片で横位に倒れ、蓋裏は渦状に巻かれ、土器片下面に貼りつく様に出土した。（文献18、土器№44）



静岡市・有東遺跡出土の薬状遺体および炭化米のDNA分析

付載2 静岡市・有東遺跡第14次調査の自然科学分析(抄録)

株式会社 古環境研究所

I. 有東遺跡第14次調査の地質とテフラ

1. はじめに

有東遺跡第14次調査では、良好な地質断面が作成された。そこで地質調査とテフラ検出分析を合わせて行い、土層の層序を記載するとともに示標テフラの層位を明らかにして、土層の堆積年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象とした地点は、3ライン土層断面B-2区北端部(第1地点)、3ライン土層断面B-2区中央部(第2地点)、調査区東壁セクションB-3区(第3地点)の3地点である(図A参照)。

2. 地質土層序(略)

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

第1地点、第2地点、第3地点の3地点において採取された土壌試料13点を対象にテフラ検出分析を行った。テフラ検出分析の手順は、次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。第1地点では、試料番号1(V層)に少量の白色軽石が認められる。最大径は0.8mmで、スポンジ状に発泡している。この軽石は、その岩相から約2,800~2,900年前に伊豆天城火山の天城カワゴ平軽石(kg, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。

第2地点では、試料番号6(㊟層)から3(㊤層)にかけてスポンジ状に発泡した白色軽石(最大径1.3mm)が少量ずつ認められる。この軽石もkgに由来すると考えられる。一方試料番号2には、スコリアが少量認められる。スコリアは黒灰色及び赤色で、最大径は0.6mmである。

第3地点の3試料については、いずれの試料(試料番号1, 2, 3)にも、スポンジ状に発泡した白色軽石(最大径1.1mm)が認められる。とくに、最下位の試料番号3(㊤層)に比較的多くの軽石が含まれている。これらの軽石も、その特徴からkgに由来すると考えられる。なお試料番号1(㊤層)には、ごく少量の赤色スコリア(最大径0.9mm)が認められる。

4. 考察

テフラ検出分析の結果、第1地点においてはV層中にkg起源の軽石が認められ、その下位の試料からは検出されなかった。したがって、ここでは、V層中にkgの降灰層準のある可能性が考えられる。第2地点では試料番号6(㊟層)から3(㊤層)にかけて、また第3地点では基底部により多くのkg起源の軽石が検出された。これらテフラ検出分析の結果及びSD-02がV層を切って構築されていることから、SD-02の構築はkg降灰以降と考えられる。なおSD-02の覆土中に、より構築年代を限定できるよう

な特徴的なテフラ粒子は検出されなかった。

5. 小結

有東遺跡第14次調査区において地質調査及びテフラ検出分析を合わせて行った。その結果、天城カワゴ平軽石 (kg, 約2,800~2,900年前) および富士山起源のスコリアを検出することができた。kgとの層位関係により、SD-02の構築はkg降灰以降であることが明らかになった。

文献

町田 洋・新井勇夫 (1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会、276 p.

表1 有東遺跡第14次調査のテフラ検出分析結果

地点	試料	軽石			スコリア		
		量	色調	最大径	量	色調	最大径
第1地点 (3ライン土層面 B-2区北端)	1	+	白	0.8	—	—	—
	2	—	—	—	—	—	—
第2地点 (3ライン土層面 B-2区中央)	1	—	—	—	—	—	—
	2	—	—	—	+	黒灰、赤	0.6
	3	+	白	1.1	—	—	—
	4	+	白	1.0	—	—	—
	5	+	白	1.3	—	—	—
	6	+	白	0.9	—	—	—
	7	—	—	—	—	—	—
第3地点 (観望カワゴ B-3区)	1	+	白	0.9	+	赤	0.9
	2	+	白	0.6	—	—	—
	3	++	白	1.1	—	—	—

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない, 最大径の単位は, mm.

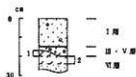


図1 3ライン土層断面B-2区北端部
(第1地点)の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

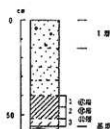


図3 調査区東壁セクション (SD02)
(第3地点)の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

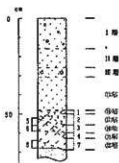


図2 3ライン土層断面B-2区北端部
(第2地点)の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号



土層凡例

II. 有東遺跡第14次調査のプラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、ガラスの主成分である珪酸（ SiO_2 ）が植物の細胞内に蓄積したものであり、植物が枯死した後も微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール（植物珪酸体）分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出し、その組成や量を明らかにする方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている。

有東遺跡第14次調査では、複数の土層について水田耕作土である可能性が考えられた。そこで、これらの土層における稲作跡の探査を目的にプラント・オパール分析を行うことになった。

2. 試料

調査地点は、調査区北壁A-3区において4地点（第1～4）、東壁B-3区において1地点（第5）の計5地点である（図A参照）。（以下試料の項略）

3. 分析方法

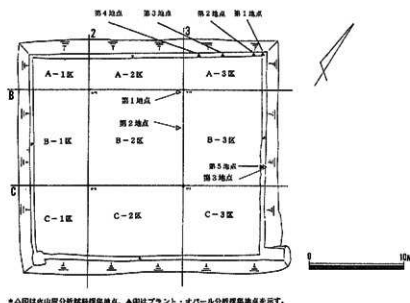
（略）

4. 分析結果

採取された試料すべてについて分析を行った結果、イネ、キビ族、ヨシ属、シバ属、ウシクサ族、タケ亜科の各分類群のプラント・オパールが検出された。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1と図3に示した。なお、シバ属を除く各分類群については推定生産量の算出も行った。主な分類群については巻末に顕微鏡写真を示した。（以下分析結果の項略、各地点の結果については表・図・写真参照）

5. 考察

稲作跡（水田跡）の検証や探査を行う場合、通常、イネのプラント・オパールが試料1gあたりおよそ5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、静岡平野ではこれまでの分析調査においてプラント・オパール密度が3,000個/g程度でも水田遺



図A 分析試料採取地点位置図

層が検出された例が多々あることから、ここでは判断の基準値を3,000個/gとした。また、その層にプラント・オパール密度のピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくくなり、その層で稲作が行われていた可能性はより確実なものとなる。以上の基準に基づいて各層ごとに考察を行う。

(1) I層

(略)

(2) II層

本層については、第1地点、第3地点、第5地点において分析を行った。イネのプラント・オパールは、II a層では3,000個/g (第1地点)、II b層では4,500個/g (第3地点) および3,100個/g (第1地点)、II c層では2,000個/g (第5地点)、II d層では3,800個/g (第5地点) といずれも高い密度である。したがって、これらの層においても稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

(3) III層

本層については、第1地点、第2地点、第3地点、第4地点において分析を行った。その結果すべての地点よりイネのプラント・オパールが検出された。このうち、第4地点ではプラント・オパール密度が5,000個/gと非常に高い値である。また、各地点における平均密度は2,500個/g程度と比較的高い値である。したがって、本層においても稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

(4) IV層

本層では、第1地点、第2地点、第3地点において分析を行った。イネのプラント・オパールは第1地点では5000個/g、第2地点では600個/g、とやや低い密度である。第2地点では直上のIII層がさらに低密度であることから、上層からの混入の危険性は考えにくい。したがって、本層では本地点もしくは近傍において稲作が行われていたものと考えられる。

(5) VII層

(略)

なお、本遺跡ではII層の時期にヨシ属が多く認められる。一般に、ヨシ属は湿地に、ウシクサ族やタケ亜科は比較的乾いた土壌の所に生育することが知られている。したがって、II層堆積時期の調査区一帯は概ね湿った環境であったことが推定される。

6. まとめ

有東遺跡第14次調査においてプラント・オパール分析を行い、稲作の探索を試みた。その結果、水田耕作土と考えられていたI層、II層、III層においてイネのプラント・オパールが高い密度で検出されたことから、これらの層が稲作跡である可能性が高いと判断された。なお、IV層についてはプラント・オパール密度がやや低いことから、調査地点あるいはその近傍において稲作が行われていたものと判断された。

文献

藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究I—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—, 考古学と自然科学, 9: 15-29

藤原宏志 (1979) プラント・オパール分析法の基礎的研究3—稲岡・板付遺跡(夜臼式) 水田および群馬・日高遺跡(弥生時代) 水田におけるイネ (*O. sativa* L.) 生産総量の推定—, 考古学と自然科学, 12: 29-41.

藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究5I—プラント・オパール分析による水田址の探索—, 考古学と自然科学, 17: 73-85.

表1 有東遺跡第14次調査 プラント・オパール分析結果

試料	A-3区第1										A-3区第2					A-3区第3					A-3区第4					B-3区第5				
	1-4	1-5	2-4	2-5	3-4	3-5	4-4	4-5	5-4	5-5	1-4	1-5	2-4	2-5	3-4	3-5	4-4	4-5	5-4	5-5	1-4	1-5	2-4	2-5	3-4	3-5	4-4	4-5	5-4	5-5
イモ	32	49	30	21	19	5					7	19	7	45	22	8	50				32	20	26							
カシ類(カシ類など)	6	25	54	23	6	14					30	15	27	50	7	8	13				8	13	30							
シロ類	6																													
ウツクサ類(ススキ類など)	8	14	13	15	19	9					6	23	18	22	12															
タケ類(タケ類など)	20	35	18	69	37	41					45	43	44	71	65	56	76	7	40	28	53									

測定内容表 (単位: kg/ha・%)																															
イモ	0.94	1.43	0.86	0.51	0.55	0.13					0.22	0.53	0.22	1.33	0.63	0.18	1.49				0.94	0.57	1.12								
(イモ類)	0.33	0.50	0.31	0.35	0.19	0.05					0.08	0.19	0.08	0.47	0.33	0.06	0.52				0.33	0.20	0.30								
カシ類(カシ類など)																															
シロ類	0.47	1.76	3.40	1.46	0.30	0.97					1.88	1.18	2.33	1.45	0.45	0.59	0.80				0.50	0.62	1.02								
ウツクサ類(ススキ類など)	0.08	0.17	0.15	0.18	0.23	0.11					0.08	0.27	0.24	0.27	0.15																
タケ類(タケ類など)	0.18	0.17	0.09	0.33	0.18	0.30					0.21	0.20	0.21	0.34	0.31	0.27	0.36	0.03			0.19	0.19	0.19								

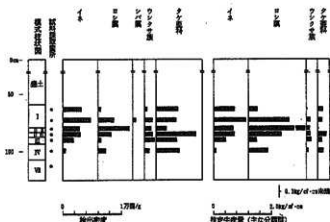


図1 有東遺跡第14次調査 (A-3区第1地点) におけるプラント・オパール分析結果
※主な分類群について表示

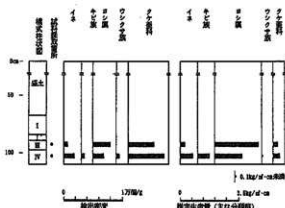


図2 有東遺跡第14次調査 (A-3区第2地点) におけるプラント・オパール分析結果
※主な分類群について表示

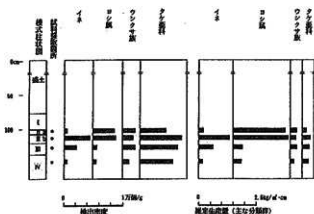


図3 有東遺跡第14次調査 (A-3区第3地点) におけるプラント・オパール分析結果
※主な分類群について表示

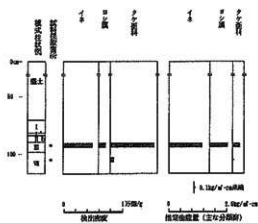


図4 有東遺跡第14次調査 (A-3区第4地点) におけるプラント・オパール分析結果 ※主な分類群について表示

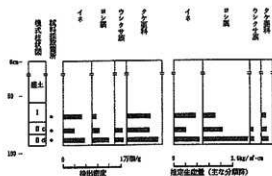
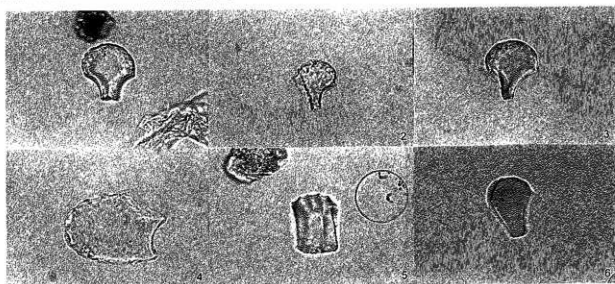


図5 有東遺跡第14次調査 (B-3区第5地点) におけるプラント・オパール分析結果 ※主な分類群について表示

No.	分類群	地点	検出率
1	イ	第1	江ノ原
2	イ	第2	江ノ原
3	イ	第4	江ノ原
4	シ	第1	江ノ原
5	タ	第3	江ノ原
6	ウツクサ	第3	江ノ原



植物珪酸体 (プラント・オパール) の顕微鏡写真



図 版



遺跡周辺航空写真（1991年8月撮影）

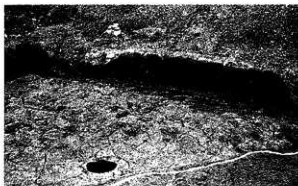
図版2 土層断面



調査区北側トレンチ土層断面（西から）



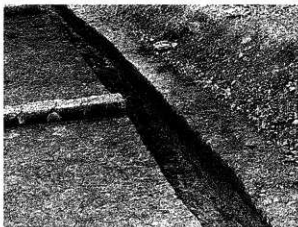
調査区北側トレンチ土層断面（東から）



調査区東側トレンチ土層断面（A-3区）



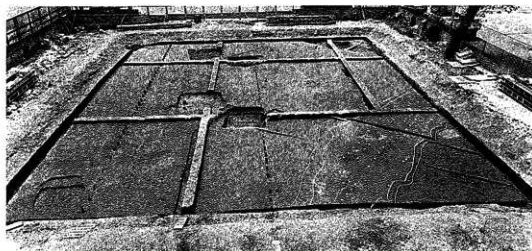
調査区東側トレンチ土層断面（南から）



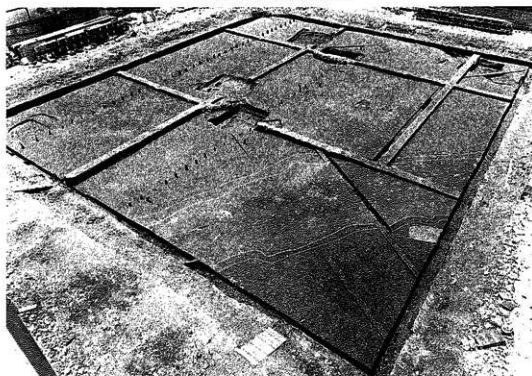
調査区南側トレンチ土層断面（C-1・C-2区）



調査区南側トレンチ土層断面（C-2区）



第1検出面全景（北東から）

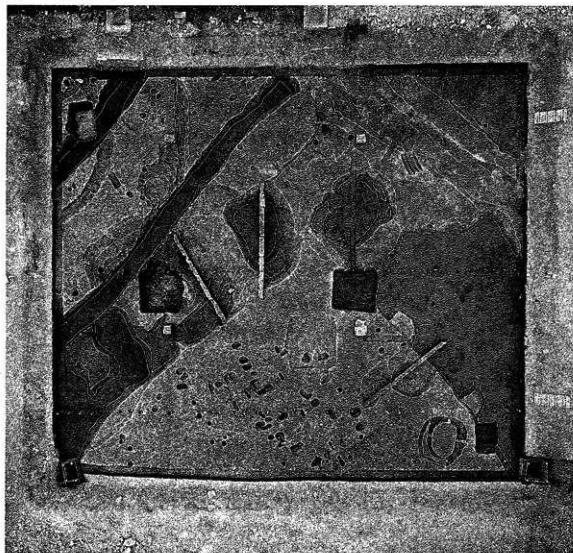


同上（北から）



畦畔1杭・芯材配置状況（東端）

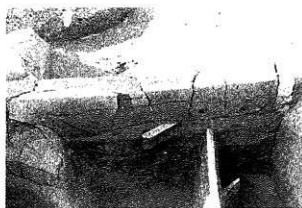
図版4 遺構(2)



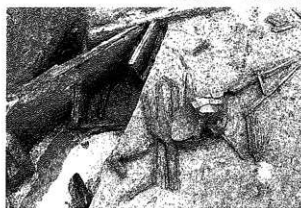
第2検出面全景（空中写真）



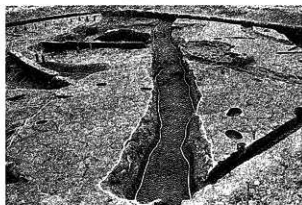
同上（北東から）



SD-01土層断面 (a-a'ライン)



SD-01遺物出土状態



SD-04完掘状況 (北から)



SD-04土層断面 (e-e'ライン)



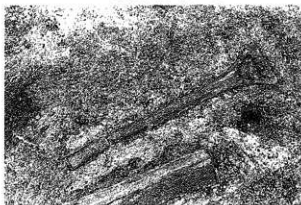
SD-04上層遺物出土状態 (A-2・B-2区)



SD-09完掘状況 (西から)



SD-09土層断面 (b-b'ライン)



SD-09櫓柄出土状態

図版6 遺構(4)



SD-02・03屈曲箇所（南西から）



SD-02土層断面（2ライン；矢印植物遺体）



SD-03土層断面（o-d'ライン）



同左（d-d'ライン）



SD-02遺物出土状態（B-3d区）



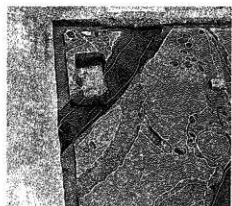
同左（B-3a区）



SD-03遺物出土状態（B-2区）



SD-03上層？鳥形土器出土状態（B-2a区）



SD-06完掘状況



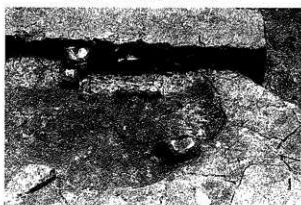
SD-06近景 (西から)



SX-01・02完掘状況 (南から)



SX-01・02検出状況 (南から)



SK-02焼土検出状況 (南西から)



SK-03焼土検出状況 (北西から)



SK-04焼土検出状況 (南から)

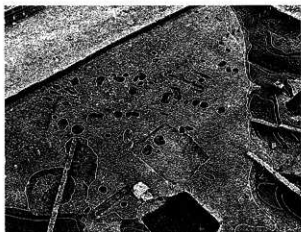


SK-04遺物出土状態および土層断面 (東から)

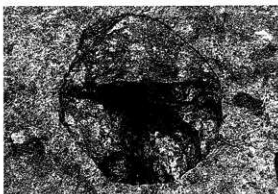
図版 8 遺構(6)



柱穴配置状況（北半；北東から）



柱穴配置状況（南半；北から）



SP103半截状況（南西から）



SP163・164完掘状況（南から）



SP139・140他完掘状況（南西から）



SP9・10他完掘状況（北から）



SP197・199他完掘状況（南から）



SP82完掘状況（北西から）



IV層除去状況（北西から）

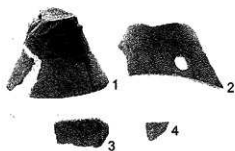


IV層下部有孔磨製石鏃出土状態（北東から）

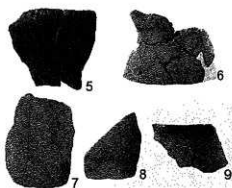


SD-02掘下げ作業

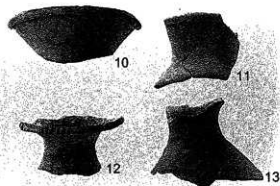
図版10 遺物(1) 土器



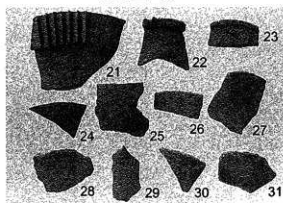
II層出土土器



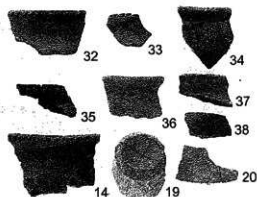
III層出土土器



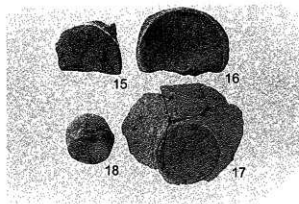
SD-01壺



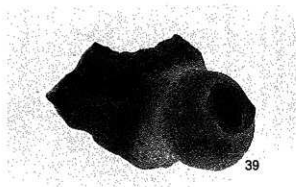
SD-01壺



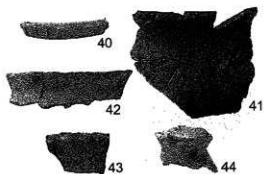
SD-01壺



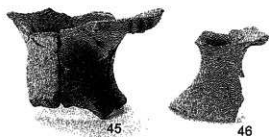
SD-01土器底部



SD-01特殊土器



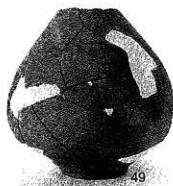
SD-06出土土器



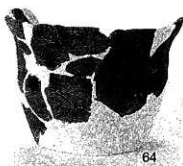
SD-04壺



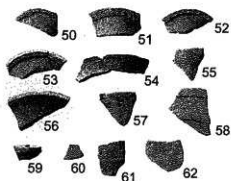
SD-04壺・高坏



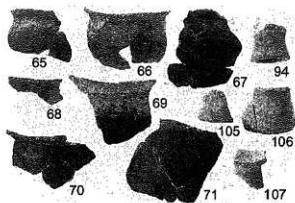
SD-04壺



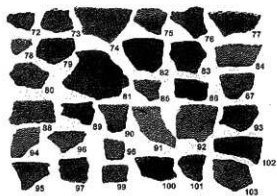
SD-04甕



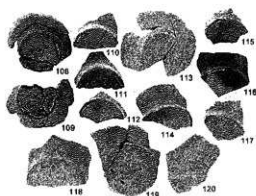
SD-04壺



SD-04甕



SD-04甕



SD-04土器底部

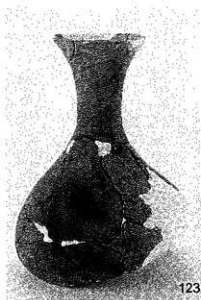
図版12 遺物(3) 土器



121



122



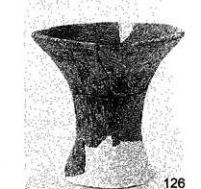
123



124



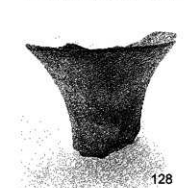
125



126



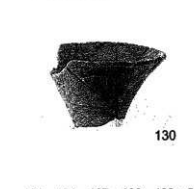
127



128



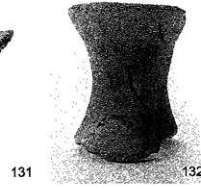
129



130



131



132

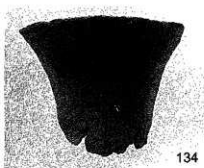
121, 124~127, 130~132 : SD-02出土

122, 123, 128, 129 : SD-03出土

図版13 遺物(4) 土器



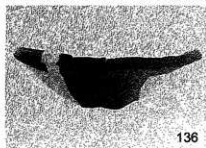
133



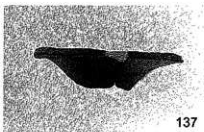
134



135



136



137



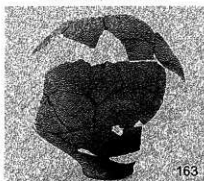
138



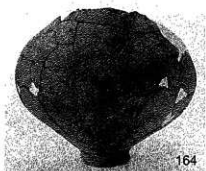
161



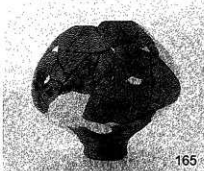
162



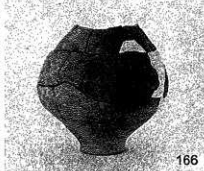
163



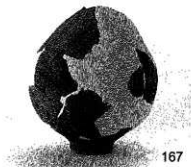
164



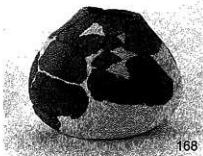
165



166



167



168

133~137, 163

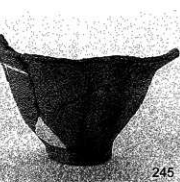
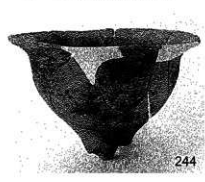
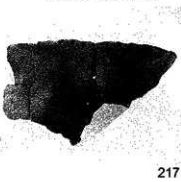
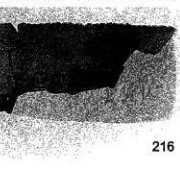
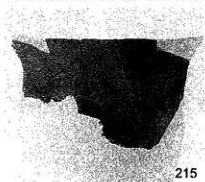
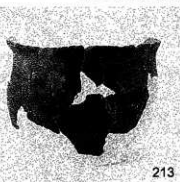
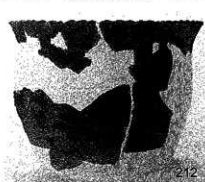
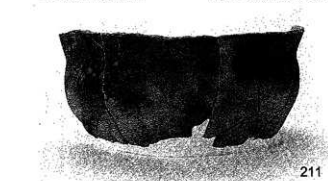
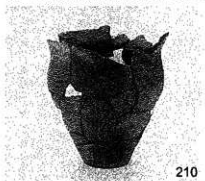
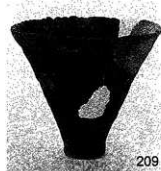
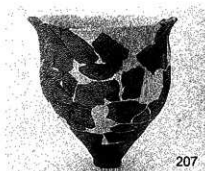
164, 166~168

以上SD-03出土

138, 161, 162,

165 以上SD-02出土

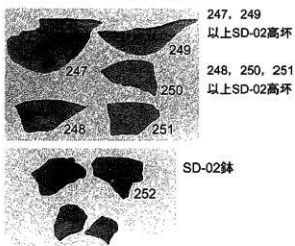
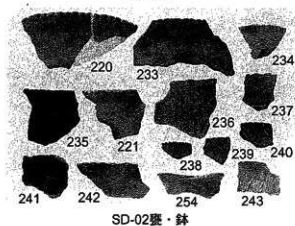
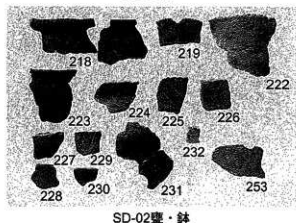
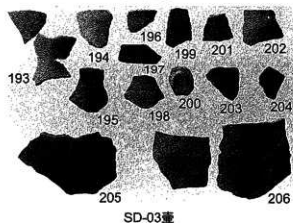
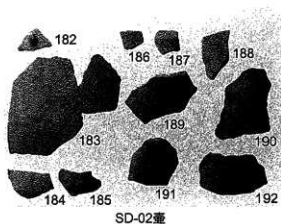
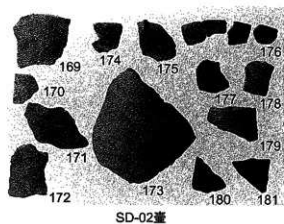
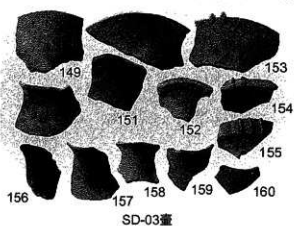
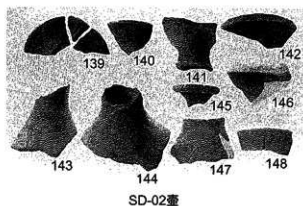
図版14 遺物(5) 土器



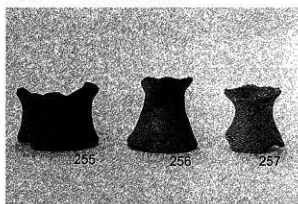
207~209,
211~217,
244, 246
以上SD-02出土

210, 245
以上SD-03出土

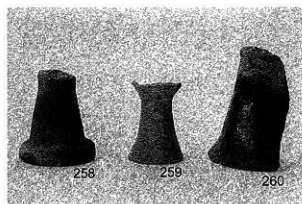
図版15 遺物(6) 土器



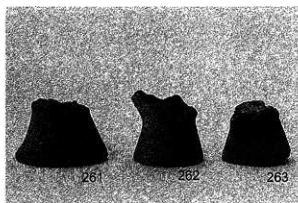
図版16 遺物(7) 土器



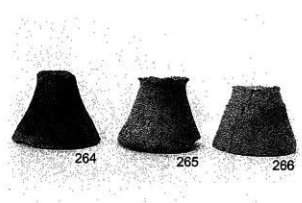
SD-02台付甕・高坏脚部



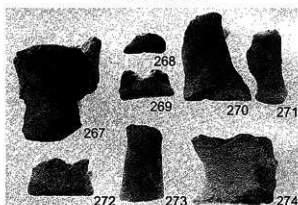
SD-02高坏脚部



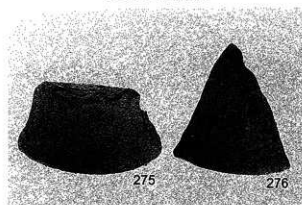
SD-03台付甕脚部



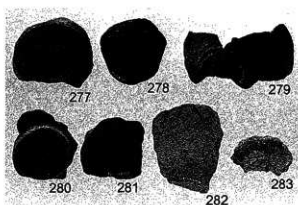
SD-03台付甕脚部



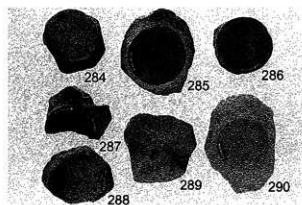
SD-02台付甕・高坏脚部



SD-03台付甕・高坏脚部

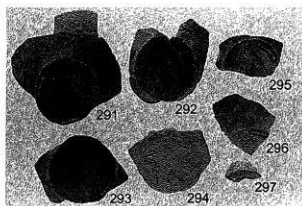


SD-02・03土器底部

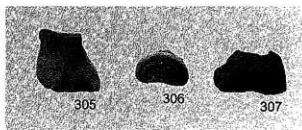


同左

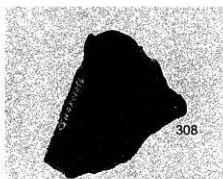
図版17 遺物(8) 土器



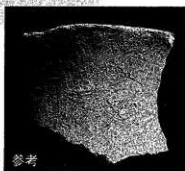
SD-02・03土器底部



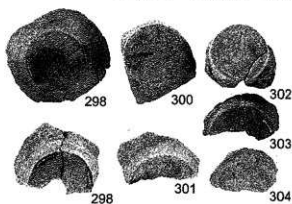
SD-03ミニチュア土器



鹿絵線刻土器
308 : SD-02
参考 : 第8次調査
川跡4出土



参考



同左



309



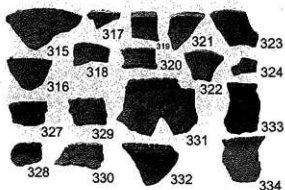
309

SD-03上層?鳥形土器

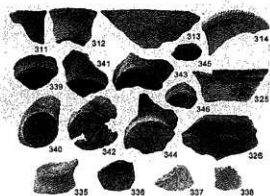


310

SD-03土製円盤

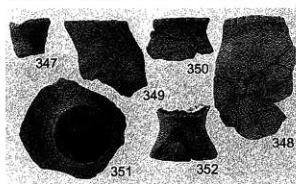


SD-09出土土器

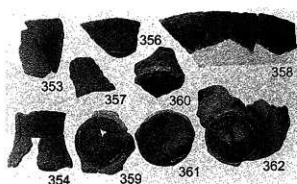


SD-09出土土器

図版18 遺物(9) 土器、石器



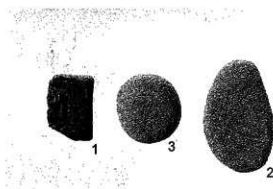
SK-02出土土器



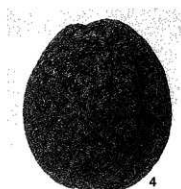
SK-04出土土器



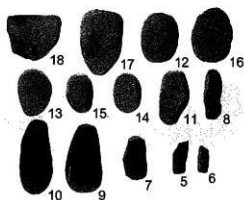
SK-04壺



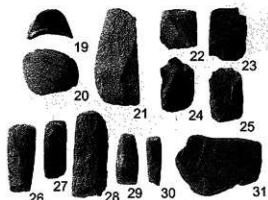
SD-01出土石器



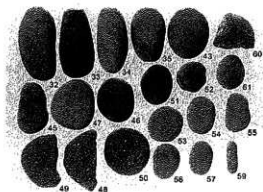
SD-01出土石錘



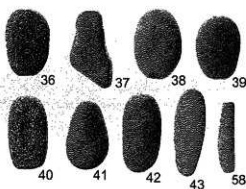
SD-04出土石器



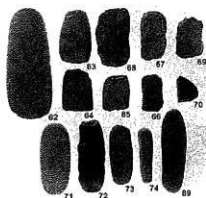
SD-04出土石器



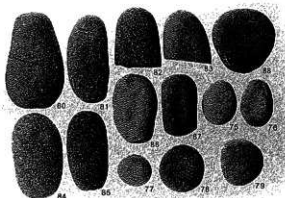
SD-02出土石器



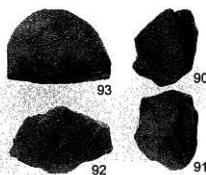
SD-02出土石器



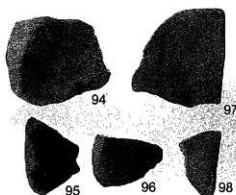
SD-03出土石器



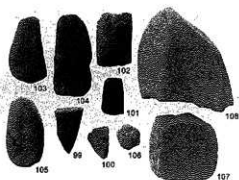
SD-03出土石器



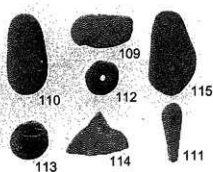
SD-03出土石器



SD-03出土石器

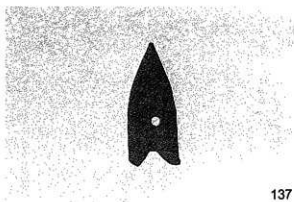


SD-09出土石器



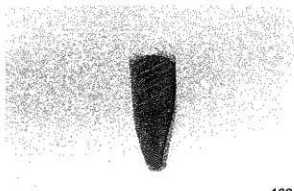
SD-05・06, SK-02・03・04出土石器

図版20 遺物(Ⅱ) 石器、木製品



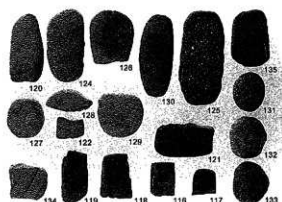
IV層下部出土有孔磨製石鏃

137

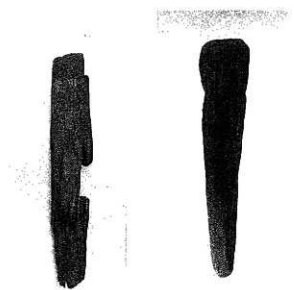


遺構外出土石器

136



遺構外出土石器

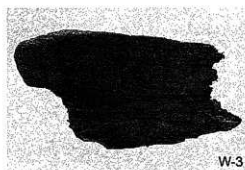


W-1

畦畔1建築部材

W-2

畦畔1建築部材



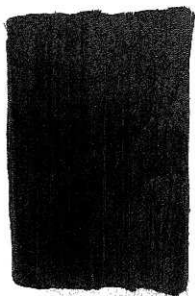
W-3

畦畔1欄



W-4

SD-01着柄式鋤先



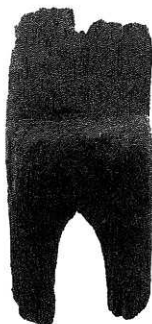
SD-01槽

W-5



W-6

SD-04建築部材



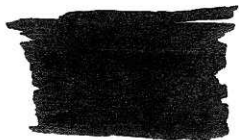
SD-02梯子

W-7



W-10

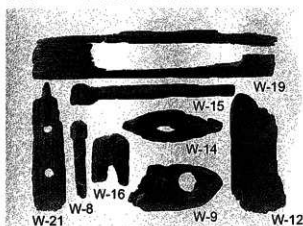
SD-02把手付槽



SD-03槽

W-11

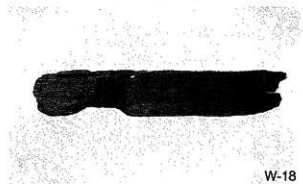
図版22 遺物(13) 木製品



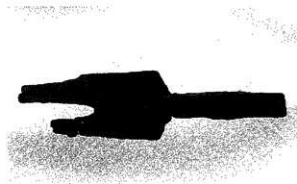
SD-02・03出土木製品



SD-02出土木製品

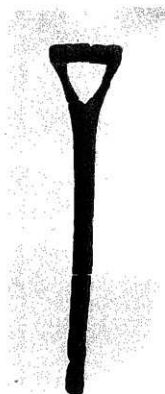


SD-03建築部材



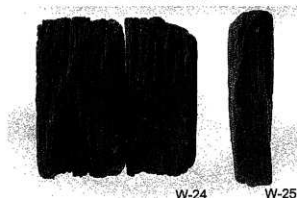
W-22

SD-03出土木製品



W-23

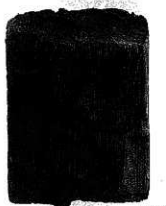
SD-09鋤柄



W-24

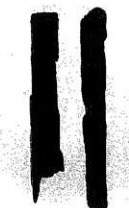
W-25

SP177礎板



W-26

SP10礎板



W-27

W-28

SP164礎板

有 東 遺 跡

第14次調査報告書

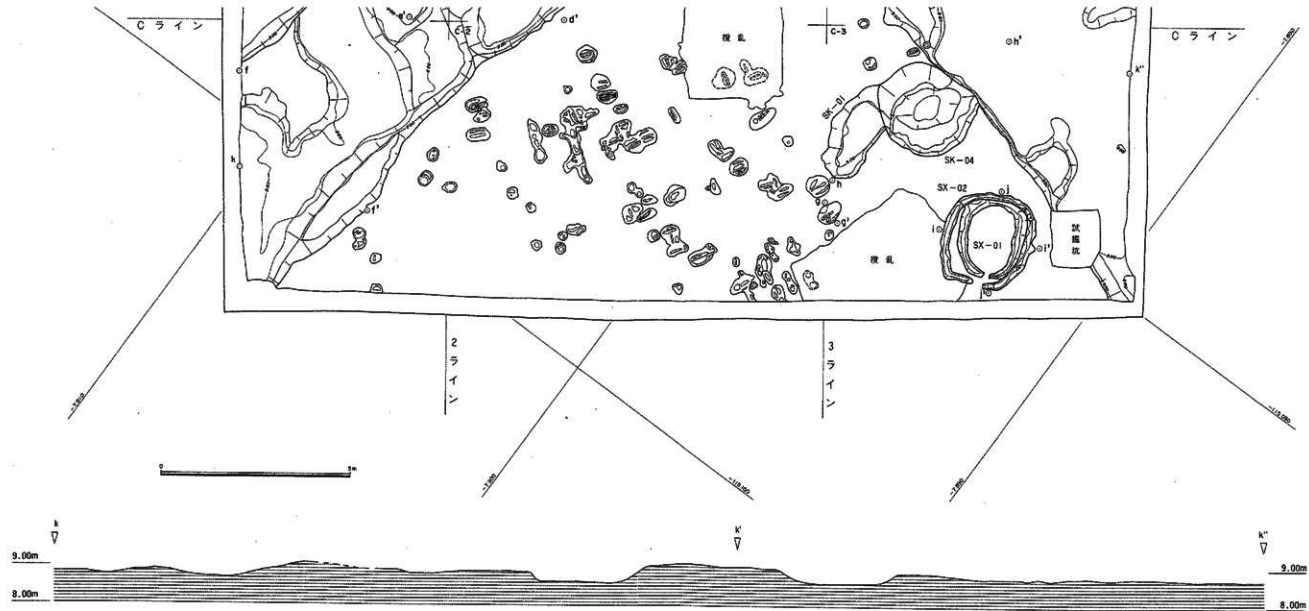
付図1 第2検出面遺構配置図及びSD-02・03縦断エレベーション図

1997

静岡市教育委員会







報 告 書 抄 録

ふりがな	うとういせき							
書名	有 東 遺 跡							
副書名	第14次調査報告書							
巻次	—							
シリーズ名	静岡市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	43							
編著者名	天石夏実・菊田 宗							
編集機関	静岡市教育委員会							
所在地	〒420 静岡県静岡市追手町5番1号 TEL054-254-2111代							
発行年月日	西暦1997年9月1日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° / ′	東経 ° / ′	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
うとういせき 有東遺跡	静岡県静岡市 豊田三丁目	22201	164	34° 57′ 40″	138° 24′ 48″	19950420 ～ 19950626	675㎡	遊技場建設 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
有東遺跡	—	古墳時代	—	須恵器				
	生産	弥生時代後期～古墳時代前期	水田 (杭打畦畔2列以上)	弥生土器 古式土師器				
	集落	弥生時代中期～後期	溝 土坑 柱穴 (建物跡)	弥生土器 石器・石製品 木製品				

静岡市埋蔵文化財調査報告 43

有 東 遺 跡

第14次調査報告書

平成9年9月1日

編集 静岡市教育委員会
発行
印刷 株式会社 三 創

